Ⅲ 教 育 課 程

Ⅲ　教育課程

１　教育課程の基本概念について

教育内容の基本となる概念を三つの方向から示す。一つ目は、看護の基本概念である人間、健康、環境、看護である。二つ目は、看護の専門職業人として最も基本的かつ重要な倫理についてである。三つ目は、看護師を目指して入学してくる学生の学習及び学習者についてである。学習については、主に教育方法を選択する際、重要である。

２　看護の基本概念

＜人間＞

1) 人間は身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体である。
2) 人間は有機体であり、個別的な存在である。
3) 人間は自然・社会・文化的環境との相互作用により、絶えず変化している。
4) 人間は胎生期から老年期までのいずれかの成長・発達段階にある。
5) 人間は感情、理性、思考能力をもち、様々なニーズをみたしながら行動している。
6) 人間は自らの責任において意思決定し、自己実現へ向かう存在である。

＜健康＞

1) 健康状態には最良の健康から死までの連続的なレベルがあり、たえず流動的である。
2) 健康状態は、個体要因と自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用において成り立つ。
3) 望ましい健康状態とは、その人の身体的・精神的・社会的機能が十分に発揮され、自己実現を目指し、環境に適応している状態である。
4) 健康は人間の基本的権利であって、個人特有なものであり、人それぞれが自ら創るものである。

＜環境＞

1) 環境は、内部環境（個体)、外部環境（自然・社会・文化的環境）の総体である。
2) 外部環境は、内部環境に直接的・間接的に作用し、健康状態を変化させる。
3) 外部環境は、人間生活によって影響をうける。

＜看護＞

1) 看護は、あらゆる成長・発達段階にある個人とその家族または集団を対象とする。
2) 看護は、対象となる人と看護者との人間関係を基盤として行う。
3) 看護は、その人がその人らしくあるように、健康の保持・増進・回復、そして生死にかかわる。
4) 看護は、対象の健康に関する問題を解決するために系統的に働きかける。
5) 看護は、対象の生活行動を支えセルフケアができるようにする科学的な根拠に基づいた実践である。
6) 看護は、専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームの中で調整の役割を担う。

３　看護の倫理

1) 看護倫理とは、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重することである。
2) 看護倫理に基づく実践は、国籍、人種・民族、信条、年齢、性別、社会的地位、経済的状態、ライフスタイル、健康問題の性質にかかわらず、対象となる人々に平等に看護を提供する。
3) 看護者および看護を学ぶ学生は、看護倫理に基づく以下の行動をする。
   ①人々の知る権利及び自己決定の権利を尊重し、その権利を擁護する。
   ②看護実践において守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めるとともに、これを他者と共有する場合は適切な判断のもとに行う。
   ③看護の対象となる人々を保護し安全を確保する。
   ④自己の責任と能力を的確に認識し、実践した看護について個人としての責任を持つ。
   ⑤より良い看護を行うために、自分自身の能力の発展に努める。
   ⑥より良い看護を行うために、看護者自身の心身の健康に努める。

４　学習

1）学習とは、知識や技術を獲得しようとする行動とその過程である。
2）学習とは、学習者が自ら課題を見いだして、学ぶことである。
3）学習は、知性だけでなく、その人のパーソナリティーの形成に影響し、人生を充実させ成長させる。
4）学習は、個人が経験をとおして自己を変化させ、成長させていく過程である。
5）学習者（自己および他者）のこれまでの経験は、貴重な学習資源である。
6）学習者の経験を積み重ねることは、知識の応用や行動の統合が図られ、状況判断を可能にする。
7）学習者は、自ら望んで看護師を目指し、自己の目標を達成することができる。

５　各分野の科目構成について

教育課程は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の５分野で構成されている。

基礎分野は専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づけ、幅広いものの見方、考え方、そして、看護職に必要な人間の理解につながる科目を設定した。

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の３つの教育内容から構成されている。「人体の構造と機能」は、「形態機能学」とした。人間にとって、動く、食べる、息をする、トイレに行くなどの日常生活行動は生命活動につながる営みであり、看護師が行う日常生活行動の援助は、生命維持に関わる援助である。看護が人間の生命の営みを助ける重要な意味を持っていることや援助を行う上での根拠の理解につながるようにした。「疾病の成り立ちと回復の促進」は、疾病を持つ人々へ個別的な看護を提供するために必要となる基礎的な知識として「疾病と治療」「薬理学」「治療論」で構成した。「健康支援と社会保障制度」は、人間を生活者としてとらえ、その人にとって意味のある支援が提供できるような科目「保健医療論」「社会福祉論「関係法規」とした。

看護学の科目は、基礎分野、専門基礎分野の学習を踏まえ、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野と積み上げていく構成となっている。

専門分野Ⅰ（基礎看護学）は、専門分野Ⅱや統合分野の土台となる看護の概念や役割、看護実践の基礎となる看護技術、および問題解決の方法などについて学習する。特に看護技術は、対象の生活を整えるのに必要な技術として強化し、臨床看護技術では、対象の状態を理解することで専門分野Ⅱ、統合実習の学習が効果的になるよう設定した。臨地実習は、対象理解と日常生活援助を目的に１年次に行う。

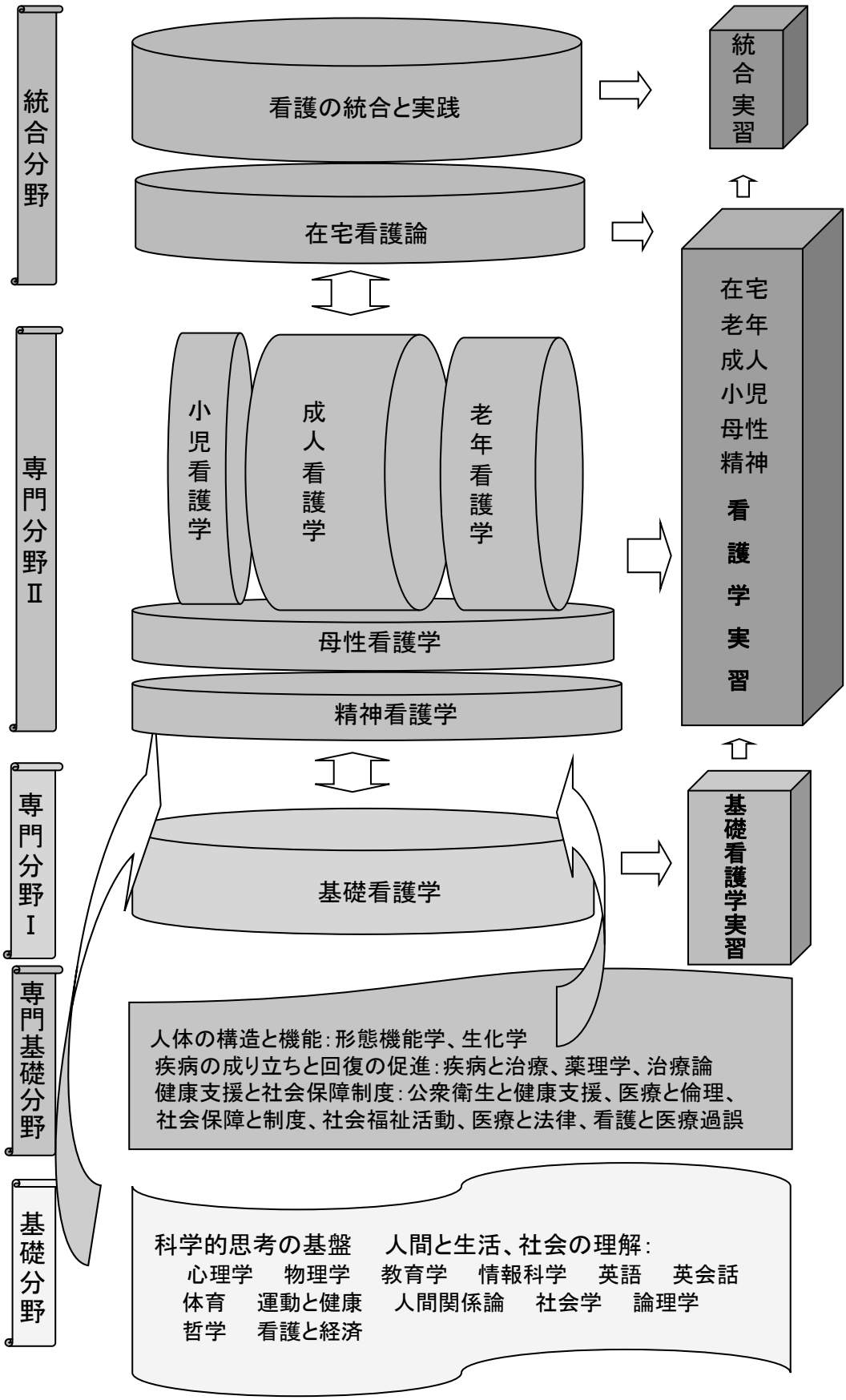
専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」そして「精神看護学」の５つの各看護学で構成され、成長発達に応じた各期の特徴とその健康上の問題を明らかにし、それぞれの多様なニーズや特徴を踏まえながら、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する。特に、看護実践能力の向上を図るために、演習や校内実習を強化し、臨地実習では、健康上の問題を抱えた人の看護を、主に医療施設を中心に、他職種との連携・協働を図りながら実践できるよう科目設定した。

統合分野は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」の２つで構成されている。現在、医療を取り巻く環境は急激に変化しており、医療制度改革によって医療サービス提供のあり方は在宅に大きくシフトしている。「在宅看護論」では、在宅でその人らしく生き、最期をまっとうできるような援助ができる内容とし、在宅における基礎的な看護技術を身につけ、他職種と協働する中での看護の役割を理解できるよう科目設定した。とりわけ、終末期医療を含む在宅での看取りに関する項目を充実させた。一方、急性期医療では、効果的・効率的で安全な病院経営が求められており、その点への看護師の参画も増えつつある。そこで、「看護の統合と実践」では、組織における看護師の役割を理解するとともに、より臨床に近い擬似環境での学習を充実させ、緊急・突発用件の発生時に適切な判断・対応ができるよう、演習や校内実習を強化する。看護の統合の臨地実習は、各看護学での実習を踏まえ、3年間の終盤において、実務に即した実習を行う。

演　　習	：グループ制の小集団学習で学生が主体的に学ぶ授業である。
校内実習	：看護技術の授業で用いる。看護技術の理論の確認、基礎的・基本的な技術の習得、看護の原理・原則の適応の仕方、看護師としての態度を学ぶ。講義と臨地実習の架け橋となる。

6　学科目の構成図と考え方

学科目の構成図　97単位（3000時間）



7 51回生 履修科目及び進度表

分野	教育内容	授業科目		学則 単位	学則 時間	第1学年 前期	第1学年 後期	第2学年 前期	第2学年 後期	第3学年 前期	第3学年 後期
基礎分野	人間と人間生活の基盤・科学的思考の基盤	心理学		1	30	←					
		論理学		1	30		→				
		社会学		1	30	←	→				
		教育学		1	30			←	→		
		人間関係論		1	15	←	→				
		情報科学		1	30	←	→				
		物理学		1	15	←	→				
		英語		1	30	←	→				
		英会話		1	30					←	→
		体育		1	30					←	→
		運動と健康		1	30					←	→
		哲学		1	30	←	→				
		看護と経済		1	30					←	→
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	日常生活行動と生物学的生命	1	30	←	→				
		形態機能学Ⅱ	生命活動と免疫機構	1	30	←	→				
		形態機能学Ⅲ	日常生活行動の構造と機能1	1	30	←	→				
		形態機能学Ⅳ	日常生活行動の構造と機能2	1	30	←	→				
		形態機能学Ⅴ	日常生活行動と生理的機能	1	30		↔				
		生化学		1	30	←	→				
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の発生と病理的変化		1	30		↔				
		感染症と微生物		1	30		↔				
		疾病と治療Ⅰ	呼吸器・循環器・腎泌尿器の疾病と治療	1	30		↔				
		疾病と治療Ⅱ	自己免疫・内分泌代謝・消化器の疾病と治療	1	30		↔				
		疾病と治療Ⅲ	脳神経・運動器の疾病と治療	1	30			←	→		
		疾病と治療Ⅳ	感覚器・血液リンパ・女性生殖器の疾病と治療	1	30				↔		
		薬理学		1	30		↔				
		治療論Ⅰ	放射線・手術と麻酔	1	30			←	→		
		治療論Ⅱ	栄養学・リハビリテーション	1	30			↔			
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生と健康支援		1	15				↔		
		医療と倫理		1	15					←	→
		社会保障と制度		1	15				↔		
		社会福祉活動		1	15					←	→
		医療と法律		1	15					←	→
		看護と医療過誤		1	15					←	→
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論		1	30	←	→				
		看護の理論		1	15		←	→			
		基本となる技術Ⅰ	人間関係成立の技術	1	30	←	→				
		基本となる技術Ⅱ	対象把握の技術	1	30		←	→			
		基本となる技術Ⅲ	医療・療養環境を整える技術	1	30	←	→				
		基本となる技術Ⅳ	看護過程	1	30		←	→			
		生活を整える技術Ⅰ	食事・排泄を整える技術	1	30	←	→				
		生活を整える技術Ⅱ	活動休息・清潔を整える技術	1	30	←	→				
		診療に伴う技術		1	30		←	→			
		臨床看護技術		1	30			←	→		
		基礎看護学実習		3	135		↔	↔			
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論		1	30		←	→			
		セルフマネジメントに向けての看護		1	30			↔			
		健康危機状況における看護		1	30			←	→		
		セルフケア再獲得に向けての看護		1	30			←	→		
		緩和ケアを必要とする人の看護		1	30				↔		
		成人の看護過程		1	30			←	→		
	老年看護学	老年看護学概論		1	30		↔				
		高齢者の日常生活援助技術		1	30			←	→		
		高齢者の健康障害時の看護		1	30				↔		
		高齢者の看護過程		1	15			←	→		
	小児看護学	小児看護学概論		1	30		↔				
		小児の発達段階に応じた看護		1	15			←	→		
		小児の健康状態に応じた看護		1	30			←	→		
		治療を受ける小児の看護		1	30			←	→		
	母性看護学	母性看護学概論		1	30		↔				
		妊婦・産婦の看護		1	30			←	→		
		褥婦・新生児の看護		1	30			↔			
		周産期にある人のハイリスク時の看護		1	15			←	→		
	精神看護学	精神看護学概論		1	30		↔				
		精神に障がいをもつ人の理解		1	30			←	→		
		精神看護の基本技術		1	15			←	→		
		精神に障がいをもつ人の生活と看護		1	30			←	→		
	臨地実習	成人看護学実習		6	270				↔	←	→
		老年看護学実習		4	180			↔	↔	←	→
		小児看護学実習		2	90				↔	←	→
		母性看護学実習		2	90				↔	←	→
		精神看護学実習		2	90				↔	←	→
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論		1	15		↔				
		在宅療養者の健康状態に応じた看護		1	30			←	→		
		在宅看護技術		1	30			←	→		
		在宅看護過程		1	15				↔		
	看護の統合と実践	看護管理と研究		1	30					←	→
		災害看護		1	15					←	→
		診療の補助技術における安全		1	30					←	→
		臨床看護の実践		1	15					←	→
	臨地実習	在宅看護論実習		2	90				↔	←	→
		看護の統合実習		2	90						↔
講義時間合計				74	1965	35	990	27	705	12	270
実習時間合計				23	1035	3	135	8	360	12	540
総合計				97	3000	38	1125	35	1065	24	810

8 51回生 教育計画及び評価単位

科目			(科目詳細)	時間数 指定規則 単位数	学則 単位数	学則 時間数	授業時間(学年別) 第1学年 単位数	第1学年 時間数	第2学年 単位数	第2学年 時間数	第3学年 単位数	第3学年 時間数	実施時期	評価単位 講義時間	試験時間	試験 点数配分		試験 時間配分	評価方法	看護師実務経験のある教員(予定)	看護師以外の実務経験のある教員※(予定)
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と人間生活の基盤	心理学		13	1	30	1	30					4～9月	28	2	100		50	筆記		
		論理学			1	30	1	30					9～12月	28	2	100		50			
		社会学			1	30	1	30					4～9月	28	2	100		50			
		教育学			1	30			1	30			4～9月	28	2	100		50	筆記・レポート等		
		人間関係論			1	15	1	15					4～6月	14	1	100		50	筆記		
		情報科学			1	30	1	30					4～10月	30	時間内	100		50			
		物理学			1	15	1	15					4～7月	14	1	100		50			
		英語			1	30	1	30					4～9月	28	2	100		50			
		英会話			1	30					1	30	4～12月	28	2	100		50			
		体育			1	30					1	30	4～11月	30	時間内	100		50	実技等		
		運動と健康	レクリエーション		1	30					1	30	4～12月	24	2	100	80	40	筆記等		
			スポーツ医学										4～12月	4			20	10			理学療法士
		哲学			1	30	1	30					4～9月	28	2	100		50	筆記		
		看護と経済	経済学		1	30					1	30	4～12月	18	2	100	70	35			
			医療と経済										4～12月	10			30	15		○	
	基礎分野＜講義小計＞＊			13	13	360	8	210	1	30	4	120									
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	イントロダクション		1	30	1	30					4月	2	2	100	－	－	筆記		
			解剖学用語・細胞										4～7月	6			25	12			医師
			恒常性(血液・血管・血圧)										4～7月	20			75	38			医師
		形態機能学Ⅱ	調節機構・生体の防御機構		1	30	1	30					4～7月	28	2	100		50			医師
		形態機能学Ⅲ	骨格・筋・関節・反射		1	30	1	30					5～9月	12	2	100	40	20			医師
			動く(姿勢・日常生活での動き)										5～9月	2			8	4		○専任教員	
			息をする										5～9月	6			21	11		○	
			見る・聞く・話す										5～9月	4			15	7		○専任教員	
			お風呂に入る										5～9月	2			8	4		○専任教員	
			眠る										5～9月	2			8	4		○専任教員	
		形態機能学Ⅳ	腹部消化管の構造と機能		1	30	1	30					5～9月	6	2	100	20	10			医師
			食べる										5～9月	6			20	10		○専任教員	
			トイレに行く										5～9月	10			40	20		○専任教員	
			性のしくみ										5～9月	6			20	10		○専任教員	

科目			(科目詳細)	時間数 指定規則 単位数	学則 単位数	学則 時間数	授業時間(学年別) 第1学年 単位数	第1学年 時間数	第2学年 単位数	第2学年 時間数	第3学年 単位数	第3学年 時間数	実施時期	評価単位 講義時間	試験時間	試験 点数配分	試験 時間配分		評価方法	看護師実務経験のある教員(予定)	看護師以外の実務経験のある教員※(予定)
専門基礎分野		形態機能学Ⅴ	解剖見学	15	1	30	1	30					11～1月	4	レポート	100	10	－	筆記		医師
			オリエンテーション・まとめ										11～1月	6			－	－		○専任教員	
			血圧と心電図										11～1月	4			18	－		○専任教員	
			食べる										11～1月	4			18	－		○専任教員	
			トイレに行く										11～1月	4			18	－		○専任教員	
			息をする										11～1月	4			18	－		○専任教員	
			見る・聞く・話す										11～1月	4			18	－		○専任教員	
		生化学			1	30	1	30					4～7月	28	2	100		50			
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の発生と病理的変化	生体の反応と疾病の機序		1	30	1	30					7～10月	14	2	100	50	25			医師
			生命の危機										7～10月	6			20	10			医師
			上級救命救急講習										7～10月	8			30	講習中			救命救急士
		感染症と微生物	感染症		1	30	1	30					9～12月	4	2	100	15	7			臨床検査技師
			感染症対策										9～12月	4			15	7		○	
			微生物										9～12月	20			70	35			臨床検査技師
		疾病と治療Ⅰ	呼吸器(内科)		1	30	1	30					9～10月	8	2	100	30	15			医師
			呼吸器(外科)										11月	4			10	5			医師
			循環器										11月	10			40	20			医師
			腎臓										12月	6			20	10			医師
		疾病と治療Ⅱ	自己免疫		1	30	1	30					11月	4	2	100	15	8			医師
			内分泌代謝(内分泌)										11月	4			10	8			医師
			内分泌代謝(代謝)										11月	4			15	8			医師
			消化器(内科)										11～12月	10			40	16			医師
			消化器(外科)										11～12月	6			20	10			医師
		疾病と治療Ⅲ	脳神経(内科)		1	30			1	30			6～9月	12	2	100	40	20			医師
			脳神経(外科)										6～9月	6			20	10			医師
			運動器										4～6月	10			40	20			医師
		疾病と治療Ⅳ	眼科		1	30			1	30			7～10月	4	時間外	100	14	7			医師
			耳鼻咽喉科										7～10月	4			14	7			医師
			皮膚科										7～10月	4			14	7			医師
			歯科										7～10月	4			12	6			医師
			血液リンパ										7～10月	6			20	10			医師
			泌尿器										7～10月	4			14	7			医師
			女性生殖器										7～10月	4			12	6			医師
		薬理学			1	30	1	30					10～2月	28	2	100		50			薬剤師

科目			(科目詳細)	時間数 指定規則 単位数	時間数 学則 単位数	時間数 学則 時間数	授業時間(学年別) 第1学年 単位数	第1学年 時間数	第2学年 単位数	第2学年 時間数	第3学年 単位数	第3学年 時間数	実施時期	評価単位 講義時間	試験時間	試験 点数配分	試験 時間配分		評価方法	看護師実務経験のある教員(予定)	看護師以外の実務経験のある教員※(予定)
		治療論Ⅰ	放射線治療		1	30			1	30			4～5月	8	2	100	30	15	筆記		放射線技師
			麻酔治療										4月	6			20	10			医師
			手術療法										4～5月	10			30	15			医師
			内視鏡的治療										4月	2			10	5			医師
			検査										5月	2			10	5			臨床検査技師
		治療論Ⅱ	臨床栄養学		1	30			1	30			4～6月	12	2	100	45	22			管理栄養士
			リハビリテーション										4～6月	12			45	22			理学療法士
			言語療法										5月	4			10	5			言語療法士
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生と健康支援		6	1	15			1	15			5～7月	14	1	100		50			医師
		医療と倫理	健康と疾病		1	15					1	15	4～7月	4	1	100	30	15			医師
			医療倫理・生命倫理										4～7月	10			70	35			医師
		社会保障と制度			1	15			1	15			9～11月	14	1	100		50			
		社会福祉活動			1	15					1	15	4～7月	14	1	100		50			
		医療と法律			1	15					1	15	4～7月	14	1	100		50			
		看護と医療過誤			1	15					1	15	4～7月	14	1	100		50			
	専門基礎分野＜講義小計＞＊			21	21	540	11	330	6	150	4	60									
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論		1	1	30	1	30					4～7月	28	2	100		50	筆記	○専任教員	
		看護の理論		1	1	15	1	15					9～12月	14	1	100		50	筆記・レポート	○専任教員	
		看護の基本となる技術Ⅰ	看護技術の概念	1	1	30	1	30					4月	2	2	100	5	5	筆記	○専任教員	
			コミュニケーション										4～7月	16			55	25		○専任教員	
			看護倫理										4～7月	10			40	20		○専任教員	
		看護の基本となる技術Ⅱ		1	1	30	1	30					9～12月	28	2	100		50		○専任教員	
		看護の基本となる技術Ⅲ	環境	1	1	30	1	30					4～7月	10	2	100	35	17		○専任教員	
			活動休息										4～7月	10			35	17		○専任教員	
			感染予防										4～7月	8			30	16		○専任教員	
		看護の基本となる技術Ⅳ	看護過程	1	1	30	1	30					9～2月	28	2	100		50	筆記・レポート等	○専任教員	
		生活を整える技術Ⅰ	食事	1	1	30	1	30					6～10月	10	2	100	40	25	筆記	○専任教員	
			排泄										6～10月	18			60	25		○専任教員	
		生活を整える技術Ⅱ	清潔・衣生活	1	1	30	1	30					5～9月	24	2	100	80	40		○専任教員	
			安楽										5～9月	4			20	10		○専任教員	
		診療に伴う技術	薬物療法	1	1	30	1	30					10～1月	28	2	100		50	筆記・技術試験	○専任教員	
		臨床看護技術		1	1	30			1	30			4～9月	28	2	100		50	筆記	○専任教員	
	基礎看護学＜講義小計＞＊			10	10	285	9	255	1	30											
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	人間関係の成立・日常生活支援の実習	1	1	45	1	45											実習評価表		
		基礎看護学実習Ⅱ	看護過程の展開・対象の日常生活支援の実習	2	2	90	2	90													
	基礎看護学＜実習小計＞☆			3	3	135	3	135													
	＜専門分野Ⅰ小計＞			13	13	420	12	390	1	30											

科目			(科目詳細)	時間数 指定規則 単位数	時間数 学則 単位数	時間数 学則 時間数	授業時間(学年別) 第1学年 単位数	第1学年 時間数	第2学年 単位数	第2学年 時間数	第3学年 単位数	第3学年 時間数	実施時期	評価単位 講義時間	試験時間	試験 点数配分		試験 時間配分	評価方法	看護師実務経験のある教員(予定)	看護師以外の実務経験のある教員※(予定)
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論		1	1	30	1	30					9～12月	28	2	100		50	筆記	○専任教員	
		セルフマネジメントに向けての看護	呼吸器障害・肝機能障害のある人の看護	1	1	30	1	30					12～1月	14	2	100	50	35		○専任教員	
			糖代謝・腎機能障害のある人の看護										12～1月	14			50	15		○	
		健康危機状況における看護	生命の危機状況にある人の看護	1	1	30			1	30			4～7月	8	2	100	30	15		○専任教員	
			手術療法を受ける人の看護										4～7月	20			70	35		○専任教員	
		セルフケア再獲得に向けての看護	セルフケアの概念・循環器障害・脊損を持つ人の看護	1	1	30			1	30			6～9月	14	2	100	60	30		○専任教員	
			脳血管障害を持つ人の看護										6～7月	6			20	10		○	
			乳房切除を受ける人の看護										9～10月	4			10	5		○	
			ストマ造設術を受ける人の看護										6～9月	4			10	5		○	
		緩和ケアを必要とする人の看護	緩和ケアを必要とする人の看護	1	1	30			1	30			8～11月	20	2	100	70	35		○専任教員	
													8～11月	4			－	－			医師
			緩和ケアの看護介入の実際										8～11月	4			30	15		○	
		成人の看護過程	セルフマネジメントの看護過程	1	1	30			1	30			5～10月	14	2	100	50	25	筆記・レポート等	○専任教員	
			周手術期の看護過程										7～10月	14			50	25		○専任教員	
		成人看護学＜講義小計＞		6	6	180	2	60	4	120											
	老年看護学	老年看護学概論		1	1	30	1	30					9～12月	28	2	100		50	筆記	○専任教員	
		高齢者の日常生活援助技術		1	1	30			1	30			4～7月	28	2	100		50		○専任教員	
		高齢者の健康障害時の看護	高齢者の健康障害時の看護	1	1	30			1	30			9～11月	20	2	100	70	36		○専任教員	
			褥瘡予防と創傷処置										9～11月	4			15	7		○	
			認知症高齢者への看護										9～11月	4			15	7		○	
		高齢者の看護過程		1	1	15			1	15			4～7月	14	1	100		50	筆記・レポート等	○専任教員	
		老年看護学＜講義小計＞		4	4	105	1	30	3	75											
	小児看護学	小児看護学概論		1	1	30	1	30					9～1月	28	2	100		50	筆記	○専任教員	
		小児の発達段階に応じた看護		1	1	15			1	15			4～6月	14	1	100		50		○専任教員	
		小児の健康状態に応じた看護	小児の臨床医学	1	1	30			1	30			4～7月	14	2	100	50	25			医師
			健康障害された小児と家族の看護										4～7月	14			50	25		○専任教員	
		治療を受ける小児の看護	さまざまな状況にある小児と家族への看護	1	1	30			1	30			5～12月	18	2	100	70	35		○専任教員	
			小児の看護過程										9～12月	10			30	15	筆記・レポート等	○専任教員	
		小児看護学＜講義小計＞		4	4	105	1	30	3	75											

科目			(科目詳細)	時間数 指定規則 単位数	時間数 学則 単位数	時間数 学則 時間数	授業時間(学年別) 第1学年 単位数	第1学年 時間数	第2学年 単位数	第2学年 時間数	第3学年 単位数	第3学年 時間数	実施時期	評価単位 講義時間	試験時間	試験 点数配分	試験 時間配分		評価方法	看護師実務経験のある教員(予定)	看護師以外の実務経験のある教員※(予定)
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学概論	概念・倫理・統計と法律	1	1	30	1	30					9～1月	14	2	100	50	25	筆記	○	
			各期の特徴、健康問題と看護										9～1月	14			50	25		○専任教員	
		妊婦・産婦の看護	妊娠の看護	1	1	30			1	30			4～7月	16	2	100	60	30	筆記	○専任教員	
			産婦の看護										5～6月	10			40	20		○	
			マタニティエクササイズ										6月	2			－	－		○	
		褥婦・新生児の看護	褥婦の看護	1	1	30			1	30			6～10月	8	2	100	30	14	筆記・レポート等	○専任教員	
			新生児の看護										6～10月	10			35	18		○専任教員	
			褥婦の看護過程										9～11月	10			35	18		○専任教員	
		周産期にある人のハイリスク時の看護		1	1	15			1	15			9～10月	14	1	100		50	筆記	○専任教員	
		母性看護学＜講義小計＞		4	4	105	1	30	3	75											
	精神看護学	精神看護学概論		1	1	30	1	30					9～12月	28	2	100		50	筆記	○専任教員	
		精神に障がいをもつ人の理解	精神障がいの特徴と治療	1	1	30			1	30			4～9月	16	2	100	70	35		○	
			精神に障がいを持つ人の看護										4～9月	12			30	15		○	
		精神看護の基本技術	心理教育・SST	1	1	15			1	15			6～10月	6	1	100	40	20	筆記・レポート等	○	
			コミュニケーション										6～10月	8			60	30		○専任教員	
		精神に障がいをもつ人の生活と看護	精神に障がいを持つ人の生活と看護	1	1	30			1	30			6～9月	18	2	100	70	35	筆記・レポート等	○専任教員	
			事例展開										9～11月	10			30	15		○専任教員	
		精神看護学＜講義小計＞		4	4	105	1	30	3	75											
	専門分野Ⅱ＜講義小計＞＊			22	22	600	6	180	16	420											
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護実習	2	2	90			8	360	8	360							実習評価表		
		成人看護学実習Ⅱ	健康の危機状況にある人の看護実習	2	2	90															
		成人看護学実習Ⅲ	緩和ケアを必要とする人の看護実習	2	2	90															
		老年看護学実習Ⅰ	高齢者の日常生活援助実習	2	2	90															
		老年看護学実習Ⅱ	健康障害のある高齢者への看護実習	2	2	90															
		小児看護学実習		2	2	90															
		母性看護学実習		2	2	90															
		精神看護学実習		2	2	90															
		専門分野Ⅱ＜実習小計＞☆		16	16	720			8	360	8	360									
	＜専門分野Ⅱ　小計＞			38	38	1320	6	180	24	780	8	360									

科目			(科目詳細)	時間数 指定規則 単位数	時間数 学則 単位数	時間数 学則 時間数	授業時間(学年別) 第1学年 単位数	第1学年 時間数	第2学年 単位数	第2学年 時間数	第3学年 単位数	第3学年 時間数	実施時期	評価単位 講義時間	試験時間	試験 点数配分		試験 時間配分	評価方法	看護師実務経験のある教員(予定)	看護師以外の実務経験のある教員※(予定)
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論		1	1	15	1	15					12～2月	14	1	100		50	筆記	○専任教員	
		在宅療養者の健康状態に応じた看護	健康状態に応じた看護	1	1	30			1	30			6～11月	24	2	100	85	43	筆記・レポート等	○専任教員	
			在宅療養者の終末期看護										9～10月	4			15	7		○	
		在宅看護技術		1	1	30			1	30			6～11月	28	2	100		50	筆記	○専任教員	
		在宅看護過程		1	1	15			1	15			9～11月	14	1	100		50	筆記	○	
		在宅看護論＜講義小計＞		4	4	90	1	15	3	75											
	看護の統合と実践	看護管理と研究	看護管理	1	1	30					1	30	4～9月	8	1	100	25	25	筆記・レポート等	○	
			研究										4～9月	8			25	25		○専任教員	
			ケーススタディ										4～9月	13			50	レポート発表等		○専任教員	
		災害看護		1	1	15					1	15	7～9月	14	1	100		50	筆記	○	
		診療の補助技術における安全	ヒューマンエラーとリスクマネージメント	1	1	30					1	30	4～7月	4	2	100	15	8		○専任教員	
			採血の実際										4～7月	4			15	7		○専任教員	
			薬剤エラー・ポンプ										4～7月	8			30	15		○専任教員	
			ハイリスク状況										4～7月	6			20	10		○専任教員	
			チューブ										4～7月	6			20	10		○専任教員	
		臨床看護の実践		1	1	15					1	15	9～10月	14	1	100		50		○専任教員	
		看護の統合と実践＜講義小計＞		4	4	90					4	90									
	統合分野＜講義小計＞＊			8	8	180	1	15	3	75	4	90									
	臨地実習	在宅看護論実習		2	2	90			2年or3年		2	90							実習評価表	○専任教員	
		看護の統合実習		2	2	90					2	90								○専任教員	
		統合分野＜実習小計＞☆		4	4	180					4	180									
	＜統合分野 小計＞			12	12	360	1	15	3	75	8	270									
講義時間合計＊				74	74	1965	35	990	27	705	12	270									
臨地実習時間合計☆				23	23	1035	3	135	8	360	12	540									
総合計				97	97	3000	38	1125	35	1065	24	810									
課外	音楽					6		2		2		2									

※看護師以外の実務経験のある教員については、医療関係職種のみ算定した。
○:専任教員以外

基　礎　分　野

基礎分野

【目的】

幅広い教養と感性を培い、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性の育成を目指す。

また、看護の対象である人間を洞察、理解する力を養い、専門職業人としての問題解決能力を高める。

【目標】

1　生命の尊厳や倫理を学び、看護の対象である人間を理解できる。

2　人間を生活者としてとらえ、様々な生活環境の中で自立した存在としての理解を深める。

3　他者との関わりを通して、自己・他者理解を深め、コミュニケーション能力を高める。

4　専門職業人として自律的、主体的に行動できるための総合的判断能力を養う。

5　生涯学習の必要性を理解し、自ら学び続ける力を養う。

6　社会の動向に目を向け、国際化、情報化社会に対応できる能力を養う。

【構成および計画】

	授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期			備考
				1年	2年	3年	
必修科目	心　理　学	1	30	1(30)			
	論　理　学	1	30	1(30)			
	社　会　学	1	30	1(30)			
	教　育　学	1	30		1(30)		
	人間関係論	1	15	1(15)			
	情報科学	1	30	1(30)			
	物　理　学	1	15	1(15)			
	英　　語	1	30	1(30)			
	英　会　話	1	30			1(30)	
	体　　育	1	30			1(30)	
	運動と健康	1	30			1(30)	
選択科目	哲　　学	1	30	1(30)			
	看護と経済	1	30			1(30)	
合　計		13	360	8(210)	1(30)	4(120)	

授 業 科 目 ：心 理 学
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科 目 目 標 ：
1 人間の心・行動に関する基礎知識や人間理解の方法について学び、自己及び他者の心・行動について理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
14回(28h) 心理学の概要	1 心理学を学ぶ意義を理解する。	1 心理学とは 1)心理学と人間行動 2)心理学の歴史	*外部講師
感覚・知覚の心理	2 感覚・知覚を理解する。	2 感覚・知覚の心理 1)五感 2)知覚と錯覚	
記憶の心理	3 記憶のしくみを理解する。	3 記憶の心理のしくみ 1)記憶と思考 2)忘却	
感情・動機の心理	4 感情・動機・欲求を理解する。	4 感情・動機の心理 1)感情・情緒 2)動機・欲求と行動変容 3)マズローの欲求階層説	
性格・知覚の心理	5 性格・知能を理解する。	5 性格・知能の心理 1)性格の類型 2)パーソナリティの障害 3)知能 4)知的障害	
発達の心理	6 発達する心理を理解する。	6 発達の心理 1)エリクソンの発達課題 2)認知・言語・思考・行動の発達 （乳児・児童・青年・成人・老年） 3)各時期における発達的・心理的問題	
社会集団の心理	7 社会・集団の心理を理解する。	7 社会・集団の心理 1)社会的スキル 2)自己理解・他者理解 3)集団の心理	
健康の心理と人間関係	8 ストレス対処と健康の関連を理解する。	8 健康の心理と人間関係 1)ストレスと健康 2)患者の心理：闘病におけるストレス対処 3)看護におけるストレス対処と予防	
心理アセスメントと面接	9 心理アセスメントと面接技法を理解する。	9 心理アセスメントと面接 1)心理アセスメントとインフォームド・コンセント 2)面接の技法	
カウンセリングと心理療法 （試験2h）	10 カウンセリングと心理療法について理解する。	10 カウンセリングと心理療法 1)精神分析とクライエント中心療法 2)行動療法 3)グループアプローチ	

授 業 科 目 ：論 理 学
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科 目 目 標 ：
1 看護における論理の重要性を認識する。
2 論理的で正確、明瞭な言語操作の実践力を養う。
3 クリティカル・シンキングのスキル・態度を習得し、思考の合理性を評価する力を養う。

単 元	目 標	内 容	備 考
14回（28h） 論理学オリエンテーション	1 論理の定義および価値を理解する。	1 論理とは何か 1)論理の定義 2)形式論理からクリティカル・シンキングへの系譜 3)看護におけるクリティカル・シンキングの重要性	*外部講師
論理的な言語表現	2 正確・明瞭に言語を操作する力を習得する。 3 文章の接続表現に着目し、適切に使う力を養う。	2 正確・明瞭な言語操作 1)正確・明瞭な話し方（相手意識・場面意識・目的意識） 2)正確な明瞭な書き方（表記・表現） 3 文章の接続表現 1)論証・付加・説明・逆接・限定・対比の関係 2)接続表現が示す論の流れ・論のまとまり・論の軽重	論説文・新聞記事等の使用
論理の源流	4 形式論理で論理の源流を辿る。	4 形式理論 1)概念（概念の種類・概念の定義方法の種類） 2)判断 ・命題の種類とベン図 ・命題の否定、逆・対偶・裏 3)推理（三段論法） 4)形式論理が示唆する日常言語における論理の問題点	
クリティカル・シンキングの基本	5 クリティカル・シンキングのスキル・態度を習得し、自らの思考の合理性を評価する力を養う。	5 クリティカル・シンキングのスキル・態度の習得 1) 推論の分析 ・論証（理由と結論）を見定める ・論証の構造 ・仮定（暗黙の理由）を見定める 2) 推論の評価 ・理由・仮定の真実性・信頼性 ・理由から結論への導出の妥当性 ・結論のための十分な証拠 3) 含意の理解 ・結論を引き出す ・含意の評価 4) 明確で厳密な言語の使用	テキスト（問題集）の使用
クリティカル・シンキングの応用 （試験2h）	6 クリティカル・シンキングのスキル・態度を活用する力を養う。	6 クリティカル・シンキングのスキル・態度の実の場への応用 1)論理的、正確、明瞭に主張する 2)自他の主張の合理性をクリティカルに評価し合う 3)より合理的な主張を再構築する	集団による思考・相互評価

授 業 科 目 ：社 会 学
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科 目 目 標 ：
1 社会的存在としての人間を理解するとともに、多様な社会関係の中での物の見方・考え方を理解できる。
また、社会の中での自己の役割を理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
14回（28h） 社会学	1 社会学の視点で社会を読み取る	1）社会学 ・社会学の方法、守備範囲 ・社会、社会化 2）集団・個人 ・地位と役割、役割葛藤 ・役割の重層構造、中心的役割 3）行為 ・行為の目的、欲求 ・相対的幸福、予言の自己成就	＊外部講師（28h） ＊専門職集団 ＊病人役割 ＊医療従事者の役割 ＊マズロー
現代社会の諸相	2 社会現象を通して社会変動を読み取る	1）少子高齢社会 ・人口学的視点、従属人口指数 ・少子化・高齢化の背景 2）性の多様化 ・性の多様性、ジェンダー	
家族の諸相 （試験2h）	3 家族の変遷、家族問題を通して社会を読み取る	1）家族の変遷 ・家制度、戦中・戦後の家族、女性の時代、現代家族 2）現代家族のかかえる問題 ・家族の中の暴力 DV、児童虐待、高齢者（老親）虐待 3）子どもをもつということ ・生殖補助医療の現状	＊戦争と看護婦 ＊医療従事者の役割

授　業　科　目　：教　育　学
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　教育の内容・構造を概観し学ぶことにより、看護と教育の共通点やかかわりを明確にし、看護師になろうとする自らの取り組みに還元できるようにする。

単　元	目　標	内　容	備　考
14回（28h）		看護と教育をテーマに全回を構成する。	＊外部講師
発達と学習Ⅰ （教育の意義）	1　発達と学習という視点から教育の目的と意義を理解する。	1)「人が発達すること」「人が学ぶこと」の意味を考えながら、人の成長を概観する。 2)生涯学習の重要性が増していることを理解する。	
発達と学習Ⅱ	2　各々の発達期の特徴を理解し、学習することの意味を考える。	3)学習とは何か。学習の構成要素について知る。 4)乳幼児期から児童期までの特徴を整理し、振り返る。 5)青年期の特徴を整理し、課題を考える。 6)家庭の役割と家庭教育の在り方について考える。	
学校教育史	3　学校教育史を概観し教育の在り方を考える。	7)明治から戦中までの学校教育史を紐解き、教育の在り方を考える。 8)戦後からの学校教育史を紐解き、今後の教育の在り方を考える。	
人権と情報教育	4　人権課題を理解し意欲的な取り組みをしようとする意欲を喚起する。	9)人権教育の重要性を理解し、自らの問題として、社会に目を向ける。 10)情報化社会の光と影に目向け、情報教育の必要性を理解する。	
評価と支援	5　行動の見取りと評価について学び、支援の在り方について考える。	11)行動の見取りと評価、そしてこれに基づく支援について学ぶ。 12)具体事例を基に、教育相談について学ぶ。	
特別支援教育	6　発達障害について知り、支援に結び付け、看護の在り方を考える。	13)発達障害とその治療教育について概観し、具体的な支援の在り方を考える。 14)特別支援学校の具体的な取り組みを知り、看護に活かすことのできる支援について考え、本授業のまとめとする。	
（試験2h）			

授 業 科 目 ：人 間 関 係 論
単位（時間数）：1単位（15時間）　　1年次
科 目 目 標 ：
1 自分のコミュニケーション・スタイルについて意識し、人間関係の発展、改善のための自己コントロールについて考える。

単 元	目 標	内 容	備 考
7回（14h） コミュニケーション	1 自己のコミュニケーションスタイルを振り返り、自分自身を知る。	1 コミュニケーション 1)コミュニケーションの構成要素 2)自分のコミュニケーション・スタイルを考える ［演習1:自我の構造分析］	*外部講師
人間関係の分析	2 人間関係を成立・発展させるための技術の基本を理解する。	2 コミュニケーションの問題について考える 1)交流分析(問題解決を目指す) 2)脚本分析(よりよく生きるとは)	
アサーション・トレーニング	3 アサーション・トレーニングについて理解する。	3 アサーション・トレーニング 1)自己表現について考える 2)自己表現を疎外する要因	
ストレスへの対処	4 ストレスの対処について考えられる。	4 ストレスに対処する 1)欲求不満とは 2)DESC法による意思表示	
カウンセリング技法	5 カウンセリング技法を知る。	5 カウンセリングの技法に学ぶ 1)来談者中心療法の基本 2)相手の話を聞く	
共感	6 体験を通して共感について理解する。	6 相手に共感する 1)体験する ［演習2:ロールプレイ］ 2)ノン・バーバル 行動の影響について	
ノン・バーバル・コミュニケーション （試験1h）	7 ノン・バーバル・コミュニケーションについて理解する。	7 ノン・バーバル・コミュニケーション 1)言語以外のコミュニケーション手段の意義 2)言語と非言語の相互作用	

授　業　科　目　：情　報　科　学
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　情報科学の概念と情報処理に必要なパソコンの基礎知識・活用技術を学ぶ。
2　看護における情報収集と活用について学ぶとともに、情報倫理の現状と必要性を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
14回(28h) 情報科学の概念	1　情報科学の概念・倫理・セキュリティについて理解する。	1　コンピュータ、ネットワーク、セキュリティに関する基礎知識と操作 2 アカウントの自己管理と情報倫理 3 コンピュータ・ネットワークの活用	*外部講師
パソコンの基礎知識・活用技術	2　パソコンの基礎知識・活用技術を理解する。	1　Windows　パソコンに関する一般知識と基本操作 1）他人に見せるための読みやすい文書作成 2）文書の書式や段落設定 3）文書のレイアウトや段組みなどの設定 4）文章、画像、イラスト、図形、図表などを含む文書作成 2　Power　Pointによるプレゼンテーション用スライドの作成 1）プレゼンテーションの基礎知識 2）スライド作成に関する基本操作 3）文章入力と各種書式の設定と変更操作 4）プレゼンテーションの実行操作	
	3　統計処理の基礎知識を理解する。	1　Excelによる集計処理やフォームの作成 1）関数を含む計算式を活用した各種の集計処理 2）性別、年齢別、条件別の集計処理 合計・平均・最大・最少・個数カウント・標準偏差など 3）入力データの自動計算・自動集計を行うフォームの作成 4）Excelのグラフ、表の他のソフトでの活用	
看護における情報収集と活用方法 （試験2h）	4　看護における情報収集と活用方法がわかる。	1　データ検索の基本と「医学中央雑誌」の利用 1）データ検索の基本的知識 2）部分一致検索と完全一致検索 3）AND検索とOR検索 4）「医学中央雑誌」の利用方法	

授 業 科 目 ：物 理 学
単位（時間数）：1単位（15時間）　　1年次
科 目 目 標 ：
1 生活に密着した身近な事象を取りあげ、座学ばかりでなく演習を通じて人と物との関わりを科学する視点を養う。
2 行動の根拠を理解するために物理学の基礎を学習し、看護活動に応用することができる。

単 元	目 標	内 容	備 考
7回（14h） 身体援助に関する物理学	1 身体ケアに関する物理学を理解し、看護ケアに応用できる。	看護の中の物理学 1 身体援助に関する物理学 1)生活の中の単位 ・長さ、質量、時間、圧力、温度、湿度、速度 2)看護の中の単位 ・血圧（水銀柱圧）mmHg、熱量kcal、ちから N(ニュートン)、濃度（パーセント）％ 3)安全と安楽のための力学 ・トルクの原理、梃子の原理、作用・反作用、重心、摩擦、ベクトルの加減算	＊外部講師
検査、治療・処置に関する物理学	2 熱、圧力、音、光について理解し、治療処置ケアに関連づけて考えられる。	2 検査、治療・処置に関する物理学 1)熱、温度 ・熱伝導、対流、輻射 2)圧力 ・血圧、（静）水圧、大気圧 ・低圧持続吸引装置の仕組み 3)音、光 ・音の伝わり方、光の伝わり方 ・内視鏡の仕組み ・放射線の特性 ＜演習＞（6h） ・力学についての実験 ・血圧計の位置と数値の関係 ・熱、温度の実験 ・圧力についての実験	
（試験1h）			

授　業　科　目　：英　語
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　基礎的な英語能力を高め、臨床における専門用語、専門文献通読、解釈ができる。

単　元	目　標	内　容	備　考
14回（28h） 英文法と英文講読	1　基礎的な英文法を再認識し、基本的な英文読解ができる。	1　英文法と英文講読 1)『必修単語テストⅠ』より、毎回小テストを行う。 2)文法（時制、完了、助動詞） 3)英文講読「Dieting」	＊外部講師
医学・看護英語の解釈	2　医学・看護英語の解釈ができる。	2　医学・看護英語の解釈 1)医療・看護の日常業務の中で利用する英語 2)人体各部の名称、疾患名、症状、徴候	
（試験2h）			

授　業　科　目　：英　会　話
単位（時間数）：1単位（30時間）　　3年次
科　目　目　標　：
1　英語に親しみ、見聞を広げ、国際社会に対応できるコミュニケーション能力を養う。

単　元	目　標	内　容	備　考
14回（28h） 外国の文化に親しむ	1　英語に親しみ、外国の文化を知る。	1　外国の文化に親しむ 1)欧米の生活 ・日常生活、学校生活 ・季節行事、余暇の過ごし方 ・礼節・礼儀・挨拶、しきたり 2)医学用語の理解 3)感性をみがく ・詩、慣用句 ・医療場面の欧米の映画	＊外部講師
看護場面における英会話	2　看護場面におけるコミュニケーションとして必要な英会話力を養う。	2　看護場面における英会話 1)症状をたずねる～症状を説明する ・身体的症状（発熱、疼痛、倦怠感、痒み等） ・精神的症状（不安、悲喜、落ち着かない等） 2)看護行為や治療を説明する ・身体を清潔にする ・食事についての指導をする ・採血をする ・検査室に行く ＜演習＞4回（8h） 看護場面における英会話の実際	
（試験2h）			

授　業　科　目　：体　育
単位（時間数）：1単位（30時間）　　3年次
科　目　目　標　：
1　運動と健康の関連を理解し、身体を動かすことで心身の育成を促すことができる。

単　元	目　標	内　容	備　考
体育実技 11回（22h）	1　自分の身体を知って、体力づくりを行う。	1　体育実技 1)オリエンテーリング 2)体操 (1)柔軟体操 (2)ストレッチ (3)ランニング 3)ウォーキング	＊外部講師
	2　球技を通してチームワークを育む。	2　球技 1)バレーボール パス練習 ・オーバーパス ・アンダーパス ・スパイク ・サーブ ・アタック 2)バスケットボール ・ランニングシュート ・ラリースロー ・ドリブルシュート 3)バドミントン ・ストローク 4)ソフトバレーボール 5)卓球 6)インディアカ	
球技大会 3回（6h）			
（実技試験2h）			

授 業 科 目 ：運 動 と 健 康
単位（時間数）：1単位（30時間）　　3年次
科 目 目 標 ：
1 運動と健康の関連を理解し、身体を動かすことで心身の育成を促すことができる。
2 レクリエーションの方法を学び、心身のリフレッシュを図ることができる。

単 元	目 標	内 容	備 考
健康理論・運動理論 1回（2h）	1 運動と健康の関連を理解する。	1 健康理論・運動理論 1)健康の定義 2)健康と運動 3)運動理論 4)レクリエーションの意義	＊外部講師（24h）
福祉レクリエーション 2回（4h）	2 福祉レクリエーションについて理解する。	2 福祉レクリエーション概論 1)社会福祉の基本的理念の理解 2)福祉レクリエーションの発展 3)福祉レクリエーションの概念整理 4)福祉レクリエーション援助の概要 (1)生活のレクリエーション化 (2)福祉レクリエーションの内容、分野 3 福祉レクリエーションの援助 1)福祉レクリエーション援助とは何か (1)生きがい援助とレクリエーション (2)その意味と役割、特性、将来像 2)福祉レクリエーションの全体像	
レクリエーションの実践 9回（18h）	3 レクリエーションの意義と展開方法を理解する。	4 レクリエーション実践の展開 1)表現力トレーニング (1)他人から見た自分を知り (2)自分をどう表現（声の出し方や笑顔） 2)コミュニケーションのあり方 (1)様々なワークショップ通して 5 レクリエーション実践の展開 1)レクリエーションのゲーム実際と指導法 2)集団を介したレクリエーションの指導の実際 6 レクリエーション実践の展開 1)アレンジのポイント (1)様々な対象者に向けて展開 (2)レクリエーションプログラムの実際 (3)既成の遊びプログラム 道具、ルールの工夫で誰でも楽しめる物にする 7 レクリエーション実践の展開 1)レクリエーションのソングの実際と指導法 (1)手遊び (2)歌遊びソング実技 8 福祉レクリエーション援助の実際 1)援助者の基本的スタンス 2)レクリエーションの活かし方 3)プログラム実行までのポイント （5～6人のグループでプログラムを企画） 9 レクリエーション実践の展開 1)先週のグループ討議の続き 2)次週の発表に向け、グループ毎に練習、準備 10 レクリエーション実践の展開 1)グループ毎にレクリエーション実践の発表 2)相互評価 11 レクリエーションの実際	
スポーツ医学 2回（4h） （試験2h）	4 スポーツ医学の概要と現状を理解する。	12 スポーツ医学 1)スポーツ医学の重要性 2)テーピングなどの手技	＊外部講師（4h）

授　業　科　目　：哲 学
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　哲学的思考を学習し、ものの考え方・捉え方の多様性を理解するとともに、倫理的判断をおこなうための基礎知識を身に付ける。

単　元	目　標	内　容	備　考
14回(28h) 哲学の考え方	哲学を学ぶ意義と基本的な考え方を理解する	1　哲学入門 1)哲学とは何か 2)現象学的看護論	＊外部講師
現代の哲学	現代社会を哲学的視点でとらえる	2　現代社会思想史 1)ミシェル・フーコー 病理の成立:「理性」と「狂気」 『監獄の誕生』:知と権力と主体 2)ユルゲン・ハーバーマス コミュニケーション的行為と討議倫理 意思疎通と合意形成 3)ウルリッヒ・ベック リスク社会とは リスク管理と福祉	
いのちの哲学	多様な死生観と価値観について理解する	3　死生観 1)形而上学的死生観（死後の生） 2)形而下学的死生観（生きる意味とは） 3)いのちの価値、死の価値 4)安楽死と尊厳死	
生命倫理と 医療倫理 (試験2h)	医療について考える	4　具体例で考える 1)臨床研究と倫理 2)効率性と公平性と正義 3)自己決定とパターナリズム 4)医療現場での専門的判断	

授 業 科 目 ：看 護 と 経 済
単位（時間数）：1単位（30時間）　　3年次
科 目 目 標 ：
1 経済が社会に与える影響を理解し、保健医療福祉との関連について学ぶことができる。

単 元	目 標	内 容	備 考
経済が社会に与える影響 9回（18h）	1 経済が社会に与える影響を理解する。	1 生活と経済 1)モノ(財)とサービス 2)家計・企業・政府 3)資源配分と所得分配 4)世界の中の日本経済 2 集計量の分析（マクロ経済学） 1)国民所得 2)生産・支出・分配 3)総需要と総供給 4)消費と貯蓄と投資 5)景気変動と経済成長 3 市場メカニズム（ミクロ経済学） 1)効用と需要曲線 2)費用と供給曲線 3)需給均衡 4)完全競争と独占 5)市場経済の効率性 4 政府の役割 1)公的規制 2)所得再分配 3)経済の安定化＝財政政策と金融政策 5 情報の経済学 1)不確実性 2)情報の偏在	＊外部講師（18h）
保健医療福祉と経済 5回（10h） （試験2h）	2 保健医療福祉と経済の関連を理解する。	6 保健医療福祉と経済 1)保健医療サービスの提供 (1)人口の高齢化 (2)保健医療サービス消費者の健康状態 (3)国民医療費の動向と財源 (4)医療サービスの特性 (5)医療サービスの生産 (6)看護サービスの経済特性 (7)雇用状況 2)診療報酬制度の仕組みと影響 (1)診療報酬制度のしくみ (2)看護サービスの関わる診療報酬制度 3)看護師の労働市場構造と政策 (1)看護師の労働市場 (2)看護サービスの需要と供給における特性 (3)看護師の労働供給と行動 (4)労働条件格差 (5)看護師の技能評価と職務価値 (6)看護師の雇用政策	＊外部講師（10h）

専門基礎分野

専門基礎分野

【目的】

1　からだは、日常生活行動をどのような仕組みで行っているのか、また、構造や機能が障がいされた時、どのような変化があるのかを学び、看護ケアにつながるよう理解する。

2　保健医療福祉に関わる基礎的知識を学び、看護の理解に役立てる。

【目標】

1　人体の正常な構造と機能を学び、看護ケアに必要な日常生活行動の仕組みと意味を理解する。

2　人体の構造や機能が障がいされた時の人体の変化と、回復過程を理解し、日常生活行動への影響を考えることができる。

3　保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割を学び、連携・協働の必要性について理解する。

4　人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源の活用を支援できるよう、基礎的知識を養う。

【構成および計画】

	授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期			備考
				1年	2年	3年	
人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ 日常生活行動と生物学的生命	1	30	1(30)			
	形態機能学Ⅱ 生命活動と免疫機構	1	30	1(30)			
	形態機能学Ⅲ 日常生活行動の構造と機能1	1	30	1(30)			
	形態機能学Ⅳ 日常生活行動の構造と機能2	1	30	1(30)			
	形態機能学Ⅴ 日常生活行動と生理的機能	1	30	1(30)			
	生　化　学	1	30	1(30)			
	計	6	180	6(180)			

	授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期			備考
				1年	2年	3年	
疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の発生と病理的変化	1	30	1(30)			
	感染症と微生物	1	30	1(30)			
	疾病と治療Ⅰ 呼吸器・循環器・腎泌尿器 の疾病と治療	1	30	1(30)			
	疾病と治療Ⅱ 自己免疫・内分泌代謝・消化器 の疾病と治療	1	30	1(30)			
	疾病と治療Ⅲ 脳神経・運動器の疾病と治療	1	30		1(30)		
	疾病と治療Ⅳ 感覚器・血液リンパ・ 女性生殖器の疾病と治療	1	30		1(30)		
	薬　理　学	1	30	1(30)			
	治療論Ⅰ 放射線・手術と麻酔	1	30		1(30)		
	治療論Ⅱ 栄養学・リハビリテーション	1	30		1(30)		
	計	9	270	5(150)	4(120)		
健康支援と社会保障制度	公衆衛生と健康支援	1	15		1(15)		
	医療と倫理	1	15			1(15)	
	社会保障と制度	1	15		1(15)		
	社会福祉活動	1	15			1(15)	
	医療と法律	1	15			1(15)	
	看護と医療過誤	1	15			1(15)	
	計	6	90		2(30)	4(60)	
合　計		21	540	11(330)	6(150)	4(60)	

授　業　科　目　：形態機能学Ⅰ　日常生活行動と生物学的生命
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　身体の構造と機能を理解できる。
2　恒常性を維持するための物質の構造について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
看護実践と形態機能学　1回(2h)		1　形態機能学を学ぶ意義 2　看護モデルでの形態機能学の枠組み	
身体の構造と機能　3回(6h)	1 身体の構造と機能の基礎を理解する。	1　からだの基礎知識 1)解剖学的用語 2)ホメオスタシス(恒常性) 3)フィードバック機構 2　細胞と組織 1)細胞 2)組織	＊外部講師(6h)
内部環境の恒常性維持機能　10回(20h) (試験1h)	2　恒常性維持機能のための身体の仕組みを理解する。	1　内部環境の恒常性 1)体液の分類と量 2)体液の電解質 3)酸塩基平行 4)動脈血の酸素分圧 5)血漿の糖分 6)体温 2　恒常性を維持するための物質の流通 1)流通の媒体－血液 (1)血液の恒常性の維持 (2)物質の運搬 (3)侵入物に対する防衛 (4)血液凝固 2)流通路－血管・リンパ管 (1)血管の構造 (2)肺循環と体循環 (3)リンパ管の構造と循環 3)流通の原動力－心臓・血圧 (1)循環器系の構成 (2)心臓 ①心臓の構造 ②心臓の拍出機能 (3)血圧 (4)血圧の調節	＊外部講師(20h)

授　業　科　目　：形態機能学Ⅱ　生命活動と免疫機構
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　恒常性維持のための調節機構を理解できる。
2　生体の防御機構について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
恒常性維持のための調節機構 12回（24h）	1　恒常性維持のための調節機構（神経系調節と液性調節）の構造・機能とその特徴を理解する。	1　恒常性維持のための調節機構 1)神経性調節 (1)神経系の構造と機能 (2)脊髄と脳 (3)脊髄神経と脳神経による情報伝達 (4)脳の高次機能 (5)自律神経による情報伝達 2)液性調節 (1)ホルモンの作用機序 (2)全身の内分泌腺と内分泌細胞 (3)ホルモン分泌の調節 (4)恒常性維持のためのホルモンの働き ①体液量の調節 ②代謝速度の調節 ③蛋白合成の促進 ④血糖の調節 ⑤血中ナトリウム・血中カリウムの調節 ⑥血中カルシウムの調節	＊外部講師(28h)
生体の防衛機構 2回（4h） （試験2h）	2　生体の防衛機構（免疫機構と関連臓器）について理解する。	1　生体の防御機構 1)非特異的生体防御機構：自然免疫機構 2)特異的生体防御機構：獲得性免疫機構 3)生体防御の関連臓器	

授　業　科　目　：形態機能学Ⅲ　日常生活行動に関わる身体の構造と機能1
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　人間にとって「動く」「息をする」「話す・聞く・見る」「お風呂に入る」「眠る」ことに関わる構造と機能について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
日常生活行動 動く 7回（14h）	1　人間の日常生活行動をからだのどの器官を使い、どのように遂行しているのかを理解する。	1　日常生活行動　動く 1)神経から筋への指令と筋の収縮 2)意図的でない運動　反射 3)意図的な運動　随意運動 4)骨格・骨格筋・関節 (1)骨格 (2)関節 (3)骨格筋 (4)筋の収縮 5)姿勢 (1)体位と構え (2)立位の保持 6)日常生活での基本的動き (1)歩く (2)つまむ (3)表情	＊外部講師（12h）
日常生活行動 息をする 3回（6h）	2　呼吸するために必要な器官とそのはたらきを理解する。	1　日常生活行動　息をする 1)息を吸う・息を吐く (1)呼吸器の名称と構造 ①気道と肺 ②胸膜・縦隔 (2)呼吸運動 (3)呼吸運動の神経支配 (4)肺気量 2)ガス交換 (1)外呼吸と内呼吸 (2)血液によるガスの運搬	
日常生活行動 見る・聞く・話す 2回（4h）	3　見る、聞く、話すために必要な器官とそのはたらきを理解する。	1　日常生活行動　見る・聞く・話す 1)見る (1)眼球の構造 (2)眼球付属器 (3)視野と視覚伝導路 2)聞く (1)耳の構造 (2)聴覚と伝導路 (3)聴覚と平衡感覚 3)話す (1)発声器官の構造 (2)言語活動の成り立ち	
日常生活行動 お風呂に入る 1回（2h）	4　皮膚の構造及び働きと皮膚を清浄に保つ意義を理解する。	1　日常生活行動　お風呂に入る 1)垢を落とす 2)皮膚と付属物 (1)表皮：ケラチノサイト (2)汗腺・脂腺・毛 3)皮膚・粘膜の血管と神経 4)温まる	
日常生活行動 眠る 1回（2h） （試験2h）	5　睡眠の生理と人体への影響を理解する。	1　日常生活行動　眠る 1)からだのリズム (1)サーカディアンリズム (2)ホメオスタシス機構 2)眠る (1)ノンレム睡眠・レム睡眠 (2)眠りによるからだの変化	

授　業　科　目　：形態機能学Ⅳ　日常生活行動に関わる身体の構造と機能2
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　人間にとって「食べる」「トイレに行く」ことに関わる構造と機能について理解できる。
2　人間の性や子孫を残すための構造と機能について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
日常生活行動 食べる 6回（12h）	1 「食べる」ことに関わる構造と機能について理解する。	1　日常生活行動　食べる　（6h） 1)消化吸収の概要 (1)食べる意義 (2)三大栄養素の消化吸収 (3)何を食べるか 2)食欲 3)食行動 (1)食物を口まで運ぶ (2)食物の性質の判断 (3)口の準備 4)咀嚼し味わう 5)飲み込む:嚥下 6)食道へ送り込む 7)消化と吸収　（6h） (1)腹部消化管の構造と機能 ①胃 ②小腸 ③大腸 ④栄養素の消化と吸収 (2)膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	＊外部講師（6h）
日常生活行動 トイレに行く 5回（10h）	2 排泄に関わる構造と機能について理解する。	1　日常生活行動　トイレに行く　（10h） 1)トイレに行くとは (1)トイレに行く意味 (2)トイレに行けるようになるまで (3)トイレの歴史 (4)トイレに行けない場合の影響 (5)排泄行動の構成要素 2)排尿する (1)尿意 (2)尿路 3)尿の生成 (1)腎臓の機能と構造 (2)尿生成のメカニズム 4)体液量調整の機構 5)排便する (1)大腸の機能と構造 (2)便の生成 (3)便意と排便	
性のしくみ 3回（6h） （試験2h）	3 性のしくみについて理解する。	1　性のしくみ　（6h） 1)性決定のしくみ 2)男性生殖器の構造と機能 3)女性生殖器の構造と機能 4)受精と着床	

授　業　科　目　：形態機能学Ⅴ　日常生活行動と生理的機能
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　解剖見学を通して図式化するとともに人体の主要な構造を理解できる。
2　健康を評価する生理学的指標の測定を通して、人体の機能を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
人体の構造 2回（4h）	1　解剖見学を通して、人体の構造を理解し、図式化できる。	1　人体の主要な構造 1)脳・脊髄と神経 2)筋・骨格 3)臓器 循環、呼吸、消化・吸収、代謝、排泄、生殖などの日常生活行動に関する器官 4)血管 5)皮膚	【解剖見学】 *外部講師（4h）
日常生活行動と生理学的指標 13回（26h）	2　健康を評価する生理学的指標の測定を通して、人体の機能を理解する。	1　生理学的指標の測定 1)恒常性維持のための調節機構 (1)活動による血圧と心電図の変化 ①安静時の血圧と心電図 ②活動時の血圧と心電図 2)日常生活行動 (1)息をする ①体位の変化や運動負荷による呼吸変動 (2)トイレに行く ①尿の観察と測定 ②トイレで排泄するために必要な身体機能 (3)話す、聞く、見る ①聴覚と平衡感覚 ②視覚 (4)食べる ①食事と血糖値 ②食事をするために必要な身体機能 【校内実習・演習】（26h） ①活動による血圧と心電図の変化 ②息をする ③トイレに行く ④話す・聞く・見る ⑤食べる ＊オリエンテーション・グループワーク・グループ発表含む	※評価は、レポートと演習・グループ参加状況で行う

授 業 科 目 ：生 化 学　　1/2
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科 目 目 標 ：
1 細胞と物質代謝について理解できる。
2 遺伝の仕組みについて理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
生体の成り立ちと生体分子 7回（14h）	1 生体の成り立ち、細胞と物質代謝について理解する。	1 生体の成り立ちと生体分子 1)生体の成り立ち 2)個体、器官、組織、細胞 3)真核細胞の構造と機能 4)生体を構成する物質 5)生体で起きている化学反応 2 タンパク質の性質 1)タンパク質の分類 2)タンパク質を構成しているアミノ酸 3)水溶液中でのアミノ酸 4)タンパク質の高次構造 5)タンパク質の変性 6)血漿タンパク質 3 生体におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝 1)脱アミノ反応 2)脱炭酸反応 3)尿素回路 4)糖新生 5)エネルギー代謝 6)分岐鎖アミノ酸の代謝 7)アミノ酸の先天性代謝異常 8)主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動 4 酵素の性質と働き 1)酵素とは 2)酵素の特性 3)酵素の種類 4)アイソエンザイム 5)血清酵素の診断への応用 5 生体内における糖質の代謝 1)糖とは 2)糖の分類 3)糖質は重要なエネルギー源 4)グルコースとグリコーゲンの合成 5)血糖の調節 6)糖尿病 6 生体内における脂質の代謝 1)脂質の種類と化学的性質 2)脂質の代謝 3)リポタンパク質と脂質代謝異常	＊外部講師(28h) 次へ続く

単 元	目 標	内 容	備 考
遺伝と液性調節の仕組み 7回（14h）	2 遺伝と液性調節の仕組みを理解する。	1 生体内における核酸の役割 1)核酸の所在 2)核酸の種類と構造 3)DNAの複製 4)タンパク質合成にかかわる核酸 5)不要になった核酸の処分 6)遺伝病と核酸の関係 7)遺伝子操作のもたらす世界 2 体液 1)水 2)無機質と微量成分 3 ホルモン 1)ホルモンの種類 2)各種ホルモン 3)ホルモン関連物質 4 ビタミン 1)水溶性ビタミン 2)脂溶性ビタミン 5 血液 1)血液の成分とその働き 6 尿 1)腎臓の構造 2)ろ過のしくみ 3)尿生成の体液調節	
（試験2h）			

授　業　科　目　：疾病の発生と病理的変化
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を理解できる。
2　生命の危機状態にある人の病態・治療の原理について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
疾病の成り立ちと病理的変化 7回（14h）	1　疾病の成り立ちと病理的変化について理解する。	1　生体の反応と疾病の機序 1)疾病の概念 2　疾病の成り立ちと回復 1)疾病を引き起こす内的・外的要因 2)細胞・組織に生じる変化 (1)退行性病変　(2)進行性病変　(3)代謝障害 (4)循環障害　(5)炎症　(6)免疫　(7)腫瘍 3)変化が影響する個体の条件 (1)先天異常 (2)老化 (3)死 4)死 (1)死の三兆候 (2)脳死と判定基準	＊外部講師(14h)
生命の危機 3回（6h）	2　生命の危機状態にある人の病態・治療の原理について理解する。	1　生命の危機とは 1)救急患者の特性 2)重篤な病態の把握と治療 (1)ショック (2)呼吸不全 (3)循環不全 3)心肺蘇生法（一次救命・二次救命） 4)救急処置 (1)気道確保　(2)人工呼吸 (3)心臓マッサージ　(4)静脈確保・薬物投与 5)病態の把握と治療・処置 (1)DIC・MOF　(2)火傷・熱傷　(3)外傷　(4)痙攣	＊外部講師(6h)
救急に必要な応急手当 4回（8h）	3　救急に必要な応急手当（成人に対する方法）が理解できる。	1　救急に必要な応急手当 1)心肺蘇生法 (1)基本的心肺蘇生法（実技） (2)AEDの使用法（成人に対する方法） (3)異物除去法 (4)効果確認 2)止血法：直接圧迫止血法 3)心肺蘇生法に関する知識の確認 4)心肺蘇生法に関する実技の評価	＊上級救命講習 （実技試験を受験）
（試験2h）	4　その他の応急手当が理解できる。	1　その他の応急手当 1)傷病者管理法 (1)衣類の緊縛解除　(2)保温法　(3)体位管理 2)外傷の手当要領 (1)包帯法　(2)副子固定法　(3)熱傷の手当 3)搬送法 (1)搬送の方法　(2)担架運搬法 (3)応急担架作成法	

授　業　科　目　：感染症と微生物
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　感染症について理解できる。
2　健康状態を脅かす微生物の人体におよぼす影響と病原微生物の感染予防について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
感染症と微生物 12回(24h)	1　感染症について理解する。	1　感染症の現状と対策 1)感染症の変遷 2)市中感染と院内感染 3)感染症への対策（感染症法） 4)感染症法の対象疾患とその分類 5)ワクチンと予防接種	＊外部講師(28h)
	2　微生物の人体に及ぼす影響と病原微生物の感染予防について理解する。	1　微生物の特徴・歩み 2　微生物の特質・機構 1)細菌　2)真菌　3)原虫　4)ウイルス 3　感染に対する生体防御機構 1)自然免疫　2)獲得免疫　3)粘膜免疫 4　感染症の成立 1)感染源 2)感染経路 5　感染症の予防 1)消毒・滅菌 2)ワクチンと予防接種 6　感染症の診断 1)病原体を検出する法 2)生体反応からの診断する法 7　感染の治療 1)化学療法の基礎 2)各種の化学療法薬 3)その他の治療法 8　感染症の現状と対策 1)新興・再興感染 2)人獣共通感染症 3)院内感染 4)性感染症 5)食中毒 6)感染療法など 9　主な病原微生物 1)細菌　2)真菌　3)原虫　4)ウイルス 5)プリオンとプリオン病	
感染予防対策・院内感染対策 2回(4h) (試験2h)	3　感染予防対策・院内感染対策について理解する。	1　感染予防対策・院内感染対策 1)院内感染の定義 2)院内感染に関する最近の動向 3)基本的ケアと感染防止対策	

授　業　科　目　：疾病と治療Ⅰ　呼吸器・循環器・腎泌尿器の疾病と治療　　1/2
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　呼吸器系の主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
2　循環器系の主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
3　腎泌尿器系の主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
呼吸器系の疾病 6回（12h）	1　呼吸器系の主な疾患の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　呼吸器系の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)肺がん (2)肺炎 (3)気管支炎 (4)気管支喘息 (5)気胸 (6)肺結核 (7)肺気腫 (8)呼吸不全 (9)肺循環障害（肺梗塞、肺塞栓症） ①病態生理 ②主な症状 ・呼吸困難 ・チアノーゼ ・喀血・咳・痰 ・胸水・胸痛 2)疾病を診断する主な検査 (1)X線検査 (2)気管支造影 (3)気管支鏡 (4)呼吸機能検査 (5)血液検査（ガス分析） 3)主な治療 (1)酸素療法（在宅酸素療法） (2)吸入療法 (3)人工呼吸療法 (4)薬物(化学)療法 (5)放射線療法 (6)胸腔ドレナージ (7)呼吸理学療法 (8)外科的手術	*外部講師(12h)
循環器系の疾病 5回（10h）	2　循環器系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　循環器系の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)心筋梗塞 (2)狭心症 (3)心筋疾患 (4)心臓弁膜症 (5)心不全 (6)興奮伝導異常 (7)高血圧症 (8)大動脈瘤 ①病態生理 ②主な症状 ・胸痛・不整脈 ・動悸・ショック ・血圧異常・浮腫 ・チアノーゼ 2)疾病を診断する主な検査 (1)心臓カテーテル法 (2)心電図 (3)血液検査 (4)X線検査 (5)心エコー (6)核医学検査 3)主な治療 (1)内科的治療：薬物療法・心臓カテーテル治療 ・補助循環装置 (2)外科的治療：冠状動脈バイパス術・弁置換術	＊外部講師(10h) 次へ続く

単　元	目　標	内　容	備　考
腎臓の疾病 3回(6h) (試験2h)	3　腎臓系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　腎臓の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)腎不全 (2)腎炎 (3)ネフローゼ (4)腎腫瘍 (5)膀胱腫瘍 ①病態生理 ②主な症状 ・浮腫 ・尿の異常 ・尿毒症 ・排尿に関連した症状 ・疼痛・発熱 ・高血圧 2)疾病を診断する主な検査 (1)尿検査 (2)血液検査 (3)Ｘ線検査(CT･MRI･シンチグラム) (4)エコー (5)膀胱鏡検査 (6)生検 3)主な治療 (1)透析療法(血液透析･腹膜透析) (2)薬物療法 (3)外科的手術 (4)砕石療法	＊外部講師(6h)

授　業　科　目　：疾病と治療Ⅱ　自己免疫･内分泌代謝･消化器の疾病と治療　　1/2
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　自己免疫疾患、アレルギー性疾患の主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
2　内分泌･代謝系の主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
3　消化器系の主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
自己免疫系の疾病 2回（4h）	1　自己免疫系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　自己免疫疾患 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)SLE (2)リウマチ (3)強皮症 (4)多発性筋炎 (5)多発性動脈炎 (6)慢性関節リウマチ (7)シェーグレン症候群 ①主な症状 ・痛み・発熱 ・こわばりなど 2)疾病を診断する主な検査 (1)血液検査 (2)血液培養 3)主な治療 (1)脱感作療法 (2)薬物療法 2　アレルギー性疾患 1)アレルギーとは 2)アレルギー性疾患の発症機序 3)アレルギー性疾患の検査法	＊外部講師(4h)
内分泌･代謝系の疾病 4回（8h）	2　内分泌･代謝系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　内分泌･代謝系の疾病 1)代謝疾患の病態生理と主な症状 (1)糖尿病 (2)脂質異常症 (3)肥満症 (4)メタボリックシンドローム (5)高尿酸血症と痛風 2)内分泌疾患の病態生理と主な症状 (1)下垂体の疾患　(クッシング病他) (2)甲状腺の疾患（バセドウ病他） (3)副甲状腺の疾患 (4)副腎の疾患 ①主症状 ・血糖異常 ・基礎代謝の亢進、低下による症状 3)疾病を診断する主な検査 (1)血液検査（ホルモン定量） (2)負荷試験 4)主な治療 (1)薬物療法 (2)食事療法 (3)運動療法	＊外部講師 (4h･4h)

次へ続く

単　元	目　標	内　容	備　考
消化器系の疾病 8回（16h） （試験2h）	3　消化器系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　消化器系（内科）の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)食道癌 (2)胃潰瘍 (3)胃癌 (4)胆石 (5)膵炎 (6)膵癌 (7)肝炎 (8)肝硬変 (9)肝癌 (10)大腸癌 (11)潰瘍性大腸炎 (12)クローン病 ①病態生理 ②主な症状 ・腹痛・嘔吐 ・吐血・下血 ・食欲不振 ・腹水・黄疸 ・下痢・便秘 ・食道静脈瘤 ・肝性昏睡 ・門脈圧亢進 2)疾病を診断する主な検査 (1)X線検査 (2)血液検査 (3)内視鏡検査 (4)生検 3)主な治療 (1)化学療法 ①食道静脈瘤硬化療法 ②消化性潰瘍の薬物療法 ③劇症肝炎療法 ④慢性肝炎インターフェロン療法 (2)食事療法 2　消化器外科 1)代表的疾患と手術療法 (1)胃癌 (2)大腸癌（人工肛門造設術） (3)肝臓癌 (4)食道癌（開胸術） (5)イレウス (6)胆石症（ENBD･PTCDチューブ） (7)痔核 (8)ヘルニア	外部講師 ・消化器内科(10h) ・消化器外科(6h)

授　業　科　目　：疾病と治療Ⅲ　脳神経・運動器の疾病と治療
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　脳神経系に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法を理解できる。
2　運動器系に疾病をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
脳神経系の疾病 9回(18h)	1　脳神経系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　脳神経系（内科）の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)脳梗塞 (2)パーキンソン病 (3)ALS (4)髄膜炎 (5)筋無力症 (6)筋ジストロフィー (7)脊髄小脳変性症 (8)アルツハイマー ①病態生理 ②主な症状 ・意識障害 ・運動障害（失調、麻痺、不随運動） ・言語障害 ・嚥下障害 ・痙攣・頭痛 ・嘔気嘔吐 ・反射異常 2)疾病を診断する主な検査 (1)血管造影 (2)CT (3)MRI (4)脳波 (5)各種反射 (6)髄液検査 (7)筋電図 3)主な治療 (1)安静療法 (2)リハビリテーション 2　脳神経系(外科)の疾病 1)代表的な疾患と手術療法 (1)脳出血 (2)脳動脈瘤 (3)脳腫瘍 (4)頭部外傷 (5)水頭症（脳室ドレナージ）	*外部講師 ・内科系（12h） ・外科系（6h）
運動器系の疾病 5回（10h） （試験2h）	1　運動器系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　運動器系の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)骨折 (2)骨粗鬆症 (3)椎間板ヘルニア (4)骨髄損傷 (5)半月板損傷 (6)変形性膝関節症 (7)変形性股関節症 (8)慢性関節リウマチ ①病態生理 ②主な症状 ・疼痛、変形 ・神経麻痺 ・運動障害 ・循環障害 2)疾病を診断する主な検査 (1)X線検査 (2)各種造影検査 (3)筋電図 (4)知覚検査 (5)RI検査 (6)関節鏡 3)主な治療 (1)手術療法(人工関節置換術) (2)リハビリテーション (3)安静療法（牽引、ギプス、装具）	＊外部講師（10h）

授　業　科　目　：疾病と治療Ⅳ　感覚器・血液リンパ・女性生殖器の疾病と治療　　1/2
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
2　血液・リンパ器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
3　女性・男性生殖器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
感覚器系の主な疾病 6回（12h）	1　感覚器系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　眼の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)白内障 (2)緑内障 (3)網膜剥離 (4)結膜炎・角膜炎 (5)近視・遠視・乱視・斜視 (6)糖尿病性網膜症 ①主な症状 ・視力障害 ・視野異常 ・眼精疲労 ・充血・斜視 ・異物感 ・眼圧異常等 2)疾病を診断する主な検査 (1)視力検査 (2)視野検査 (3)色覚検査 (4)眼圧検査 3)主な治療 (1)手術療法 (2)薬物療法 (3)視力矯正	*外部講師(4h)
		2　耳鼻咽喉の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)内・外・中耳炎 (2)メニエル (3)副鼻腔炎 (4)上顎洞がん (5)扁桃炎 (6)嗅覚障害 (7)味覚障害 ①主な症状 ・難聴・耳鳴 ・眩暈・耳漏 ・鼻出血・鼻閉 ・咽頭痛等 2)主な検査 (1)聴力検査 (2)耳管通気法 (3)平衡機能検査 3)主な治療 (1)手術療法 (2)薬物療法	*外部講師(4h)
		3　皮膚の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)湿疹 (2)アトピー性皮膚炎 (3)熱傷 ①主な症状 ・かゆみ ・発疹 等 2)疾病を診断する主な検査 (1)パッチテスト (2)皮内反応 (3)生検 3)主な治療 (1)手術療法 (2)薬物療法 (3)レーザー治療	*外部講師(4h) 次へ続く

単　元	目　標	内　容	備　考
歯の疾病 2回(4h)	2　歯の主な疾病の病態、症状、治療の基礎的知識を理解する。	1　歯の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)齲蝕 (2)歯周病 (3)舌腫瘍 (4)粘膜疾患 (5)ヘルペス ①主な症状 ・歯肉出血 ・歯痛・口臭 2)疾病を診断する主な検査 (1)レントゲン撮影 (2)主な治療	*外部講師(4h)
血液・造血器系の疾病 3回(6h)	3　血液・リンパ系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　血液・造血器系の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)白血病 (2)悪性リンパ腫 (3)多発性骨髄腫 (4)再生不良性貧血 (5)DIC・紫斑病 (6)血友病 ①主な症状 ・貧血 ・出血傾向 ・易感染 ・発熱 2)疾病を診断する主な検査 3)主な治療	*外部講師(6h)
生殖器・泌尿器系の疾病 4回(8h)	4　生殖器・泌尿器系の主な疾病の病態、症状、診断、治療の基礎的知識を理解する。	1　男性生殖器系の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状治療 (1)前立腺肥大症 (2)前立腺癌 ①主な症状 ・血尿・尿閉 ・疼痛 ・残尿感 2　泌尿器系の疾病 1)尿路感染 2)尿路結石 3　女性生殖器系の疾病 1)代表的疾患の病態生理と主な症状 (1)子宮筋腫 (2)卵巣のう腫 (3)卵巣がん (4)子宮内膜症 (5)子宮癌 (6)不妊症 (7)性感染症 (8)更年期障害 ①主な症状 ・月経異常 ・不正出血 ・下腹部痛 ・貧血・帯下 ・腫瘤の触知 2)疾病を診断する主な検査 3)主な治療 (1)薬物療法 (2)造血幹細胞移植 (試験：課外1h)	*外部講師(4h) *外部講師(4h)

授 業 科 目 ：薬 理 学
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科 目 目 標 ：
1 薬理作用の基礎知識に基づき、主な薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
薬理学総論 5回（10h）	1 薬理学の基礎的知識、薬理作用、人体への影響、薬の管理について理解する。	1 薬理学総論 1)薬理学の概要 2)体内情報伝達機構 3)薬の作用機序 4)薬物体内動態 5)薬理作用 6)薬効に影響を及ぼすもの 7)薬の管理と法令	＊外部講師（28h）
薬理学各論 9回（18h） （試験2h）	2 生体に及ぼす各種薬の特徴と薬理作用を理解する。	1 薬理学各論 1)中枢神経に作用する薬 2)末梢神経に作用する薬 3)免疫・抗アレルギー薬 4)心臓・血液・血管系に作用する薬 5)呼吸器・消化器に作用する薬 6)物質代謝に作用する薬 7)抗感染薬 8)皮膚外用薬 9)抗悪性腫瘍薬 10)漢方薬	

授　業　科　目　：治療論Ⅰ　放射線・手術と麻酔
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　疾病の回復を促進する各治療の原理を理解する。

単　元	目　標	内　容	備　考
放射線治療 4回（8h）	1　放射線治療の原理を理解する。	1　放射線治療とは 1)放射線医学 2)放射線治療と患者 (1)放射線治療の目的 (2)放射線治療の種類 (3)放射線治療とインフォームドコンセント 3)人体に対する放射線の作用 (1)全身症状（宿酔症状）・局所症状 4)放射線防護の基本と健康管理 (1)放射線被曝軽減のための三原則 ①時間 ②距離 ③遮蔽	*外部講師(8h)
麻酔治療 3回（6h）	2　麻酔治療の原理を理解する。	1　麻薬治療 1)麻酔治療の安全性 (1)インフォームドコンセント (2)麻酔前の全身状態の評価 (3)麻酔侵襲に対する生体反応の機序 ①全身麻酔 ②局所麻酔 ③補助麻酔薬 ④麻酔事故と術後合併症 (4)ペイン・クリニック	*外部講師(6h)
手術療法 5回（10h）	3　手術療法の原理を理解する。	1　手術療法 1)手術療法の意義 2)手術侵襲に対する生体反応の機序 3)手術侵襲に対する生体反応の経過と合併症 4)インフォームドコンセント 5)術前の患者の評価 6)術後の患者の評価及び全身状態の管理 (1)術後ショック (2)循環管理 (3)呼吸管理 7)術後疼痛管理（ペインコントロール） 8)手術に伴う合併症（開胸術・開腹術）	*外部講師(10h)
内視鏡的治療 1回（2h）	4　内視鏡的治療の原理を理解する。	1　内視鏡的治療 1)内視鏡的治療の目的と役割 2)内視鏡的検査・治療の種類 (1)上部消化管内視鏡 (2)大腸内視鏡・下部消化管（カプセル内視鏡） (3)内視鏡的逆行性膵胆管造影 (4)超音波内視鏡 3)内視鏡的検査・治療時の注意点	*外部講師(2h)
検査 1回（2h） （試験2h）	5　診断に必要な検査と検査成績の見方について理解する。	1　検査 1)臨床検査の種類 2)診療と検査機器 3)検体の採取法とその取り扱い方 4)検査成績の見方、考え方	*外部講師(2h)

授　業　科　目　：治療論Ⅱ　栄養学・リハビリテーション
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　栄養の意義と、病態と栄養について理解できる。
2　リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
臨床栄養学 6回（12h）	1　健康にとっての食事・栄養の意義と食事療法について理解する。	1　食物と栄養 1)栄養素とその栄養価 2)栄養評価（BMI・上腕三頭筋皮脂厚・検査値） 2　病態と栄養 1)普通食の種類と分類（一般食） 2)治療食の種類と分類 3)食事療法の意義と目的 4)食事療法の実際 5)食事指導の実際（栄養指導含む） 6)チーム連携（NST・看護師・医師など） 3　食事療法と体内成分の関係（検査値）	*外部講師(12h)
リハビリテーション 8回（16h） （試験2h）	2　リハビリテーションの概念と方法について理解する。	1　リハビリテーションの概念 2　リハビリテーションの対象理解 1)障害者の動向 2)障害のレベルとその基本的アプローチ 3)障害者の心理とその障害受容（障害受容過程） 3　リハビリテーションの場と方法（施設と地域） 4　リハビリテーションの種類と目的 1)理学療法（PT）2)作業療法（OT）　3)言語療法（ST） 5　障害のアセスメント 機能評価の方法 (1)関節可動域(ROM)・筋力評価(MMT) (2)日常生活動作・活動(ADL)とセルフケアの評価 (FIM:機能的自立度評価法) (3)高次脳機能評価（NIHSS） 6　疾患別リハビリテーションの実際 7　リハビリテーション技術の実際 1)ボディメカニクスの原理 2)ADL自立への初期訓練 (1)関節可動域訓練　(2)筋力強化　(3)体位変換 (4)座位保持・ベッド上の移動と移乗 3)ADL自立への訓練 8　言語障害者（失語症）とのコミュニケーション 1)患者を取り巻くチーム 2)言語療法士（ST）の役割 3)言語聴覚療法 (1)目的 (2)コミュニケーション障害の要因（言語を中心） (3)言語訓練の実際 (4)失語症とは (5)失語症のある方とのコミュニケーション ①失語症患者への対応とその心理 (6)急性期の症状と対応 (7)家族指導	*外部講師(12h) 【校内実習】<2h> ・ポジショニング ・動作介助 *外部講師（4h）

授 業 科 目 ：公衆衛生と健康支援　　1/2
単位(時間数)：1単位（15時間）　　2年次
科 目 目 標 ：
1　公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方について理解し、保健対策の動向と活動を理解する。

単　元	目　標	内　容	備　考
公衆衛生 7回(14h)	1 公衆衛生のしくみと方法が理解できる。	1 公衆衛生を学ぶに当たって 1)看護と公衆衛生　ナイチンゲールの考え方と公衆衛生 2)公衆衛生活動のキーワード 2　公衆衛生のしくみ 1) 法律、政策、事業 2) 保健・医療・福祉政策と分野 3)計画　健康日本21、健やか親子21 4)体制　国と都道府県と市区町村 5)公衆衛生の専門職種と分野 3 集団の健康の把握－疫学 1)健康を把握する指標　平均寿命、健康寿命 2)少子高齢社会の指標の理解 3)健康阻害の原因の分析	＊外部講師(14h)
	2 公衆衛生の各分野の課題と対策を理解できる。	1 環境保健 1)地球環境問題　地球温暖化 2)典型7公害、放射能汚染 3)身のまわりの環境1　生活環境保健、医療廃棄物 4)身のまわりの環境2　食品、家庭用品の安全 2　国際保健 1)健康格差問と経済格差 2)国連の役割 3)日本の対応 3 母子保健 1)母子保健統計の動向とあゆみ 2)育児不安と育児支援、児童虐待、母性父性を育む対策 4　成人保健 1)健康日本21と生活習慣病対策 2)特定健診・特定保健指導 5 高齢者保健 1)高齢化社会　アクティブエイジング　終末期医療 2)地域包括ケアシステムと介護保険 3)認知症の増加、高齢者虐待	次へ続く

単 元	目 標	内 容	備 考
（試験1h）		6 歯科保健 1)歯科保健指標　8020運動 2)摂食嚥下リハビリテーション 7 精神保健 1)精神保健医療体制の歴史、偏見差別 2)社会復帰と人権 8 難病対策 1)障害の定義　障害者基本法、障害者総合支援法 2)発達障害支援法 9 感染症対策 1)感染症と偏見差別、感染症の3要素と対策 2)感染症法、感染症法疾病分類、予防接種、院内感染と標準予防策 3)新型インフルエンザ、エイズ、結核、食中毒 10 学校保健 1)学校保健の役割と職種　学校健康診断 2)子どもの健康課題　う歯、裸眼視力、尿蛋白、アレルギー、いじめ、不登校 11 職域保健 1)労働者の健康　労働基準法と労働安全衛生法 2)労働衛生管理の3管理 3)労働環境と健康障害 12 男女共同参画社会 1) ワークライフバランス 13 健康危機管理 1)健康危機事例の定義、準備計画の意義 14 災害保健 1)災害時体制　災害対策基本法、災害救助法、被災者生活再建支援法 2)災害時期分類と支援体制　避難行動要支援者 3)災害拠点病院とDMAT	

授 業 科 目 ：医 療 と 倫 理
単位（時間数）：1単位（15時間）　　3年次
科 目 目 標 ：
1 人間を生活者としてとらえ、より良く生きようとする社会的存在としての人間について理解する。
2 現代医学・医療のあゆみと現代医療が抱える課題を理解する。
3 医療倫理・生命倫理とは何かを学び、いのちについて考えることができる。

単 元	目 標	内 容	備 考
健康と疾病 2回（4h）	1 人間の生活・社会と健康・疾病との関連を理解する。	1 健康の概念 1) WHOと健康の定義　健康の概念の歴史 2) 臨床医学と公衆衛生の相違、役割 3) WHOの公衆衛生政策 2 疾病の考え方 1) 疾病の概念　疾病と医学の役割 2) 疾病の原因　遺伝、加齢、4つの外部環境要因 免疫異常、腫瘍、心因、等 3 疾病の治療、疾病予防から健康増進まで 1)保健・医療・福祉と公衆衛生行政の範囲 2)地域の定義と地域保健医療福祉の連携 3)公衆衛生の定義　公衆衛生政策の役割 4)看護と公衆衛生　公衆衛生の活動方法論 4 生活と健康 1)生活環境と疾病構造の変化 生活習慣の変化　人口の高齢化と少子化 2)健康指標の推移　平均寿命と健康寿命 3)日本の国民健康づくりのあゆみと健康日本21 4)健康日本21の課題と評価	*外部講師(4h)
医学・医療のあゆみ 1回（2h）	2 現代医学・医療のあゆみを理解する。	1 医学・医療のあゆみ 1)経験的医療（古代・中世） 2)宗教的医療 3)近代医学の発展－現代医療の基盤 4)今後の医学・医療の方向 (1)遺伝子・ゲノム医療 (2)再生医学・再生医療 2 医学と医療 3 わが国の医療供給体制 1)医療供給体制の現状と整備の経過 2)医療関係者の現況と養成の実態 3)医療保障の現状と課題	*外部講師(10h)
現代医療の課題 4回（8h） （試験1h）	3 生命倫理を学び、いのちについてや現在医療における課題について考えることができる。	4 現代医療における諸問題 1)医療の進歩と医の倫理 2)医療における患者の権利 3)病状（真実）告知 4)脳死と臓器移植 5)死と生命保持、安楽死、死を共有する医療	

授　業　科　目　：社会保障と制度
単位（時間数）：1単位（15時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　社会保障の理念と基本的な制度の考え方について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
社会保障の理念と概要 2回（4h）	1　社会保障の理念と基本的性格を理解する。	1　社会保障制度の法的根拠と歴史的意義 1)日本国憲法制定の歴史的意義 2)国民の生存権保障と国家の保障義務 3)人権・倫理　(1)世界人権宣言における健康観 (2)看護職の公的責任と臨床倫理 (3)ノーマライゼーション 4)インフォームドコンセントと医療情報の開示	＊外部講師（14h）
	2　社会保障制度のシステムを理解する。	2　社会保障制度の概観 1)制度の目的及び機能 2)制度の体系と給付費 3)地方分権による地域包括ケアシステムの構築 4)地域におけるヘルスプロモーションにおける看護	
公的扶助（生活保護法） 2回（4h）	3　生活保護法の理念と原則を理解する。	1　目的 2　3つの理念 3　4つの原則 4　扶助及び保護施設の種類と内容 5　実施機関と保護の展開過程	
社会保険制度 3回（6h） （試験1h）	4　社会保険の概要と各制度の内容を理解する。	1　社会保険制度の概要 1)社会保険の変遷と意義 2)国民皆保険・皆年金 3)マイナンバー制度 2　医療保険制度 1)健康保険法（被用者保険） 2)国民健康保険法 (1)保険者及び被保険者とは　＊(1)(2) (2)保険給付の種類と内容　　＊(1)(2) 3)介護保険制度 (1)保険者及び被保険者とは (2)給付の種類と内容 4)年金制度 (1)保険者及び被保険者とは (2)給付の種類と内容 5)労働保険制度 (1)雇用保険法 ①保険者及び被保険者とは ②給付の種類と内容 (2)労働者災害補償保険法 ①保険者及び被保険者とは ②給付の種類と内容	

授　業　科　目　：社会福祉活動
単位（時間数）：1単位（15時間）　　3年次
科　目　目　標　：
1　生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
社会福祉活動の対象、理念と施策 3回（6h）	1　社会福祉の援助対象と福祉ニーズを理解する。 2　社会福祉諸法の理念と施策について理解する。	1　社会福祉の援助対象と福祉ニーズ 1)社会福祉の援助対象 2)社会福祉のニーズ 2　社会福祉諸法の理念と施策 1)障害者（児）への施策 (1)障害者基本法 (2)身体障害者福祉法 (3)知的障害者福祉法 (4)精神保健及び精神障害者福祉法 2)児童への施策 (1)児童憲章・児童福祉法 (2)児童虐待防止法 3)老人への施策 (1)老人福祉法 (2)老人保健法 4)その他 (1)母子保健法 (2)配偶者からの暴力の防止 (3)被害者の保護に関する法律（DV防止法）	＊外部講師（14h）
社会福祉行政 2回（4h）	3　社会福祉行政機関と展開について理解する。	3　社会福祉行政 1)社会福祉計画 2)社会福祉の民間活動 (1)民生委員・児童委員 (2)社会福祉協議会 (3)ボランティア活動 3)国、地方公共団体の行政と組織及びマンパワー 4)老人保健福祉行政の展開 (1)入所措置権の市町村への委譲 (2)市町村及び都道府県の老人福祉計画 (3)高齢者の生きがい対策 (4)介護予防	
社会福祉援助の方法 2回（4h） （試験1h）	4　社会福祉の援助方法と課題を理解する。	4　社会福祉援助の方法 1)社会福祉援助とは 2)個別援助技術（ケースワーク） 3)集団援助技術（グループワーク） 4)間接援助技術 5)関連援助技術 6)社会福祉援助の検討課題 (1)倫理上のジレンマ (2)エンパワーメント (3)アドボカシー (4)セルヘルプ・グループ 7)社会福祉実践と医療・看護との連携 (1)医療ソーシャルワーカーとは (2)医療・福祉、福祉連携の実際 8)連携の場面とその方法	

授 業 科 目 ：医 療 と 法 律
単位（時間数）：1単位　　3年次
科 目 目 標 ：
1 人びとの健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律について理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
法の知識と法令 1回（2h）	1 法の知識と法令について理解する。	1 法の知識と法令 1) 法の概念、分類 2) 衛生法の概念、分類	*外部講師(14h)
看護活動と医療関連法規 6回（12h）	2 看護活動と医療関連法規について理解する。	2 看護活動と医療関連法規 1) 看護法 (1) 保健師助産師看護師法 ・ 目的、定義、免許、業務、義務、医療過誤 (2) 看護師等人材確保促進法 2) 医事法 (1) 医師法 (2) 医療法 ・ 目的、定義、病院等の管理、人員、医療計画 3) 保健衛生法 (1) 地域保健法 (2) 健康増進法 (3) 精神保健福祉法 (4) 感染症法 (5) 予防接種法 4) 薬務法・環境衛生法 5) 社会保険法 (1) 健康保険法、国民健康保険法、各共済法 (2) 介護保険法 6) 福祉法 (1) 生活保護法 (2) 児童福祉法 (3) 老人福祉法 (4) 障害者総合支援法 7) 労働法 (1) 労働基準法 (2) 労働安全衛生法 (3) 育児介護休業法 (4) 男女雇用機会均等法 8) 環境法 (1) 環境基本法 (2) 廃棄物処理法	
（試験1h）			

授　業　科　目　：看護と医療過誤
単位（時間数）：1単位（15時間）　　3年次
科　目　目　標　：
1　医療過誤における法的責任を知ることにより、医療従事者としての業務と責任を自覚することができる。

単　元	目　標	内　容	備　考
医療事故と法的責任 2回（4h）	1　医療事故における医療者の法的責任を理解する。	1　医療事故と法的責任 1)法的責任 (1)医療事故・医療過誤とは ①医療過誤とは ②医療過誤の要件 (2)民事法上の責任 (3)刑事法上の責任 (4)行政上の責任 (5)結果予見、結果回避義務 2)看護記録の位置づけ ・継続的の記録のため事実認定の重要な証拠 3)報告義務 ・共通の価値としての協働（チーム医療） ・職種や職位を超えた円滑なコミュニケーション 4)安全配慮義務 ・守秘義務 ・看護業務の法的範囲 ・医行為と医業	*外部講師(4h)
看護の保障と関係法規 5回（10h） （試験1h）	2　事例を通して医療従事者としての業務と責任について学ぶ。	2　病院における看護の保障と関係法規 1)診療の補助行為に伴う事故 ・注射事故 ・患者間違い ・医療機器操作間違いなど 2)療養上の世話業務における事故 ・褥瘡予防など 3)チーム医療と看護職の責任 ・看護師の倫理綱領 4)看護記録 ・保健師助産師看護師法第42条 ・組織で取り組む事故防止：看護管理者のためのリスクマネジメントガイドライン 5)継続看護における個人情報の取り扱い ・情報共有 6)医療過誤（事例） ・事例　誤注射・患者の間違い・医療機器操作ミス	*外部講師(10h) 【法廷見学】(2h)含む

専 門 分 野 I

基 礎 看 護 学

基礎看護学

【基礎看護学の考え方】

基礎看護学は、看護学生が最初に学習する専門分野であり、専門分野Ⅱおよび統合分野の基盤となる基礎的看護技術や看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養うことをねらいとする。基礎分野の物理学・心理学、専門基礎分野の形態機能学等を想起しながら物事の根拠を追究すると共に、生活様式を考慮した看護の知識と技術の追究を目指す。

「看護学概論」では看護の基本概念や看護の本質について学び、また、専門職として責任ある行動についても考える。「看護の理論」は、近代看護の創始者であるナイチンゲールの看護の考え方をはじめ、ニード論や人間関係論、システム論などの諸理論を学び、看護を科学的に考える力を養う。

基礎看護技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容である。看護技術を「看護の目標達成の為のエビデンスに基づいた具体的な方法である」と定義し、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。その科目は、＜看護の基本となる技術Ⅰ～Ⅳ＞と＜生活を整える技術Ⅰ～Ⅱ＞、＜診療に伴う技術＞および、＜臨床看護技術＞で構成する。

＜看護の基本となる技術＞では、Ⅰ：対象を理解する第一歩である人間関係成立のためのコミュニケーション技術と倫理的な考え方、Ⅱ：患者の身体状況を把握するためのフィジカルアセスメント技術、Ⅲ：安全な療養環境を整える技術、活動・休息、Ⅳ：看護を科学的に展開するための思考プロセスを学ぶ。＜生活を整える技術＞は、Ⅰ：食事・排泄、Ⅱ：清潔・安楽の組み立てとする。対象の基本的な日常生活を支える援助について、形態機能学とリンクさせ、根拠を理解したうえで、援助技術の習得を図る。＜診療に伴う技術＞では、薬物療法を安全かつ正確に実施する技術を学ぶ。さらに、＜臨床看護技術＞では、健康障がいをもつ対象を理解し、状態に応じた看護と治療・検査における看護を学ぶ。事例に対して、健康問題の解決を図るためのアセスメントを行い、複数の技術を組み合わせて、必要な援助を実践できる能力を養う。そのためには、既習の様々な知識を想起し、統合することが重要である。

全ての援助に際しては、科学的根拠や原理・原則を考えながら、より安全・安楽に、自立を目指し、対象の個別性を尊重した援助が実践できるようにする。

専門分野Ⅰにおいて学んだ基本的な知識と技術を基盤に、専門分野Ⅱおよび統合分野において、応用・発展させていく。

【目的】

看護の対象である人間の、生を受けてから生を終えるまでのライフサイクルと、健康の意義および保健･医療・福祉に於ける看護の機能と役割を理解し、看護の実践力となる基礎知識・技術・態度を習得する。

【目標】

1 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけおよび役割を理解できる。
2 看護実践の基盤となる基礎的な知識と基本的な技術を習得できる。
3 対象の身体状況や状態を理解し、生活の状態に応じた基礎的な看護が実践できる。
4 対象の安全を守り、安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を身につける。
5 科学的な思考に基づいた看護過程の展開ができる。

【構成および計画】

＜講義＞

科目（授業科目）	単位数	時間数	学年別　計画時期			備考
			1 年	2 年	3 年	
看護学概論	1	30	1(30)			
看護の理論	1	15	1(15)			
看護の基本となる技術Ⅰ	1	30	1(30)			
看護の基本となる技術Ⅱ	1	30	1(30)			
看護の基本となる技術Ⅲ	1	30	1(30)			
看護の基本となる技術Ⅳ	1	30	1(30)			
生活を整える技術Ⅰ	1	30	1(30)			
生活を整える技術Ⅱ	1	30	1(30)			
診療に伴う技術	1	30	1(30)			
臨床看護技術	1	30		1(30)		
合計	10	285	9 (255)	1(30)		

＜臨地実習＞

授業科目	実習内容	単位（時間）	時期
基礎看護学実習Ⅰ	人間関係成立・対象の日常生活支援	1（45）	1 年次
基礎看護学実習Ⅱ	看護過程の展開・対象の日常生活支援	2（90）	1 年次
合計		3 単位 135 時間	

授　業　科　目:　看護学概論
単位(時間数):　1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標:
1　看護の概念を学び、看護の本質と位置づけおよび機能と役割を理解できる。

単元	目標	内容	備考
看護の概念 6回(12h)	1　看護の概念、看護の機能、看護実践の概要が理解できる。	1　看護の概念 1)看護とは 2)看護の定義(目的、対象) 3)保健師助産師看護師法の定義 2　看護の機能 1)日常生活への支援機能(身体的援助) 2)診療の補助機能 3)相談(精神的援助) 4)指導(教育的援助) 5)環境調整機能 3　看護実践へのアプローチ 1)看護技術 2)人間関係形成 3)方法論としての看護過程の活用 4　看護の変遷	F.ナイチンゲール「看護覚え書」 V.ヘンダーソン「看護の基本となるもの」
看護の対象 2回(4h)	2　看護の対象としての人間について理解できる。	1　看護の対象としての人間 1)統一体としての人間 2)人間と欲求 3)ライフサイクル 4)人間と環境 2　患者と家族	個人ワーク、グループワークの課題をその都度、取り組む。
健康の概念 3回(6h)	3　健康の概念を明らかにし、健康段階と連続性について理解できる。	1　人間にとっての健康 1)健康の定義 2)健康に影響する諸要因 2　基本的権利としての健康 1)国民の健康状態 2)健康を守る法律・施策 3)プライマリ・ヘルスケア 4) ヘルスプロモーション 3　生活と健康 4　健康の段階と連続性	
看護活動の場と看護の役割 1回(2h)	4　保健医療福祉の場と看護の役割について理解できる。	1　保健医療福祉の場における看護活動 2　チーム医療と多職種の理解 3　継続看護	
専門職としての看護職 2回(4h)	5　看護専門職としての責任ある行動について考えることができる。	1　看護の専門性 2　職業倫理・看護倫理 3　看護と法 4　看護職のキャリアデザイン 5　専門職としての看護職の課題	
試験(2h)			

授　業　科　目：看護の理論
単位（時間）：　1単位(15時間)　　1年次
科　目　目　標：
1　看護理論の意義と分類を理解できる。
2　主な看護理論の概要を理解できる。

単元	目標	内容	備考
看護理論 7回（14h）	1　看護理論の意義と分類を理解できる。	1　看護理論 1）理論とは 2）看護理論の意義 3）看護理論の歴史的意義 2　看護理論の分類 1）テーマによる分類 （1）ニード （2）相互作用、人間関係 （3）システム （4）ケアリング 2）大きさによる分類 （1）大理論 （2）中範囲理論 （3）小理論	
	2　主な看護理論の概要を理解できる。	1　主な看護理論 1）近代看護の創始者：ナイチンゲール 2）ニード論：ヘンダーソン 3）人間関係 （1）トラベルビー （2）ウィーデンバック （3）ペプロー （4）オーランド 4）システム論 （1）オレム （2）ロイ 5）ケアリング （1）ベナー （2）ワトソン （3）レイニンガー 6）日本の看護理論 （1）科学的看護論：薄井担子 （2）KOMI理論：金井一薫	個人ワーク、グループワークの課題をその都度、取り組む。
	3　看護過程に関連した概念を理解できる	1　ゴードンの機能的健康パターン	
試験（1h）			

授　業　科　目：看護の基本となる技術Ⅰ
単位（時間数）：1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標：
1　看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。
2　看護倫理について理解し、看護師としての責任を自覚できる。

単元	目標	内容	備考
看護技術の概念 1回(2h)	1　看護技術の概念が理解できる。	1　看護技術概論 1）看護技術とは ・安全　・安楽　・自立 ・観察 2）ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術	
看護におけるコミュニケーション 8回(16h)	2　看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解し、人間関係成立のための基礎的な技術を習得できる。	1　コミュニケーションの基礎知識 1）対人関係プロセスとしてのコミュニケーション 2）コミュニケーションプロセスに影響する要因 2　看護場面に応じた基本的なコミュニケーション 1）患者とのコミュニケーション （1）出会い、聴く、話す （2）感じる、察する、沈黙 2）ケアとしてのコミュニケーション （1）傾聴 （2）説明、確認、代弁、気遣い 3）医療スタッフとのコミュニケーション （1）報告、記録 （2）交渉、調整、確認 （3）インフォームドコンセントと看護師の役割 【校内実習】<4h> 1　患者とのコミュニケーション 2　医療スタッフとのコミュニケーション	人間関係論を想起しながら学ぶ。 講義の中でも体験的に学ぶ方法で行っていく。
看護倫理 5回(10h) 試験（2h）	3　看護倫理の必要性を理解し、倫理的課題に対する看護師の役割を考えることができる。	1　倫理とは 1）内的規範（道徳・倫理）と外的規範（法） 2）社会の中の倫理、生活の中の倫理 3）倫理原則 2　看護倫理 1）医療や看護に関する倫理の変遷と背景 （1）インフォームドコンセント（2）アドボカシー 2）倫理規定 （1）日本看護協会「看護者の倫理綱領」 （2）ICN「看護師の倫理綱領」 （3）患者の権利章典 3）看護学生としての倫理 （1）責任と義務と権利　（2）臨地実習 （3）看護研究 3　倫理的課題（倫理的ジレンマ） 1）倫理的課題と意思決定 2）倫理的課題解決方法 （1）倫理の対立と倫理的ジレンマ （2）倫理的分析と意思決定のためのモデル （3）生命倫理上の意思決定モデル 【演習】<2h> 倫理的課題を解決するプロセス	個人ワーク、グループワークの課題をその都度、取り組む。

授　業　科　目:看護の基本となる技術Ⅱ
単位(時間数): 1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標:
1　フィジカルアセスメントの意義を理解し、方法の一部が習得できる。
2　看護における記録・報告の意義と方法を理解できる。

単元	目標	内容	備考
フィジカル アセスメント 12回(24h)	1　フィジカルアセスメントについての知識と基本的な手段を理解できる。	1　フィジカルアセスメントとは 1)ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント 2)情報の種類 (1)主観的情報　(2)客観的情報 3)フィジカルイグザミネーション (1)視診　(2)触診　(3)打診　(4)聴診	
	2　バイタルサインの意義を理解し、技術を習得できる。	1　バイタルサインとは 1)意識　2)体温　3)脈拍　4)呼吸　5)血圧	
	3　フィジカルアセスメントの意義を理解し、基本技術を習得できる。	1　胸部(呼吸器・循環器)のフィジカルアセスメント 1)呼吸器系 (1)胸部の視診　(2)触診(音声振盪音等) (3)打診・聴診(呼吸音等) 2)循環器系 (1)胸部の視診、触診　(2)聴診(心音) 2　腹部(消化器系)のフィジカルアセスメント (1)腹部の視診　(2)聴診(腸蠕動音等) (3)打診、触診 3　筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1)関節可動域 (2)徒手筋力テスト、握力 4　脳・神経系のフィジカルアセスメント (1)意識状態 (2)瞳孔　対光反射 (3)視神経、動眼神経、三叉神経、顔面神経等 (4)感覚・知覚機能 (5)反射　(6)小脳機能 5　感覚器(眼・耳)のフィジカルアセスメント (1)視力・視野 (2)聴力	
	4　身体計測の意義と方法を理解できる。	1　身体の計測 1)身長　2)体重　3)腹囲測定	
		【校内実習】＜12h＞ 1　バイタルサイン測定の実際と記録・報告　〈6h〉 血圧測定の技術チェックを含む 2　フィジカルアセスメントの実際 (1)胸部　〈2h〉 (2)腹部　〈2h〉 (3)感覚器(目・耳)、筋・神経　〈2h〉	身体計測は講義の中で取り組む。
記録・報告 2回(4h)	1　看護における記録・報告の意義と方法を理解できる。	1　記録 1)記録の意義と目的、重要性 2)記録の種類、方法と留意点 2　報告 1)報告の意義と目的、重要性 2)報告の方法と留意点	
試験(2h)			

授　業　科　目：看護の基本となる技術Ⅲ
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標：
1　活動・休息の意義を理解し、基本的な技術が習得できる。
2　安全・安楽な医療環境・療養環境の意義が理解でき、環境調整の方法が習得できる。
3　感染予防の意義を理解し、安全を確保するための感染予防と無菌操作の援助技術が習得できる。

単元	目標	内容	備考
活動・休息 5回（10h）	1　健康な生活と活動・休息の関連を理解できる。 2　ボディメカニクスを活用して、効率的で安楽な活動の援助方法が習得できる。	1　活動の基礎的知識 1）　活動と運動 2）　体位の種類と身体への影響 （1）体位の種類　　（2）安楽な体位 （3）同一体位の有害性 3）活動における安全・安楽・自立・個別性 4）ボディメカニクス 5）活動・運動のニーズとアセスメント （1）筋・骨格のアセスメント （2）日常生活動作（ADL） 2　休息・睡眠の基礎的知識 1）休息と睡眠の意義 2）休息と睡眠の障害 3）休息と睡眠を促す援助 1　活動の援助方法 1）ボディメカニクス活用の目的と方法 2）車椅子・ストレッチャーの移動・移送の目的と留意点 【校内実習】〈8h〉 1 ボディメカニクス①〈2h〉 安定した作業姿勢・水平移動 2 ボディメカニクス②〈4h〉 体位変換・安楽な体位・移乗 3 車椅子・ストレッチャーの移送　〈2h〉	形態機能学「動く」「眠る」と関連させて学ぶ。
環境 5回（10h）	1　安全・安楽な医療環境・療養環境の意義が理解でき、環境調整の方法が習得できる。	1　安全・安楽な療養環境 1）療養の場としての環境調整 （1）療養に適した環境（地域・病院・病室） （2）環境調整における看護師の役割 （環境整備・リネン交換） 2）患者が感じる療養環境 （1）物的環境（音・光・臭気）が患者に及ぼす影響 （2）人的環境が患者に及ぼす影響 【校内実習】〈6h〉 1　ベッドメイキング　〈2h〉 2　臥床患者のリネン交換　〈4h〉	
感染予防 無菌操作 4回（8h） 試験（2h）	1　感染予防の意義を理解し、安全を確保するための感染予防と無菌操作の援助技術が習得できる。	1　感染予防 1）感染と伝播経路(感染経路) 2）標準予防策(ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ) ①手洗いの種類と方法 ②防護用具の種類と装着方法 3）感染経路予防策 2　無菌操作 1）洗浄・消毒・滅菌 2）無菌操作 3）感染性廃棄物の取り扱い 【校内実習】〈4h〉 1　衛生学的手洗い・防護用具の着脱　〈2h〉 2　無菌操作　〈2h〉	

授　業　科　目：看護の基本となる技術Ⅳ
単位（時間数）：1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標：
1　科学的思考に基づいた看護過程の意義と方法を理解し、展開できる。

単元	目標	内容	備考
看護過程の 基礎的知識 4回（8h）	1　看護過程の意義と基礎的知識を理解できる。	1　看護過程とは 1）看護過程の意義と必要性 2）基盤となる理論 (1)問題解決思考　(2)クリティカルシンキング (3)三つの判断 2　NANDA－Ⅰ看護診断とは 3　ゴードンの機能的健康パターンとアセスメント 1）パターンの概念 (1)健康知覚-健康管理パターン (2)栄養・代謝パターン (3)排泄パターン (4)活動・運動パターン (5)睡眠-休息パターン (6)認知-知覚パターン (7)自己知覚・自己概念パターン (8)役割関係パターン (9)セクシュアリティパターン (10)コーピング-ストレス耐性パターン (11)価値-信念 4　基本的な看護診断の概念 5　看護過程の実際 ・情報取集　・解釈・分析　・診断の確定 ・成果の設定　・介入の計画　・実施・評価	「NANDA-I　定義と分類」を使用する。
看護過程展開 10回（20h） 試験（2h）	2　看護過程のプロセスと方法を理解し、展開できる。	1　アセスメント 1）情報整理 2）解釈・分析 2　診断の確定 3　計画立案 1）成果 2）介入 4　実施 5　評価 【演習】〈10h〉 事例を展開する	事例を展開し、方法を理解する。 グループワークを取り入れて各担当教員から指導を受ける。

授　業　科　目：生活を整える技術Ⅰ
単位（時間数）：1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標：
1　健康と食の関連について理解し、栄養状態を整えるための基本的な看護技術が実施できる。
2　排泄の意義を理解し、安全で安楽な排泄のための基本的な看護技術が実施できる。

単元	目標	内容	備考
栄養と食 5回（10h）	1　栄養と食の基礎的な知識を理解し、栄養と食事に関するアセスメントができる。	1　食事の基礎的知識 1）日本の食文化 2）食事の意義 （1）身体的意義　（2）心理的意義 （3）社会的意義 3）食事における安全・安楽・自立・個別性 2　栄養と食事のアセスメント 1）食欲と食行動 2）食環境が及ぼす影響 3）摂取～嚥下のアセスメント 4）栄養状態のアセスメント	
	2　栄養状態を整えるための援助技術が習得できる。	1　安全・安楽・自立・個別性を考慮した援助 1）食事摂取に適した環境づくり 2）安全で安楽な食事援助 （1）摂取・嚥下状態の観察　（2）姿勢・体位づくり （3）全身状態の観察 3）口腔ケアによる効果と方法 2　非経口的栄養摂取の援助 【校内実習】〈4h〉 1　食事介助の基本　口腔ケア　〈4h〉	
排泄 9回（18h）	1　排泄の基本的な知識を理解し、排泄に関するアセスメントができる。	1　排泄の基礎的知識 1）文化から見る排泄 2）排泄の意義 （1）身体的意義（2）心理的意義 （3）社会的意義 3）排泄における安全・安楽・自立・個別性 2　排尿・排便行動のアセスメント 1）排泄行動の自立の程度と影響因子 2）排泄障害が対象に及ぼす影響	
	2　安全で安楽な排泄の援助技術が習得できる。	1　排泄の援助技術 1）排泄環境の整備 2）排泄のための器具と設備 3）床上排泄の援助方法 4）排泄後の清潔保持と感染予防 5）排泄の障害と援助 ①排尿の障害(尿閉) ②排便の障害(便秘) 【校内実習】〈10h〉 1　尿器・便器を用いた排泄援助　〈2h〉 2　浣腸・摘便　〈4h〉 3　導尿　〈4h〉	
試験（2h）			

授　業　科　目：生活を整える技術Ⅱ
単位（時間数）：1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標：
1　人間にとっての清潔と衣生活の意義を理解し、基本的な技術が実施できる。
2　安楽の意義を理解し、基本的な方法が実施できる。

単元	目標	内容	備考
身体の清潔 12回（24h）	1　健康な生活と清潔との関連を理解し、身体の清潔を整える援助技術が習得できる。	1　清潔と衣生活の意義 1）生理的な意義 2）心理的な意義 3）文化的・社会的な意義 2　清潔を整えるための援助技術 1）清潔に対するニーズとアセスメント 2）入浴の身体への影響 3）皮膚・粘膜の状態と留意点 4）入浴ができない場合の援助 （1）全身浴・シャワー浴 （2）部分浴 ①手浴・足浴 （3）洗髪 （4）陰部洗浄 （5）清拭　（全身清拭、熱布清拭） 5）口腔ケア 6）爪のアセスメントと援助方法 （1）爪の状態と留意点 （2）爪のケア 3　病床での衣生活の援助技術 1）適切な病衣とは 2）寝衣服交換 ①和式寝衣　②上・下衣　③靴下 【校内実習】〈18h〉 1　清潔援助の基本技術　〈2h〉 2　全身清拭・寝衣交換　〈4h〉 3　足浴　〈4h〉 4　陰部洗浄　〈4h〉 5　洗髪　〈4h〉	形態機能学「風呂に入る」と関連させて学ぶ。 口腔ケアの技術については基本となる技術Ⅰ「食事」で実施する
安楽を提供する技術 2回(4h)	1　安楽の要因を理解し安楽を提供するための基本的な技術を理解できる。	1　看護における安楽とは 2　安楽の構成要素および阻害因子 1）身体面（苦痛、疼痛、不快感、疲労など） 2）精神面（不安、孤独、悩み、気遣いなど） 3）社会面（人間関係、経済的困窮など） 3　安楽を提供する援助 1）手で触れる効果と方法 2）温める効果 【校内実習】〈2h〉 1　マッサージ　〈2h〉	
試験（2h）			

授　業　科　目：診療に伴う技術
単位（時間数）：1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標：
1　与薬における看護についての基礎的知識を理解し、基本技術の一部が習得できる。
2　輸血療法に関する看護についての基礎的知識を理解できる。

単元	目標	内容	備考
与薬における看護師の役割と援助の実際 13回(26h)	1　与薬における看護師の役割を理解できる。	1　看護師の役割 1）薬の管理 2）指示受けの確認、情報伝達と共有 3）正確な実施（6R確認）	
	2　安全で確実な方法で与薬を実施できる。	1　与薬の実際 1）与薬とは 2）内用薬、外用薬の与薬法と実際 ・経口与薬　・口腔内与薬　・直腸内与薬 ・経皮的与薬　・点眼、点鼻、点耳　・吸入 3）注射法と実際 （1）注射の種類と実際 ・皮内注射　・皮下注射　・筋肉内注射 ・静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射） （2）注射器具の取り扱い （3）輸液中の管理 （4）注射における安全 ①針刺し防止と針刺し後の対応 ②静脈注射における看護師の診療の補助における範疇	
		【校内実習】〈12h〉 1　経口与薬法・直腸内与薬法　〈2h〉 2　注射の準備　〈2h〉 3　皮下注射・筋肉注射　〈4h〉 4　点滴静脈内注射　〈4h〉	校内実習で注射の技術チェックを実施していく。
輸血療法と看護 1回（2h） 筆記試験（1h） 技術試験(1h)	1　輸血療法とその看護を理解できる。	1　輸血療法と看護 1）輸血の目的 2）輸血の種類と方法 3）輸血を実施する際の留意点	

授　業　科　目：臨床看護技術
単位（時間数）：1単位(30時間)　　2年次
科　目　目　標：
1　健康障がいを持つ対象を理解し、症状に応じたの看護援助を理解し、方法の一部が習得できる。
2　検査の目的・方法と看護師の役割を理解できる。

単元	目標	内容	備考
主要症状別看護 10回（20h）	1　代表的な症状や状態を理解できる。 2　対象の症状や状態に応じた援助技術を習得できる。	1　発熱 1）発熱とは 2）観察とアセスメント （1）誘因とメカニズム （2）症状の観察方法 （3）検査と治療 3）発熱を緩和するための援助 【校内実習】〈2h〉 1　冷罨法　温罨法　〈2h〉 2　呼吸困難 1）呼吸困難とは 2）呼吸の観察とアセスメント （1）誘因とメカニズム （2）症状の観察方法 （3）検査と治療 3）呼吸困難を緩和する援助 （1）体位の工夫　（2）呼吸法　（3）吸入・吸引 【校内実習】〈6h〉 1　酸素吸入　〈2h〉 2　ネブライザー・吸引（口鼻腔）　〈4h〉 3　浮腫 1）浮腫とは 2）浮腫の観察とアセスメント （1）誘因とメカニズム （2）症状の観察方法 （3）検査と治療 3）浮腫を緩和する援助 （1）体位の工夫　（2）薬物効果のアセスメント （3）食事療法 4　症状を持つ患者の看護 1）事例を基に必要な看護を考える 【校内実習】〈4h〉 1　事例に対して立案した看護の実施　〈4h〉	
検査に伴う看護 4回（8h） 試験（2h）	1　検査を受ける患者の安全を守り、安楽に配慮した看護を実践するための知識と技術を理解できる。	1　検査の種類とその看護 1）検体検査（血液・尿・便・喀痰・唾液） 2）生体検査 （1）心電図検査　（2）超音波検査　（3）X線検査 （4）CT検査　（5）MRI検査　（6）内視鏡検査 （7）呼吸機能検査　（8）核医学検査 【校内実習】〈4h〉 1　静脈採血法　〈4h〉	

専 門 分 野 Ⅱ

成 人 看 護 学

成人看護学

【成人看護学の考え方】

成人期は総人口の約６割を占めており、青年期、壮年期、向老期と長期に及び、社会的役割を担う発達段階である。その発達段階の特徴として、成人期にある人は、自立・自律した存在であり、基本的には自分のことは自分で出来る、意思決定できる存在として捉えた。たとえ病気になったとしてもセルフマネジメントでき、積極的に自分の治療法の選択や養生法に責任を持ち努力できる（アドヒアランス）存在である。

成人期の死因上位は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患である。生活習慣やストレスは、成人の健康に大きな影響を及ぼし、青年期の自殺、壮年期の男性の自殺も増加している。

一方、一般病院の平均在院日数は短縮化傾向にあり、入院中の患者は健康の危機的状況であることが多い。また、成人期の役割を果たすために、外来で治療しながら社会生活をおくっている場合も多い。入院中の危機的状況や苦痛の緩和への対応、及び、成人の健康を脅かしている生活習慣病やがん、機能障害などをかかえて生活する人への健康教育や患者教育（成人教育：アンドラゴジー）が必要とされる。

看護は、多様な健康状態にあわせ、生活スタイルや価値観を踏まえ、それぞれにあわせた QOL を踏まえた援助を提供していく必要がある。そのためには、患者と家族の状況を受け止め、そのニーズを総合的に判断し、配慮した上での実施が求められる。また、患者と家族の気持ちや思い、希望をとらえた上での説明と同意が欠かせない。したがって、多様な健康状態・障害に対するアセスメント力（症状や疾患及び検査・治療に関する理解、健康障害が生活に及ぼす影響の理解、看護判断力等）及び実践力の育成が必須である。
以上を踏まえ、講義は成人期にある人の理解と健康課題の概要を学ぶ成人看護学概論、成人期の健康上の課題や特徴から、セルフマネジメント、健康危機状況、セルフケア、緩和ケアをキーワードに科目設定した。できるだけ事例をとおして学習できるようにし、必要な技術については学内実習を行うこととした。また、臨地実習についても、科目と同様の枠組みとした。

【目的】

成人期にある人の健康の保持増進、健康障害時の諸問題を総合的に把握し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

【目標】

1　成人期にある人を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
2　成人期にある人の健康障害とその予防について理解できる。
3　慢性疾患を持つ患者と家族のセルフマネジメントの支援について理解できる。
4　健康危機状況及び生命の危機状況にある患者と家族の看護について理解できる。
5　身体の機能の一部を喪失した患者と家族の機能回復及びセルフケア再獲得のための看護について理解できる。
6　緩和ケアを必要とする患者と家族の理解と苦痛の緩和、QOL を高めるための看護について理解できる。
7　成人期にある人の健康上の問題を明らかにし、問題解決のために必要な基礎的知識・技術・態度を習得できる。

【構成および計画】

＜　講義　＞

科目（授業科目）	単位数	時間数	学年別計画単位時間		
			1年	2年	3年
成人看護学概論	1	30	1(30)		
セルフマネジメントに向けての看護	1	30	1(30)		
健康危機状況における看護	1	30		1(30)	
セルフケア再獲得に向けての看護	1	30		1(30)	
緩和ケアを必要とする人の看護	1	30		1(30)	
成人の看護過程	1	30		1(30)	
合計	6	180	2（60）	4（120）	

＜臨地実習＞

科目	授業科目	単位（時間）	時期
成人看護学実習Ⅰ	セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護実習	2（90）	2～3年次
成人看護学実習Ⅱ	健康の危機状況にある人の看護実習	2（90）	2～3年次
成人看護学実習Ⅲ	緩和ケアを必要とする人の看護実習	2（90）	2～3年次
合　計		6単位 （270時間）	

授　業　科　目　：成人看護学概論
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　成人期の特徴と成人特有の健康問題について理解できる。
2　成人期の看護を実践していくために有用とされる理論について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
成人期にある人の特徴 5回（10h）	1　成人期にある人の特徴を理解できる。	1　成人期の特徴 1)発達段階・発達課題 （1）成長発達と成人の区分 （2）成人期の発達課題 ①エリクソン　②ハビガースト　③レビンソン 2　身体的・精神的・社会的変化の特徴 1)成人の成長発達 （1）人口統計（平均寿命、死因別死亡率） （2）成人の生活と保健行動 2)成人の役割 （1）家族役割 （2）社会的役割	
	2　成人各期の特徴が健康問題に及ぼす影響を理解できる。	1　成人各期の健康問題 1)青年期、壮年期、向老期の身体的問題 2)社会的問題 3)心理的問題 2　成人と死 1)発達段階における死の理解 2)死の受容過程(キューブラ=ロス) 3　成人の生活と健康問題 1)産業保健　2)学校保健　3)地域保健	
成人における健康の保持増進や疾病の予防 4回（8h）	1　成人期に見られる健康問題とその予防を理解できる。	1　成人の特徴と健康 1)生活習慣病の種類と発生状況 （要因と関連疾患） 2)生活習慣病の特徴と予防対策 （メタボリック症候群、健康づくり対策、がん対策基本法） 2　職業性疾病及び業務上疾病と予防 1)就業条件・環境と病気 2)職業病の発生状況 3)労働衛生対策の基本と対応 4)成人の生活ストレスと健康問題 5)ストレスの徴候と主なストレス関連疾患 6)健康づくり対策 トータル・ヘルスプロモーション	
成人教育に必要な理論と意義 5回（10h） 試験(2h)	1　成人教育の理論と意義及び学習者の理解ができる。	1　成人看護に有用な理論 1)セルフケア 2)病みの軌跡 3)自己効力感 4)ストレス・コーピング 5)危機モデル 2　成人教育の意義 1)身体的発達と学習能力・学習方法 2)アンドラゴジーモデル 3)成人教育の実際 （1）成人教育指導　指導技術	

授　業　科　目　：セルフマネジメントに向けての看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　慢性疾患における対象理解およびセルフマネジメントの考え方が理解できる。
2　病状コントロール、機能障害とセルフマネジメントについて理解できる。
3　社会生活継続のためのマネジメントについて理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
慢性疾患と セルフマネジメントを 必要とする人の患者 と家族の看護 1回（2h）	1　慢性疾患における セルフマネジメントを必 要とする患者と家族の 看護が理解できる。	1　慢性疾患がある患者と家族の特徴 1）慢性疾患の特徴 2）慢性疾患とともにある生活 2　慢性疾患の治療と看護の基本 1）治療選択・意思決定への支援 2）継続的な支援体制と連携 3　セルフケア・自己管理への看護 1）セルフケアに影響する要因 2）セルフケアの工夫への支援	
慢性疾患と セルフマネジメントを 必要とする患者と 家族の看護の実際 13回(26h)	1　病状コントロール、 社会生活継続のための セルフマネジメントにつ いて理解できる。	1　糖代謝に障害がある人の看護 1）高血糖による身体の問題と看護 （1）高血糖による症状 （2）病状変化の把握とコントロール状態の評価 ①血糖検査、血液検査　②糖負荷試験 2）心理・社会的な問題と看護 （1）合併症の知識とセルフモニタリング技術 （2）食事療法・運動療法・薬物療法の指導 ①自己血糖測定、インスリン製剤の与薬方法 ②経口血糖薬の与薬方法 ③低血糖時・シックディの症状・対処方法 （3）日常生活　（4）フットケア （5）社会生活継続のためのマネジメント 2　肝機能に障害がある人の看護 1）肝機能低下による身体の問題と看護 （1）肝機能低下による症状 （2）肝疾患の概要　（3）肝疾患の検査 2）肝硬変の病態の特徴と看護 （1）肝硬変の基礎知識　（2）肝硬変の症状 （3）肝硬変の検査・分類　（4）肝硬変の治療 （5）肝硬変の合併症と予後及びその治療 3）セルフマネジメント・社会復帰継続のための看護 （1）代償期の生活指導　（2）非代償期の生活指導 （3）継続治療への援助 3　腎機能に障害がある人の看護 1）腎機能低下による身体の問題と看護 （1）腎機能低下による症状 （2）病状変化の把握とコントロール状態の評価 ①生化学検査　②尿検査 （3）検査・治療時の看護 ①腎生検　②腹膜透析 ③血液透析（シャント造設、不均衡症候群） 2）心理・社会的な問題と看護 （1）生涯続く治療に対する不安 （2）社会的役割遂行上の不安 3）セルフマネジメントのための看護 （1）食事指導　（2）生活指導 （3）血液透析・腹膜透析をしている患者の指導 4　呼吸機能に障害がある人の看護 1）呼吸機能低下による身体の問題と看護 （1）呼吸機能低下による症状 （2）呼吸器疾患の概要　（3）呼吸器疾患の検査 2）慢性閉塞性肺疾患の病態の特徴と看護 （1）慢性閉塞性肺疾患の基礎知識 （2）慢性閉塞性肺疾患の症状 （3）慢性閉塞性肺疾患の検査 （4）慢性閉塞性肺疾患の治療と管理 （5）慢性閉塞性肺疾患の病期に応じた援助 ①急性増悪時　②安定期 （6）日常生活における教育的支援及び援助	＊外部講師（8h） 事例：糖尿病（8h） 事例：肝硬変（6h） ＊外部講師（6h） 事例：腎不全（6h） 事例：慢性閉塞性 肺疾患（6h）
試験(2h)			

授　業　科　目　：健康危機状況における看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　侵襲的治療を受ける人の看護が理解できる
2　急性状態、生命の危機状況にある人の看護が理解できる

単　元	目　標	内　容	備　考
健康危機状況にある人の看護 1回（2h）	1　危機状況にある患者と家族の特徴を理解できる。	1　健康危機状況とは 1)患者の特徴 2)家族の特徴 3)危機状態の精神的支援 4）意思決定支援	
手術療法を受ける人の看護 9回(18 h)	2　周手術期における看護が理解できる。	1　周手術期の看護の役割 1) 周手術期におけるﾁｰﾑ医療と看護師の役割 2) ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄと看護師の役割 3) ｸﾘﾆｶﾙﾊﾟｽ 2　手術侵襲による生体反応 1)Mooreの4相　2)神経・内分泌・代謝系変化 3　術後合併症とそのﾒｶﾆｽﾞﾑ 4　手術前の看護 1)術前の全身状態の評価 2)不安のｱｾｽﾒﾝﾄと援助 3)術前ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 4)術前訓練（深呼吸・咳嗽・ﾄﾘﾌﾛｰ・離床） 5)術前日の看護 （1）除毛　（2）臍処置　（3）全身の清潔保持 5　手術中の看護 1)麻酔の種類　2)術中体位 3)呼吸・循環・体温管理　4)感染予防 5）術直前・術中・術直後の手術室看護師の役割 6　手術後の看護 1)術後の観察 2)術後合併症の予防と回復促進 3)疼痛緩和 4)創部の管理 5)ドレーン管理 6)術後身体変化に適応するための支援 7　開腹術・開胸術を受ける人の特徴 1) 術前の看護 2) 術後合併症の予防と看護 8　低侵襲手術を受ける人の特徴 1) 術前の看護 2) 術後合併症の予防と看護	＊外部講師（4h） 事例：胃がん 肺がん
生命の危機状況にある人の看護 4回(8h) 試験(2h)	1　生命の危機状態で治療を必要とする人の看護の特徴が理解できる。	1　集中治療の場 1）ICU　2）CCU　3）救命救急ｾﾝﾀｰ 2　集中治療の対象 3　集中治療における看護の特徴と役割 1)ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ　2)ｱｾｽﾒﾝﾄ　3)医療ﾁｰﾑの連携 4　集中治療室の環境 5　精神的ｹｱ・家族ｹｱ ＜校内実習＞(2時間) 肺理学療法	＊外部講師(8h)

授　業　科　目　：セルフケア再獲得に向けての看護
単位（時間数）：1単位(30時間)　　2年次
科　目　目　標　：
1　生活者としての成人を主軸として捉え、セルフケアの必要性について理解できる。
2　機能の一部を喪失した成人のセルフケア再獲得に向けての看護について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
セルフケア再獲得が必要な成人の理解と看護 1回(2h)	1　成人におけるセルフケアの必要性と再獲得について理解できる。	1　成人とセルフケア 2 リハビリテーションの特徴とその看護 1)生活機能障害と日常生活活動 3　障害に対する受容と適応への援助 1)機能障害と日常生活動作のアセスメント 2)ボディイメージの変化と心理過程 4　回復過程と看護の特徴 5　セルフケア再獲得のための必要な支援 1)チームアプローチと社会資源の活用 2)患者の社会参加の支援	
セルフケアの再獲得を目指す看護の実際 13回(26h)	1　セルフケアの再獲得に向けて具体的な看護の実際について理解する。	1　セルフケアの再獲得を支援する看護 1)循環機能障害のある患者の看護 (1)機能障害のアセスメント (2)機能障害の症状とその看護 (3)検査を受ける患者の看護 (4)治療を受ける患者の看護 (5)機能障害を持ちながら生活する人の看護 2)脳血管障害のある患者の看護 (1)急性期の看護 ①診断・検査に伴う看護 脳血管造影、MRI・CT・髄液検査 ②主な症状と看護 瞳孔の観察、意識レベル ③術後合併症の予防と看護 脳浮腫、頭蓋内圧亢進、脳血管攣縮 (2)回復期の看護 ①心身の変化 ②機能障害と生活動作拡大に向けた援助 高次脳機能障害、運動機能障害 (3)生活期の看護 3)脊髄を損傷した人の看護 (1)脊髄損傷レベルとその障害 (2)急性期にある人の看護 (3)回復期・生活期にある人の看護 4)乳房切除を受ける人の看護 (1)受容へのアプローチ ①　ボディイメージの変化へのサポート ②　セクシャリティのサポート (2)合併症の予防とリハビリテーション リンパ浮腫のケア (3)形成術と補正用品の紹介・説明 (4)退院生活の指導 5)ストーマ造設術を受ける人の看護 (1)受容のアプローチ ①ボディイメージの変化のサポート (2)ストーマ・サイト・マーキング (3)ストーマの管理とケア ①スキンケア (4)日常生活の指導 (5)社会資源の紹介と活用 〈演習〉(2h) ストーマ管理とケア	事例：心筋梗塞(8h) ＊外部講師　(6h) 事例：脳出血 事例：脊髄損傷(4h) *外部講師　(4h) 事例：乳がん *外部講師　(4h) (講義2h、 校内演習2h) 事例：大腸がん 膀胱がん
試験(2h)			

授　業　科　目　：緩和ケアを必要とする人の看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1 苦痛の緩和と、その個人がもつ力を支える援助と望みを実現するための看護について理解できる。
2 がん患者と家族の特徴と看護について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 9回（18h）	1 緩和ケアの現状と課題が理解できる。	1　緩和ケアの現状と課題 1）歴史と現状 （1）ホスピス・緩和ケア病棟 （2）がん対策基本法 2）緩和ケアの理念 （1）全人的苦痛の緩和 （2）緩和ケアの対象（がん・非がん患者） 2　緩和ケアにおける倫理的課題 1）生命倫理の4原則 2）意思決定支援 3）SOLとQOL 4）　緩和ケアにおけるコミュニケーション 5）　チーム医療	
	2　緩和ケアを必要とする人と家族への介入の実際を理解できる。	1 身体的苦痛とケア 1)症状アセスメント 2)WHO除痛ラダー 3）疼痛緩和の方法 2　精神的苦痛とケア 1）危機・喪失・悲嘆・予期悲嘆 2）適応障害・抑うつ・せん妄 3 社会的苦痛とケア 4 霊的苦痛とケア 1）支持的コミュニケーション 5　家族ケア 1）家族のあり方 2）家族アセスメントの方法と家族ケアの方法 3）家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援 4）脳死状態の対応	＊外部講師　4h ＊外部講師　4h
	3　危篤時・死亡時の看護が理解できる。	1　終末期の状態変化 1）身体的ケア 2）精神的ケア 2　グリーフワーク・グリーフケア ＜演習＞　（2h） 緩和ケアの必要な人とのコミュニケーション	
がん患者と家族への理解と看護 5回（10h） 試験(2h)	1　がん患者と家族への看護が理解できる。	1　がん患者と家族の抱える苦痛 1）転移・浸潤による身体的・心理的苦痛 悪液質・疼痛・倦怠感 2）再発や経過に伴う心理的苦痛 3）社会的偏見や制約に伴う苦痛 4）スピリチュアルな苦痛 2　がん患者の生活上の困難 3　がん患者の治療と看護 1)化学療法 2）放射線療法 3）集学的治療 4　がん患者の社会参加への支援	事例：白血病 肺がん 肝臓がん

授　業　科　目　：成人の看護過程
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　成人期の特徴をふまえて、セルフマネジメントが必要な人の看護過程の展開ができる。
2　成人期の特徴をふまえて、周手術期にある人の看護過程の展開ができる。

単　元	目　標	内　容	備　考
セルフマネジメント 7回(14h)	1　セルフマネジメントが必要な人の看護過程の展開ができる。	1　セルフマネジメントが必要な人の看護過程の実際 1)セルフマネジメントに向けたアセスメント (1)セルフマネジメントを困難にしている要因 (2)学習に必要な能力 2)対象および家族の特徴 3)対象の病態・症状、治療、検査 4)セルフマネジメント支援に必要な情報の整理 情報の分析・解釈 5)対象の情報・アセスメントからの全体像の構造化（関連図） 6)アセスメントに基づいた看護介入 (1)生活継続のための介入 〈演習〉（2h） 指導技術　（ロールプレイ） 7)評価方法	事例：糖尿病
周手術期にある人の看護 7回(14h)	1　周手術期にある人の看護過程の展開ができる。	1　周手術期にある人の看護過程の実際 1)手術後の共同問題 2)手術後の看護計画 (1)合併症の予防と早期離床 (2)苦痛の緩和 3)看護の実際 ＜校内実習＞（4h） 術後の看護 ・手術直後の観察 ・早期離床	事例：大腸がん または胃がん
試験(2h)			

老 年 看 護 学

老年看護学

【老年看護学の考え方】

超高齢社会により医療費の上昇、高齢者世帯の増加、介護力不足などの様々な問題が浮上し、超高齢社会に対応する政策も変化している。このような状況の中で、老年看護の場と機能は拡大し、看護の専門性が求められている。成長発達の最終段階である老年期は、いずれは穏やかに幸せな死を迎えられるべき段階であり、長い人生経験と知恵を尊敬し、個人の生き方・価値観を尊重し個別な存在として理解する必要がある。しかし、核家族化が進み、看護学生の多くは高齢者と接する機会が少ない。そのため老年期の対象理解と高齢者看護の専門性を育むことが必要である。加齢現象は身体生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会･心理的側面に大きな影響を及ぼす。また高齢者の健康障害は、複数の疾患を抱えていることに伴い、より個別的で複雑である。その上、恒常性維持機能の低下によって、合併症・急性増悪・慢性化・廃用症候群等の様々な問題が発現しやすく健康問題が複雑化・長期化しやすい。看護においては高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力とアセスメント力、機能に維持と低下防止、さまざまな生活の場に応じた援助に関する知識・技術が必要とされている。「老年看護学概論」では、高齢者を取り巻く社会として、高齢社会の医療・保健・福祉の現状と高齢者保健医療福祉対策、高齢社会における課題と対策、そして高齢者の健康を理解するために加齢変化・加齢に伴う生活の変化、高齢者の概念や特徴を学び、高齢者とその家族の看護についての関心と理解を深める。「高齢者の日常生活援助技術」では、加齢変化が高齢者の生活に支障をきたしやすいことを理解し、高齢者の QOL の視点から高齢者の生活を支える援助として、食生活・清潔・排泄・活動・睡眠などの日常生活援助技術を学ぶ。「高齢者の健康障害時の看護」では、高齢者の健康障害の特徴をふまえて、さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護を学ぶ。また高齢者のエンドオブライフケアにおける看護を学び、看取りについて考えていく。「高齢者の看護過程」では、加齢変化と健康障害との関連性や日常生活への影響を理解し、QOL の維持・向上を目指した看護を行う必要があること、高齢者の強みに着目し、生活機能の視点でのアセスメントを踏まえた看護を展開する方法を学ぶ。

臨地実習では知識・技術を統合し様々な健康障害を抱える高齢者を包括的にアセスメントする能力を養い、QOL の向上を考慮した看護が展開できることを目指す。さらに、保健・医療・福祉の関連職種の連携を学び、高齢者が生活する環境や地域、社会へと視野を拡大することを目標として学習する。

【目的】

老年期にある対象と対象を支える人々を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

【目標】

1　老年看護の概念および機能と役割が理解できる。
2　高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。
3　高齢者の特徴をふまえ、生活機能を整える看護が理解できる。
4　高齢者の健康障害の特徴と高齢者の健康を支える看護が理解できる。
5　高齢者の特徴と健康障害による生活への影響を考え、生活機能の観点から看護の展開方法が理解できる。
6　老年看護の専門性について考え、自己の高齢者観を深めることができる。

【構成および計画】

〈講義〉

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1年	2年	3年	
老年看護学概論	1	30	1(30)			
高齢者の日常生活援助技術	1	30		1(30)		
高齢者の健康障害時の看護	1	30		1(30)		
高齢者の看護過程	1	15		1(15)		
合計	4	105	1(30)	3(75)		

〈臨地実習〉

授業科目	実習内容	単位（時間）	時期
老年看護学実習Ⅰ	高齢者の日常生活援助	2（90）	2年次7月
老年看護学実習Ⅱ	健康障害のある高齢者の看護	2（90）	2～3年次
合　　計		4単位（180時間）	

授　業　科　目　：老年看護学概論
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：
1　高齢社会の変化と特徴が理解できる。
2　加齢変化と高齢者の健康の概念が理解できる。
3　高齢者を支える社会保障とその環境について理解できる。
4　老年看護の基本的な考え方と倫理的課題が理解できる。

	目　標	内　容	備　考
高齢者の理解 1回（2h）	1　老年期にある人の特徴が理解できる。	1　老年期の理解 1）ライフサイクルからみた高齢者　2）加齢と老化 3）発達課題　4）健康と生活 2　その人らしい生活の継続 1）時代背景に関連する人生と経験の多様性、生活史 2）生活習慣、生活様式 3　加齢への適応 1）喪失体験と獲得体験 2）サクセスフルエイジング	
高齢者の生活 4回（8h）	1　高齢社会における現状と高齢者保健医療福祉施策、課題が理解できる。	1　超高齢社会の統計的輪郭 1）超高齢社会の現状　2）高齢者と家族 3）家族の健康と生活　4）高齢者の健康状態 5）高齢者の死亡　6）高齢者の暮らし 2　高齢者における保健医療福祉の動向 1）医療保険制度 2）介護保険制度 3）高齢者の人権に関する制度 4）介護予防とヘルスプロモーション 3　多様な生活の場で暮らす高齢者 1）医療施設に入院する高齢者の暮らし 2）介護保険施設などに入所する高齢者の暮らし 3）地域密着型サービス、居宅サービスを利用する高齢者の暮らし	
高齢者の健康 6回（12h）	1　加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化が理解できる。	1　高齢者の健康と疾病 1）高齢者の健康の特徴 2）生理的老化と病的老化 2　加齢に伴う変化 1）身体的機能 (1)皮膚　(2)感覚系　(3)循環系 (4)呼吸器系　(5)消化器系 (6)ホルモン系 (7)泌尿生殖系・セクシャリティ　(8)運動系 2）心理・社会的変化 （1）役割と社会活動の変化 （2）余暇活動と生きがい （3）生活パターンの変化 ＜演習＞（2h） 高齢者擬似体験	
老年看護の基本 3回（6h）	1　高齢社会の権利擁護と倫理的課題を理解できる。	1　老年看護の倫理 1）高齢者差別（エイジズム） 2）自己決定・権利擁護（アドボカシー） 3）高齢者虐待 4）身体拘束 2　高齢者の生活の質の保障 1）成年後見制度とノーマライゼーション 2）自立支援とエンパワメント	
試験（2h）	2　老年看護の基本的な考え方を理解できる。	1　老年看護の特徴 2　老年看護における理論・概念の活用 1）ストレングスモデル　2）ライフレビュー 3）コンフォート理論 3　老年看護の基本 1）生活機能に着目した援助 2）加齢への適応 3）高齢者を支える家族への援助 4　高齢者の健康と健康状態 1）健康と疾病に影響する要因 2）健康増進のためのプログラム	

授　業　科　目　：高齢者の日常生活援助技術
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科目目標：
1　加齢変化に伴う日常生活への影響を理解し、生活機能低下の予防及び再獲得に向けた援助が実施できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
高齢者の生活機能と包括的アセスメント 1回（2h）	1　高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点が理解できる。	1　高齢者総合機能評価（CGA） 1）基本的日常生活動作・手段的日常生活動作 2）認知機能 3）心理・情緒機能 4）国際生活機能分類（ICF） 5）社会的要素・家庭環境	
高齢者の生活を支える援助技術 13回（26h）	1　高齢者とのコミュニケーション技術が理解できる。	1　高齢者とのコミュニケーション技術 1）コミュニケーション能力や高齢者とのコミュニケーションを阻害する影響要因のアセスメント 2）高齢者とのコミュニケーションの方法・留意点	
	2　食生活を支える援助技術が実施できる。	1　食生活を支える援助技術 1）加齢による食生活への影響 2）食生活と栄養状態のアセスメント 3）食生活と栄養の援助 ＜校内実習＞（4h） 1　嚥下機能が低下した高齢者の食事援助（嚥下体操・口腔ケア・義歯の取り扱い） 2　経鼻経管栄養法の援助	
	3　清潔・衣生活の援助技術が理解できる。	1　清潔・衣生活・身だしなみの援助技術 1）加齢による清潔・衣生活行動への影響 2）清潔行動・衣生活のアセスメント 3）清潔・衣生活の援助 4）皮膚トラブルに対する援助	
	4　排泄行動を支える援助技術が実施できる。	1　排泄行動を支える援助技術 1）加齢による排泄機能・行動への影響 2）排泄機能・排泄行動のアセスメント 3）排尿・排便障害時の援助 ＜校内実習＞（4h） 1　排泄・清潔への援助 失禁時の陰臀部の清潔援助・おむつ交換・陰部洗浄 2　膀胱留置カテーテルの管理	
	5　活動・休息への援助技術が理解できる。	1　活動・休息の援助技術 1）高齢者の活動・休息に影響を及ぼす因子 2）高齢者の活動・休息のアセスメント 3）高齢者の活動・休息の援助 4）高齢者の睡眠の特徴と影響因子 5）高齢者の睡眠に関するアセスメント 6）高齢者の睡眠への援助 7）生活リズムを整えるための援助	
	6　高齢者の歩行・移動を支える援助技術が実施できる。	1　歩行・移動を支える援助技術 1）歩行・移動動作・姿勢保持のアセスメント 2）歩行・移動動作・姿勢保持の援助 3）高齢者が転倒・転落しやすい要因・背景 4）転倒・転落予防の意義と援助 ＜校内実習＞（4h） 1　離床への働きかけ 2　歩行・移動動作（杖・歩行器の使用法） 3　自動・他動運動（関節可動域訓練を含む）	
試験（2h）	7　高齢者の社会参加を促進する援助が理解できる。	1　社会参加促進への援助 1）社会参加のアセスメント 2）生き甲斐ややりがいを持てる社会参加への援助　（エンパワーメント、アクティビティ）	

授　業　科　目　：高齢者の健康障害時の看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科目目標：
1　高齢者の健康障害の特徴が理解でき、健康障害に応じた看護が理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
高齢者の健康障害の特徴と看護 5回（10h）	1　高齢者の健康障害の特徴が理解できる。	1　健康障害のある高齢者の理解 1）加齢と老年病・老年症候群 （1）老年病・老年症候群とは （2）老年病・老年症候群の特徴と看護上の問題	
	2　高齢者に起こりやすい症候・障害と看護が理解できる	1　高齢者に起こりやすい症候・障害と看護 1）長期臥床状態にある高齢者の看護 （1）廃用症候群・合併症の予防 （2）褥瘡好発部位と褥瘡の評価 2）骨粗鬆症のあるある高齢者の看護 （1）骨粗鬆症の要因と予防 （フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム） （2）生活への影響とアセスメント 3）低栄養症・脱水症のある高齢者の看護 （1）低栄養症・脱水症の症状と生活への影響のアセスメント （2）低栄養症・脱水症の予防と援助 4）加齢による感染症の特徴と看護 （1）感染症症状と生活への影響のアセスメント （2）感染症の予防と援助 5）災害における高齢者の特徴と看護 （1）避難生活と災害関連死の特徴 （2）避難生活の支援と災害関連死の予防	＊外部講師（4h）
健康レベルや受療形態に応じた高齢者看護 9回（18h）	1　認知機能に障害のある高齢者の看護が理解できる。	1　認知機能に障害のある高齢者の看護　（4h） 1）認知症 （1）高齢者の認知症の原因と分類・評価方法 （2）中核症状と行動・心理症状（BPSD） （3）認知症の症状と看護、予防対策 （4）認知症高齢者の人権と権利擁護 2）うつ病 3）せん妄	＊外部講師(4h)
	2　治療を受ける高齢者への看護が理解できる。	1　治療を受ける高齢者への看護 1）薬物療法を受ける高齢者の看護 （1）高齢者の薬物動態・薬物療法の特徴 （2）服薬のセルフケア能力とリスクマネジメント 2)急性期にある高齢者の看護 （1）手術療法を受ける高齢者の看護 （2）手術療法以外の急性期の高齢者看護 3)リハビリテーションを受ける高齢者の看護 （1）回復期の高齢者の特徴 （2）生活機能の維持・向上につなぐ看護	
	3　受療形態に応じた高齢者の看護が理解できる。	1　受療形態に応じた高齢者の看護 1）外来受診時の看護 2）検査時の看護 3）退院支援と地域連携	
	4　終末期にある高齢者の看護が理解できる。	1　終末期にある高齢者の看護 1）終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 2）高齢者の死のとらえ方、エンド・オブ・ライフ・ケア 3）終末期における生き方や死の迎え方の動向 （アドバンスデレクティブ、リヴィングウィル） 2　家族に対する看護 1）家族への対応と看取りの看護への参加 2）グリーフワーク・グリーフケア	
試験（2h）			

授　業　科　目　：高齢者の看護過程
単位（時間数）：1単位（15時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　健康障害のある高齢者の特徴を踏まえ、生活機能に着目した看護過程の展開方法が理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
高齢者の看護過程 7回（14h） 試験（1h）	1　健康障害のある高齢者の特徴を踏まえた看護過程の展開ができる。	1　事例を用いた高齢者の看護過程の展開 1）入院による影響と高齢者の特徴を踏まえた情報収集・アセスメント （1）疾患の経過と治療 （2）加齢による変化（身体的・精神的・社会的） （3）生活習慣、価値観・健康に対する認識 （4）家族の背景、サポート状況 2）全体像の把握 （1）原因・誘因を踏まえた現在の状況・状態 （2）生活背景、価値・信念 （3）看護上の問題の成り行き生活背景、価値・信念 3）アセスメントに基づいた看護計画 （1）生活機能・強みを考慮した目標設定 （2）加齢変化、生活習慣を考慮した援助 （3）残存機能を活用した援助 （4）家族支援への援助 （5）安全・安楽の考慮 （6）高齢者の心理・自尊心を配慮した援助 4）援助の実施・評価 （1）SOAPの記入 ＜演習＞（12h） 事例展開：高齢者に特有な疾患に罹患した後期高齢者の事例 （看護計画に沿った援助の一部実施とSOAP記録を含む） 2　その人らしい生活の継続 （1）退院指導 （2）退院支援シートを活用した援助	事例： 大腿骨頚部骨折

小 児 看 護 学

小児看護学

【小児看護学の考え方】

小児看護学は、変化する社会の中で、子どもの人権を守り、子どもと家族の置かれている状況を的確に判断し、成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を全人的に考えることを学習する。小児を取り巻く状況として、児童虐待の増加や校内暴力、不登校といった問題行動が深刻化し、10 代の若者の自殺が社会問題になって久しい。また、少子化や核家族の中、地域における地縁的なつながりの希薄化等があげられている。その結果、親の間に、子育ての負担感や子どもの教育の仕方が分からないといった育児に関する悩みなどが広がっていることが指摘されている。さらに、未曾有の自然災害は人智を超えて社会全体を揺るがし、子どもの健康や生命さえも脅かす事態を生んだ。

このような社会の中で、小児看護学は、小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう小児と家族（養育者）を支援することを目的としている。そのために小児看護に携わるものは、子どもを一人の人間として尊重した行動がとれるよう倫理観を身につける必要がある。

小児看護の役割は、小児の健康状態を維持向上することである。健康障害をもつ小児の看護においては、疾患の状況が小児とその家族に及ぼす影響を看護の視点から理解し、小児や家族に必要とされる援助の方向と看護の役割について学習する。

小児の健康障害は、一時的な苦痛経験だけでなく生涯にわたる障害を残すこともある。さらに、その障害が小児の成長発達のどの時期に生じたのかによって、その後の経過や将来的な状態に影響を及ぼす。したがって、それらの障害を最小限にとどめるための適切な援助が求められる。そのためには、専門的な知識と技術、判断力・実践力が必要である。講義・演習では、小児の成長発達と小児看護の概念で学んだ内容を活用し、健康を障害された小児とその家族の特徴、小児期に多い症状・治療・処置に応じた看護、健康段階・発達段階に応じた看護を学習する。臨地実習ではこれらを基に、健康回復・保持増進に向けての援助方法、及び健康を障害された小児と家族がどのように生活し、専門職としてどのような援助が必要なのかを考え、実践することになる。

【目的】

小児の特徴を理解し、各健康段階にある小児およびその家族に対する看護ができる基礎的能力を養う。

【目標】

１．小児各期の成長・発達の特徴と小児をとりまく環境の意義を理解する。
２．小児看護の変遷を学び、小児看護の理念・目的を理解する。
３．健康な小児の日常生活を理解し、看護ができる基礎的知識・技術を修得する。
４．小児各期に特有な健康問題と、健康障害をもつ小児と家族を理解する。
５．健康障害を持つ小児と家族に適切な看護ができる基礎的知識と技術を修得する。

【構成および計画】

＜講義＞

科目（授業科目）	単位数	時間数	学年別計画単位時間			備考
			1年	2年	3年	
小児看護概論	1	30	1(30)			
小児の発達段階に応じた看護	1	15		1(15)		
小児の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)		
治療を受ける小児の看護	1	30		1(30)		
合計	4	105	1(30)	3(75)		

＜臨地実習＞

科目	授業科目	単位（時間）		時期
小児看護学実習	地域で生活する小児の看護(保育園実習)	(24)	2	2～3年次
	健康を障害された小児の看護(小児病棟実習)	(66)		

授　業　科　目　：小児看護概論
単位（時間数）：1単位（30時間）　　1年次
科　目　目　標　：1　小児各期の成長・発達の特徴、小児を取り巻く環境が理解できる。
　　2　小児看護の変遷を学び、小児看護の理念・目的が理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
子どもと家族を取り巻く環境 7回(14h)	1　小児看護の変遷を理解し、小児看護の倫理・目的を知る。	1　小児看護の変遷 1）小児観の変遷 ・子ども観（日本　西欧） ・子どもの人権が認められるまで 2）小児医療及び看護の変遷と動向 ・小児科病棟から小児病棟 ・成育医療の概念 2　小児看護の概念 1）小児看護の特徴 2）小児看護の目的 3）小児看護の課題と展望 3　小児看護の倫理 1）子どもの人権・権利に関する法律 2）医療・治療の選択、決定 ・インフォームドコンセント ・インフォームドアセント ・プリパレーション ・アドボカシー	
	2　小児保健統計をふまえ、子どもと家族を取り巻く社会資源の活用について理解できる。	1　小児保健統計 1）統計から見た小児の保健 ・出生率　・乳児死亡　・小児死亡 ・合計特殊出生率　・その他 2）子どもを保護する法律・政策 ・子どもの権利に関する条約　・児童憲章 ・母子保健法　・児童福祉法　・予防接種法 3）虐待防止法　4）学校保健法 5）障害者総合支援法6）子ども・子育て支援法 7）発達障害者支援法　その他 8)子どもを取り巻く現代社会の課題	
子どもの成長発達 7回（14h）	1　子どもの特徴と成長発達を理解できる。	1　成長発達の原則 2　成長発達に影響する因子 1）遺伝的因子 2）環境的因子 3　小児各期の成長発達 1)乳児期にある小児の形態的・機能的発達と精神運動的発達 2）幼児期にある小児の形態的・機能的発達と精神運動的発達 3）学童期にある小児の形態的・機能的発達と精神運動的発達 4）思春期にある小児の形態的・機能的発達と精神運動的発達 4　子どもの成長発達の評価 1）身体面のアセスメント 2）身体発育の評価 5　小児各期の発達課題と理論 1）ボウルビィ　2）エリクソン　3)ピアジェ他	成長発達シート作成
	2　子どもの栄養について理解できる。	1　小児栄養の特徴 2　食育基本法 3　小児各期の栄養 1）母乳　2）離乳食　3）幼児食　4）学童の栄養 4　子どもの栄養の課題	
試験（2h）	3　こどもの安全について理解できる。	1　子どもの安全・事故防止 1）安全対策・安全教育　　2）小児の安全課題	

授　業　科　目　：小児の発達段階に応じた看護
単位（時間数）：1単位（15時間）　　2年次
科　目　目　標　：健康な小児の日常生活を理解し、その援助方法を知る。

単　元	目　標	内　容	備　考
小児の健康増進のための看護 6回(12h)	1 小児各期の日常生活と援助方法を理解する。	1　新生児の健康増進と安全のための援助 1）栄養　2）母子関係の調整　3）事故防止 4）感染予防　5）地域保健サービスの活用 2　乳児の健康増進と安全のための援助 1）乳児の日常生活の特徴と援助 （1）離乳食　（2）運動と遊び　（3）事故防止 2）家族への援助 （1）母子関係の確立　（2）母子分離不安 （3）地域保健サービスの活用 3　幼児の健康増進と安全のための援助 1）幼児の日常生活の特徴と援助 （1）基本的生活習慣の確立 ①食事　②排泄　③睡眠　④清潔 ⑤衣服の着脱 （2）運動と遊び 2）家族への援助 （1）事故防止　（2）家族指導 （3）地域保健サービスの活用 4　学童の健康増進と安全のための援助 1）学童の日常生活の特徴と援助 （1）食生活　（2）学校への適応 （3）学習と遊び 2）家族への援助 （1）生活習慣病予防　（2）第二次性徴 （3）安全教育　（4）学校保健 （5）学童の情緒と家族の関係 5　思春期の健康増進のための援助 1）思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立 （1）セルフケアの保健教育　（2）食生活 （3）親からの自立　（4）異性への関心 2）家族への援助 （1）思春期の子どもを取り巻く社会環境 （2）思春期の子どもが持ちやすい問題行動・家族機能 6　発達段階に応じたコミュニケーション 7　発達に応じたプリパレーション 1）プレパレーションのステップ 2）方法	
日常生活援助技術 1回（2h） 試験（1h）	1　小児の日常生活の援助技術が理解できる。	1　乳児の日常生活の援助と安全 【校内実習】〈2h〉 1　乳児の食事の援助（授乳・離乳食） 2　乳児の抱き方 3　乳児のおむつ交換 4　乳児の衣服の着脱方法 5　安全・感染防止	

授　業　科　目　：小児の健康状態に応じた看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：健康障害された小児とその家族について理解し、その援助方法を理解する。

単　元	目　標	内　容	備　考
小児の臨床医学 7回（14h）	1　小児疾患の特徴と、病態、生理や検査、治療、処置について理解できる。	1　小児疾患の特徴（病態・治療・処置） 1）染色体異常・先天異常 2）代謝性疾患　内分泌疾患 3）免疫疾患　アレルギー性疾患 4）小児感染症 5）呼吸器・循環器疾患 6）消化器・腎・泌尿器疾患 7）神経・運動器疾患など	＊外部講師(14h)
小児の健康状態に応じた看護 7回（14h）	1　健康障害が小児と家族に及ぼす影響と反応を、発達段階に応じて理解できる。	1　通院・在宅・災害医療を受ける小児と家族の看護 1）外来や在宅療養中の小児と家族の看護 2）災害時の小児と家族の看護 ・トリアージ　・安全の確保 ・小児と家族の不安の緩和 2　病気や入院が小児や家族に与える影響と反応 1）小児の健康障害の特徴 2）入院が小児に与える影響 3）入院が小児の家族に与える影響 4）各発達段階にある小児の病気の理解度と対処能力 3　小児の入院環境 1）病棟の環境と安全管理 （1）病棟の形態・入院の形態 （2）人的・物理的環境と安全管理	
	2　さまざまな健康段階にある小児とその家族への援助方法を理解できる。	1　健康状態に応じた小児と家族の看護 1）急性期にある小児と家族の看護 （1）急性期をたどる小児のアセスメントと援助 （2）急性期疾患に多い症状の看護 ①発熱　②脱水・下痢・嘔吐 ③呼吸困難　④けいれん （3）急性期疾患のある小児の看護 2）周手術期における小児と家族 （1）小児の手術の特徴 （2）術前準備の説明 （3）小児の安全安楽への看護と家族の援助 （4）術後の身体状態のアセスメントと看護 3）慢性期にある小児と家族の看護 （1）小児慢性特定疾患治療研究事業 （2）小児慢性疾患と看護の特徴 （3）長期的に治療を必要とする小児と家族の看護 4）終末期にある小児と家族の看護 （1）小児の死の概念 （2）死の不安と別離の不安 （3）小児への病気の説明 （4）小児の心身の状態と緩和ケア （5）小児の死を看取る家族へのケア 5）救急処置を要する小児と家族の看護 （1）主な誤飲・誤嚥及び処置 （2）熱傷の特徴・重症度及び処置 （3）溺水と処置 （4）心肺蘇生法 （5）乳幼児の意識レベル	
試験（2h）			

授　業　科　目　：治療を受ける小児の看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：さまざまな状況にある小児と家族への看護を理解する。

単　元	目　標	内　容	備　考
治療を受ける 小児の看護 9回（18h）	1　検査・処置を必要とする小児への援助方法を理解でき、基本的看護技術が理解できる。 2　注射技術等を安全で確実に提供できるよう、輸液ポンプ、シリンジポンプの操作技術が理解できる。 3　さまざまな状況にある小児と家族への看護の方法が理解できる。	1　検査・処置を受ける小児の看護技術 1）小児の発達に応じた説明と同意 2）プレパレーション 3）小児のフィジカルアセスメント 4）検査・処置の観察と安全・安楽への援助 （1）与薬　（2）輸液管理　（3）抑制　（4）採血 （5）採尿　（6）腰椎穿刺　（7）骨髄穿刺 （8）X-P　ECG　（9）保育器・コット・柵ベッド （10）酸素投与 【校内実習】〈2h〉 1　小児の基本技術 1）バイタルサイン測定 2）保育器・コット・柵ベッドの取り扱い 2　薬液吸入（ネブライザー） 3　口腔内吸引 【校内実習】〈4h〉 1　輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い ＊小児特有の抗生剤作成 2　痛みのある小児と家族の看護 1）痛みの評価と分類 2）痛みのある小児と家族の看護 3　隔離が必要な小児と家族の看護 1）隔離の対象・目的・方法 2）身体的・心理的・社会的影響と看護 4　活動制限が必要な小児と家族の看護 1）活動制限の目的・方法 2）身体的・精神的・社会的影響と看護 5　被虐待が疑われる小児と家族の看護 1）児童虐待の分類 2）児童虐待の予防と発見：安全確保 3）アプローチの仕方 6　先天性疾患・心身障害のある小児と家族の看護 1）施設見学（城南分園）肢体不自由児 2）発達段階に応じた看護 3）家族の理解と小児・家族の障害の受容	城南分園施設見学（1h）
小児の看護過程 5回（10h） 試験（1h）	1　小児の看護過程の展開に必要な知識と方法が理解できる。	1　小児の看護過程 1）疾患の理解 2）成長発達の理解 身体的発達　機能的発達　心理社会的発達 3）情報整理・アセスメントの視点 （1）健康状態 （2）成長発達 （3）家族 4）問題の明確化 5）計画立案 （1）小児の特徴・成長発達を視点に設定 6）評価のポイント	事例：川崎病 気管支喘息など

母 性 看 護 学

母性看護学

【母性看護学の考え方】

母性看護とは、看護の対象である人間を「性と生殖に関する健康と権利―リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」の視点からとらえ、人間のライフサイクルを通して性の側面から個人と家族の健康の維持・増進に関わることである。

母性看護の特徴として、１つ目は、性の側面から人間をとらえ援助するために、当該世代の個人に注目し、これと同時に、世代を超えて生命を繋ぐことに視点をおくことである。人間が持つ母性・父性の機能や役割を健全に発揮できるようにするために、人間の一生、すなわち胎児期から乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期に至る数十年の男女とその家族を看護の対象として関わる。その世代の個人の生命や人格を重視すると共に、生物学的な種族保存への看護である。

２つ目の特徴は、看護の対象が健康なことである。母性看護では、人間の一生を通して健康な性の発達や、妊娠・分娩・産褥期にある人と胎児、新生児とその家族を支援する。この時期は、病気ではなく生理的経過であるが、多くの看護を必要とする。さらに、生殖に関連する問題を抱える人たちも、母性看護の対象である。

以上のことから、母性看護学では、母性看護の概念、人間の性と生殖、人間を性という側面からとらえたライフサイクル各期のセクシュアリティに対する看護、周産期における看護について学習する。また、この学習過程で、生命の尊厳や神秘性に触れることも多く、必然的に生命倫理、看護倫理との関連を深く学ぶよい機会になる。

【目的】

人間を性の側面からとらえ理解するとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人とその家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。

【目標】

１　母性看護の概念とライフサイクル各期のセクシュアリティと看護を理解する。

２　妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人とその家族の特徴と看護を理解する。

【構成および計画】

＜講義＞

科目（授業科目）	単位数	時間数	学年別計画単位時間			備考
			１年	２年	３年	
母性看護学概論	1	３０	1(30)			
妊婦・産婦の看護	1	３０		1(15)		
褥婦・新生児の看護	1	３０		1(30)		
周産期にある人のハイリスク時の看護	1	１５		1(30)		
合計	4	１０５	1(30)	3(75)		

＜臨地実習＞

授業科目	実　習　内　容	単位（時間）	時期
母性看護学実習	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護	２（９０）	２～３年次

授　業　科　目　：母性看護学概論　　1/2
単 位 (時 間 数) : 1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標　：
1　母性看護の基盤となる概念と母子保健の動向について理解できる。
2　性の側面からとらえたライフサイクル各期の特徴と看護について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
＜母性看護の概念＞			
母性看護の概念 3回(6h)	1　母性看護の主な概念について理解できる。	1　母性・父性と親性 1)母性とは 2)父性とは 3)親性とは 2　母性看護のありかた 1)母性看護の対象・目標 2)母性看護の課題と展望 3　家族の発達・機能 1)女性・家族のライフサイクル 2)家族の機能と発達課題 4　リプロダクティブヘルス 1)リプロダクティブヘルス／ライツ 2)セクシャリティ 3)セックス、ジェンダー 4)性の多様性(性同一性障害、LGBT)	＊外部講師(6h)
母性看護における倫理 2回(4h)	2　母性看護における倫理について理解できる。	1　リプロダクティブヘルスに関する倫理 1)プライバシーの保護 2)自己決定の尊重 3)人工妊娠中絶と倫理的課題 4)生殖補助医療と倫理的課題 5)出生前診断と倫理的課題	＊外部講師(4h)
母性看護の動向と法律・制度 2回(4h)	3　母性看護の動向と法律・制度について理解できる。	1　母性と統計 1)母性看護に関する統計 (1)人口　(2)婚姻と離婚　(3)出生率 (4)合計特殊出生率　(5)妊産婦死亡 (6)死産　(7)周産期死亡　(8)乳児死亡 2　母性看護に関するおもな法律 1)母子保健法 2)児童福祉法 3)労働基準法 4)男女雇用機会均等法 5)育児・介護休業法 6)母体保護法 7)戸籍法 8)死産の届出に関する規定 3　子育て支援 1)子育て支援の概要 2)在留外国人の母子支援 3)災害時の母子支援	＊外部講師(4h) 「公衆衛生と健康支援」の公衆衛生の動向でも学習する。

次へ続く

単　元	目　標	内　容	備　考
＜ライフサイクル各期における看護＞			
思春期・成熟期の特徴と看護 4回(8h)	1　思春期にある人の特徴について理解できる。	1　身体的特徴と第二次性徴 1)第二次性徴と性の成熟 2　心理・社会的特徴 1)身体的成熟と自己の受け入れ 2)アイデンティティーの確立 3　性教育 1)性意識・性行動の発達 2)性教育	
	2　成熟期にある人の特徴について理解できる。	1　身体的特徴 1)内分泌環境 2)栄養摂取 2　心理・社会的特徴 1)結婚・出産・子育て	
	3　思春期・成熟期の健康問題について理解できる。	1　思春期早発・遅発症 2　摂食障害 3　貧血 4　月経異常、月経随伴症状 5　性感染症 6　家族計画・受胎調節 7　不妊症・不育症 8　女性生殖器の疾患 1)子宮筋腫　2)子宮内膜症 3)子宮がん　4)卵巣腫瘍　5)乳がん 9　女性への暴力 1)DVの実際と影響 2)DV防止法およびDV防止の支援	
更年期・老年期の特徴と看護 3回(6h)	1　更年期にある人の特徴について理解できる。	1　身体的特徴 1)ホルモンの変化と閉経 2)エストロゲン低下に伴う身体的変化 3)男性更年期 2　心理・社会的特徴 1)空の巣症候群	
	2　老年期にある人の特徴について理解できる。	1　身体的特徴 1)老化の評価法 2　心理・社会的特徴	
	3　更年期・老年期の健康問題について理解できる。	1　更年期症状と更年期障害 2　骨粗鬆症 3　尿失禁 4　骨盤臓器脱 5　うつ病 6　萎縮性膣炎、外陰炎	
試験(2h)			

授　業　科　目　：妊婦・産婦の看護
単位（時間数）：１単位（３０時間）　　２年次
科　目　目　標　：
１　妊娠の経過と看護について理解できる。
２　分娩の経過と看護について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
＜妊婦の看護＞ 9回(18h)	１　マタニティサイクルにある人の看護について理解できる。	1 マタニティサイクルにある人の看護の特徴 １)マタニティサイクルとは ２)マタニティサイクルにある人の特徴と看護	
	２　妊娠の経過と胎児の発育について理解できる。	1　妊娠の生理と経過 １)妊娠の成立と妊娠の診断 ２)胎児の発育と生理 ３)妊娠に伴う母体の生理的変化	
	３　妊娠期の心理・社会的特徴について理解できる。	1　妊婦の心理・社会的特徴 １)妊娠各期の心理的変化 ２)妊婦と家族および社会	
	４　妊娠経過のアセスメントとセルフケアについて理解できる。	1　妊婦の健康診査 2　妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント 3　妊婦の健康管理と保健指導 １)妊娠前・中・後期の日常生活の過ごし方 ２)妊娠中の栄養管理と食生活 ３)マイナートラブルと対処法	＊外部講師（2h）
	５　親になるための準備教育について理解できる。	1　分娩準備教育 2　育児準備のための援助 3　家族役割調整のための援助	【校内実習】〈2ｈ〉 ・マタニティエクササイズ
	６　妊娠の経過をアセスメントするための観察の技術を実施できる。	1　妊婦疑似体験 2　妊婦の健康診査 １)子宮底長・腹囲の測定 ２)レオポルド触診法 ３)胎児心音の聴取	【校内実習】〈2h〉 ・妊婦疑似体験 ・子宮底長・腹囲測定 ・レオポルド触診法 ・胎児心音の聴取
＜産婦の看護＞ 5回(10h)	1　分娩の経過と胎児の健康状態について理解できる。	1　分娩の生理と経過 １)分娩の定義 ２)分娩の三要素 ３)分娩の機序 2　産婦の健康診査 １)分娩の進行状態 ２)胎児の健康度	＊外部講師（8h）
	２　産婦と家族の心理について理解できる。	1　産婦の心理・社会的特徴 １)分娩経過と心理的変化 ２)産婦と家族のソーシャルサポート	
	３　分娩の進行状態に合わせた看護について理解できる。	1　分娩の経過と看護 １)入院時の看護 ２)分娩第１期～第４期の看護 (1)安全・安楽な分娩への配慮 (2)出産経験が肯定的になるための看護 (3)基本的ニードに対する看護	【校内実習】〈2ｈ〉 ・産痛の緩和法 ・分娩時補助動作
	４　妊産婦の安全について理解できる。	1　転倒・転落予防 2　取り違え防止 3　感染予防	
試験(2h)			

授　業　科　目　：褥婦・新生児の看護
単位（時間数）：１単位（３０時間）　　２年次
科　目　目　標　：
１　産褥の経過と看護について理解できる。
２　新生児の経過と看護について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
＜褥婦の看護＞ 4回(8h)	１　産褥期の経過について理解できる。	１　産褥の生理と経過 １)産褥の定義　２)退行性変化 ３)進行性変化　４)全身の変化	＊外部講師（6h）
	２　褥婦の心理・社会的特徴について理解できる。	１　褥婦の心理・社会的特徴 １)母親への適応過程 ２)マタニティブルーズ ３)家族の心理的変化 ４)ソーシャルサポート	
	3　産褥経過のアセスメントについて理解できる。	１　産褥経過のアセスメント １)退行性変化・進行性変化・身体的変化 ２)生活パターンとセルフケア ３)育児行動 ４)役割取得とサポート体制	
	４　褥婦と家族の看護について理解できる。	１　正常な産褥経過をたどるための看護 ２　育児にかかわる看護 ３　退院に向けての看護	
	５　褥婦の観察及び授乳の援助技術を実施できる。	１　退行性変化の観察 ２　進行性変化の観察 ３　授乳の援助 【校内実習】〈2h〉 ・産褥経過の観察 （退行性・進行性変化） ・ポジショニングと ラッチオン ・ビン哺乳 ・排気法	
褥婦の看護過程 5回(10h)	６　褥婦の看護過程の展開方法が理解できる。	１　事例展開 １)マタニティ診断とは ２)褥婦の看護過程 ３)保健指導 【演習】〈2h〉 ・保健指導の実施	
＜新生児の看護＞ 5回(10h)	１　新生児の経過について理解できる。	１　新生児の生理と経過 １)新生児の定義 ２)子宮外生活への適応	
	２　早期新生児のアセスメントと看護について理解できる。	１　出生直後の新生児の看護 １)観察と計測　２)早期母子接触 ２　出生後から退院時までの看護 １)フィジカルアセスメント ２)身体の清潔 ３)栄養 ３　保育環境 １)新生児室 ２)母子同室	
	３　新生児の観察および清潔を保つための援助技術を実施できる。	１　新生児の全身の観察 ２　新生児の沐浴 【校内実習】〈4h〉 ・沐浴 ・新生児の観察	
	４　褥婦・新生児の安全について理解できる。	１　転倒予防　２　感染予防 ３　低体温の予防　４　窒息の予防 ５　転落予防　６　取り違え防止 ７　連れ去り防止	
試験(2h)			

授　業　科　目　：周産期にある人のハイリスク時の看護
単位（時間数）：１単位（１５時間）　　２年次
科　目　目　標　：
１　妊婦・産婦・褥婦・新生児のハイリスク状態と主な治療について理解できる。
２　妊婦・産婦・褥婦・新生児のハイリスク時の看護について理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護 ７回(14h)	１　周産期医療のシステムについて理解できる。	1　周産期医療のシステムとは １）母体搬送 ２）新生児搬送 ３）チーム医療 ４)周産期医療ネットワーク	＊外部講師（６h）
	２　ハイリスク状況にある妊婦・産婦の病態生理・治療・看護について理解できる。	1　ハイリスク状況にある妊産婦の看護 １)ハイリスク妊娠 ２)病態生理 (1)妊娠悪阻　(2)糖代謝異常妊娠 (3)妊婦貧血　(4)妊娠期の感染症 (5)妊娠高血圧症候群 (6)妊娠持続期間の異常 ①不育症　②流産、早産 (7)異所性妊娠　(8)前置胎盤 (9)常位胎盤早期剥離　(10)前期破水 (11)分娩時異常出血　(12)胎児機能不全 (13)陣痛異常（微弱陣痛・過強陣痛） ３)治療 (1)安静療法　(2)薬物療法 (3)食事療法・運動療法 (4)手術療法 ①子宮内容除去術 ②急速遂娩（吸引分娩、帝王切開術） ４)看護 (1)安静療法時の看護　(2)薬物療法時の看護 (3)食事療法・運動療法時の看護 (4)手術療法時の看護	
	３　ハイリスク状況にある褥婦の病態生理・治療・看護について理解できる。	1　ハイリスク状況にある褥婦の看護 １)異常産褥と治療 (1)子宮復古不全　(2)産褥熱 (3)乳腺炎　(4)産後精神障害 (5)尿路感染、排尿障害 ２)看護 (1)子宮復古不全のある褥婦の看護 (2)産褥期感染症に罹患した褥婦の看護 (3)母子分離時の母親への看護 (4)障害をもつ新生児の出産や児を亡くした母親への看護	＊外部講師（４h）
	４　ハイリスク状況にある新生児の病態生理・治療・看護について理解できる。	1　ハイリスク新生児の看護 １)ハイリスク新生児と治療 (1)新生児仮死　(2)早産児、低出生体重児 (3)新生児一過性多呼吸　(4)呼吸窮迫症候群 (5)胎便吸引症候群　(6)高ビリルビン血症 ２)看護 (1)集中的監視とケアの必要な新生児の看護 ①新生児仮死　②低出生体重児 ③呼吸障害のある新生児 (2)高ビリルビン血症児の看護	＊外部講師（４h）
試験(1h)			

精 神 看 護 学

精神看護学

【精神看護学の考え方】

精神看護には、広義の「日常生活の場で誰もが体験している精神保健(メンタルヘルス)」と、狭義の「精神に障がいをもつ人の看護(精神科看護)」がある。本科目では、広義の精神看護の中に、精神科看護が含まれるものとして両方を学習する。

現代社会は精神的ストレスに満ちた社会であり、社会の近代化、合理化、管理化が進んだ分だけ、一層、精神保健が重要性を増してきたといえる。若者の引きこもりや、小中学生の不登校、摂食障害、うつ病やうつ状態、自殺、アルコール依存症、発達障害等、心の問題や心の病気でケアを必要としている人々が年々増加している。2014（平成 26）年の精神疾患で医療機関を受診する患者数は、約 361 万人に上っている。一方、地震や豪雨災害、不慮の事故や事件等で被害を受けた人々に対して、心のケアが必要であるという認識が一般的になる等、国民意識の変化も認められる。

2014（平成 26）年の傷病分類別受療率をみると、入院では「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が最も高く半数以上を占める。「精神保健医療福祉の改革ビジョン」(厚生労働省 平成 16 年 9 月）では、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な方策を推し進め、社会的入院の患者を退院させることで 10 年以内に約 7 万床を削減する計画を公表した。2014（平成 26）年は、平均在院日数が 281.2 日に減少したが、新規入院患者の在院期間が短縮したためであり、1 年以上の長期入院は依然として約 20 万人に近い。

これに伴い精神科看護では、入院期間の短縮化による急性期看護の効果的な展開、慢性期にある人の地域での自立、気分障がいをもつ人への看護が重要な課題となると思われる。精神保健福祉法は、精神に障がいをもつ人の人権に配慮した医療の確保を掲げているが、精神科看護実践もまた、この理念を基盤に展開することが求められる。

本看護学は、あらゆる領域でさまざまな健康水準、発達段階にある人に対して、精神看護を展開するための基礎的知識と技術の習得をめざし、学生が自己理解・他者理解する力を伸ばすことをねらいとしている。

精神看護学実習では、精神に障がいをもつ人の看護を中心に学ぶため、精神科病棟と地域実習を行う。患者との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、セルフケアの維持向上に向けた、具体的な生活援助を行う。また、再構成を用いて、学生が自己の内面の変化に気づき自己洞察ができることも目標とする。

【目的】

精神の健康の保持・増進、及び精神に障がいをもつ人への看護を実践するための基礎的能力を養う。

【目標】

1 精神の構造と機能、成長と発達、精神の健康の概念を理解できる。
2 精神看護の展開される場の特徴と援助の方法を学び、精神看護の果たす役割を理解できる。
3 精神障害の分類と特徴、精神に障がいのある人のアセスメントと看護介入を理解できる。
4 患者－看護師関係の成立・発展について学び、他者理解・自己洞察できる。
5 精神保健医療福祉の変遷と課題を歴史的、社会的、医療的見地から学び、看護師の役割と今後の方向性を展望できる。

【構成および計画】

＜　講義　＞

科目（授業科目）	単位数	時間数	学年別計画単位時間		
			１年	２年	３年
精神看護学概論	１	３０	１ （３０）		
精神に障がいをもつ人の理解	１	３０		１ （３０）	
精神看護の基本技術	１	１５		１ （１５）	
精神に障がいをもつ人の生活と看護	１	３０		１ （３０）	
合計	４	１０５	１ （３０）	３ （７５）	

＜臨地実習＞

科目（授業科目）	実習内容	単位（時間）	時期
精神看護学実習	精神に障がいをもち入院している人の看護	２ （９０）	２～３ 年次
	精神に障がいをもち地域で生活している人の看護		

※ 障がいの表記について

「ひと」を直接的に形容するような場合は「害」を「がい」と表記し、制度や施設名、あるいは法人、団体等の固有名詞についてはそのままの表記とする。

授　業　科　目　：精神看護学概論
単 位 (時 間 数)：1単位(30時間)　　1年次
科　目　目　標　：
1　精神の健康の意義を学び、精神看護の対象・目的、役割と機能が理解できる。
2　精神保健医療福祉の変遷を、歴史・社会・医療的見地から理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
精神看護の目的・対象・役割と機能 10回 (20h)	1　精神看護の目的と意義が理解できる。	1　精神看護学の目的と位置づけ 1)精神看護とは 2)精神看護学の目的・対象	
	2　精神の健康とその意義が理解できる。	1　精神の健康 1)精神の健康の概念 2)精神障がいの第一次予防、第二次予防、第三次予防 2　精神の危機状況と精神保健 1)危機の概念　2)危機介入と予防 3)ストレスと対処　4)適応理論 3　生物学的側面 1)脳の部位と精神機能 2)神経伝達物質と精神機能 3)ストレス脆弱性仮説　4)脳と免疫機能 5)睡眠障害 4　心理的側面 1)精神情緒の発達 (1)フロイトの精神性的発達 2)精神力動 3)イド・自我・超自我　4)防衛機制 5)集団力動　6)転移感情	
	3　ライフサイクル・生活の場における　精神保健と危機的状況について理解できる。	1　各発達段階における危機的状況 2　さまざまな場面における危機状況 1)家庭 (1)家族の孤立と家庭機能の分散 2)学校 (1)いじめ　(2)非行と犯罪　(3)発達障害 3)職場 (1)アディクション-嗜癖、　依存等 (2)自殺、自殺未遂(3)バーンアウト 4)災害時 (1)災害時の精神保健医療活動 (2)災害時の精神保健初期対応 (3)精神障害者への治療継続への援助 3　精神保健医療福祉に関する法制度 1)精神の健康を守る行政システム 2)自殺対策基本法 4　家族の支援 1)家族のストレスと健康状態のアセスメント 2)家族の対処とソーシャルサポートのアセスメント 3)家族システムのアセスメント 4)家族への教育的介入と支援	＜特別講義＞ 自殺対策に関する取り組みの実際 ＊外部講師(2h)
	4　精神の健康とマネジメントが理解できる	1　精神の健康とマネジメント 1)心身相関と健康 2)身体疾患がある者の精神の健康 3)患者と家族の精神の健康 4)精神医療福祉に従事する者の精神の健康 5)リエゾン精神看護	
精神保健医療福祉の変遷と今後の課題 4回(8h)	1　精神保健医療福祉の歴史について理解できる。	1　精神保健福祉の歴史と看護 1)精神医療・看護の歴史(欧米・日本) 2)精神保健福祉における看護師の役割 2　精神看護における倫理 1)精神科看護倫理要領　2)人権擁護 3)インフォームド・コンセント　4)行動制限 3　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 4　多職種連携と看護師の役割	※都立松沢病院の資料館見学　(2h)
	2　地域精神保健活動の現状と課題 について理解できる。	1　精神障がい者の社会参加支援の現状 1)障害者総合支援法に基づく福祉サービス 2)精神に障がいをもつ人に関連した法制度 3)地域生活における現状と課題 4)こころの健康に関する普及啓発 (1)偏見・差別・スティグマ (2)精神保健医療福祉の改革ビジョン	＜特別講義＞ 当事者の語り(2h)
試験　(2h)			

授　業　科　目　：精神に障がいをもつ人の理解
単 位 (時 間 数) : 1単位(30時間)　　2年次
科　目　目　標　：
1　精神障がいの特徴と治療を理解できる。
2　精神に障がいのある人の看護の基本を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
精神障がいと精神症状 8回(16h)	1　主な精神症状を理解できる。	1　知覚の障害　2　知能の障害 3　気分・感情の障害　4　意志・欲動(行動)の障害 5　意識障害　6　自我意識障害 7　記憶の障害	*外部講師 (16h)
	2　主な精神疾患の特徴・検査・治療について理解できる。	1　精神疾患の診断基準 1)ICD－10　2)DSM―V 2　検査 1)脳波検査・脳の画像検査・脳脊髄液検査 2)心理検査 3　主な疾患 1)症状性を含む器質性精神障害 2)精神作用物質使用による精神・行動の異常 3)統合失調症 4)気分障害 5)精神症性障害、ストレス関連障害 6)生理的障害、身体的要因に関連した精神障害又は行動症候群 7)小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害 4　主な治療 1)薬物療法 2)精神療法(個人・集団精神療法、認知行動療法) 3)リハビリテーション療法(作業療法・芸術療法・SST) 4)その他(電気痙攣療法(ECT、m-ECT))	
	3　地域精神医療、救急医療について理解できる。	1　地域精神医療の目的と実際 2　精神科救急の目的と実際	
精神に障がいのある人の看護の基本 6回 (12h)	1　セルフケアの援助が理解できる。	1　セルフケアの援助 1) 食物・水分の摂取　2)呼吸　3)排泄 4)清潔と身だしなみ　5)活動と休息　6)対人関係 7)安全	*外部講師 (12h)
	2 生きる力と強さに着目した援助が理解できる。	1 生きる力と強さに着目した援助 1)ストレングス　2)リカバリ　3)エンパワメント 4)レジリエンス	
	3 社会復帰・社会参加の基本が理解できる。	1　リハビリテーションの概念 2　国際性生活分類(ICF) 3　長期入院患者の退院支援 4　精神科医療チームと看護	
	4　保健医療に関する資源の活用と調整が理解できる。	1　保健所、市町村、精神保健福祉センター 2　精神科デイケア、精神科ナイトケア 3　訪問看護、精神科訪問看護	
	5　社会資源の活用とケアマネジメントについて理解できる。	1　ケアマネジメントの基本的な考え方 2　社会資源の活用とソーシャルサポート(エコマップ) 3　自立支援医療 4　居宅介護、生活介護、生活訓練 5　就労移行支援、就労継続支援、地域生活支援事業	
	6　安全な治療環境の提供が理解できる。	1　セーフティマネジメント 1)病棟環境の整備と行動制限 2)自殺・自殺企図・自傷行為 3)攻撃行動、暴力、暴力予防プログラム 4)災害時の精神科病棟の安全の確保 2　ケアマネジメント(観察・対応のポイント)	
試験　(2h)	7　患者の権利擁護(アドボカシー)が理解できる。	1　権利擁護(アドボカシー) 1)当事者の自己決定の尊重　2)基本的な処遇 3)精神医療審査会　4)隔離、身体拘束	

授　業　科　目　：精神看護の基本技術
単位（時間数）：1単位（15時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　患者－看護師関係成立発展の技術を理解できる。
2　精神の健康増進・回復の技術を理解できる。
3　再構成の技術を用いて自己洞察の意義を理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
人間関係発展のための技術 2回(4h)	1　患者－看護師関係の発展を支える理論や技術を理解できる。	1　患者－看護師関係成立発展の技術 1）援助関係の構築 (1)患者－看護師関係の段階 (2)転移感情 (3)精神に障がいのある人のコミュニケーションの特徴 2　精神看護におけるコミュニケーション技術 1）コミュニケーションの原則 2)コミュニケーション技法 3）患者－看護師のコミュニケーションの実際 ＜校内実習＞２ｈ 精神に障がいのある人とのコミュニケーション	
精神の健康増進回復を援助する技術 3回(6h)	1　心理教育の内容を知り、アプローチの方法を理解することができる。	1　心理教育的アプローチ 1）心理教育とは 2）心理教育の実際 （1）患者への援助 （2）家族への援助	*外部講師（6h）
	2　精神に障害をもつ人の特徴から、SSTの必要性を理解し、体験できる。	1　SST（生活技能訓練） 1）ストレス脆弱性－対処技能モデル 2）SSTの目的・対象 3）SSTの種類 （1）基本訓練モデル （2）問題解決技能訓練 （3）モデュールを用いた訓練 4）SSTの実際	
自己理解・他者理解のための技術 2回(4h)	1　ﾌﾟﾛｾｽﾚｺｰﾄﾞの意義が理解できる	1　プロセスレコードと看護場面の再構成 1）自己洞察の意義 2）プロセスレコードの意義 3）プロセスレコードの目的と方法 4）プロセスレコードの実際 ＜演習＞２ｈ 再構成法の実際	
試験　　(1h)			

授　業　科　目　：精神に障がいをもつ人の生活と看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：
1　精神に障がいのある人の特徴が理解できる。
2　精神に障がいのある人と家族の看護を理解できる。
3　統合失調症のある人の特徴に合わせた看護過程の展開ができる。

単　元	目　標	内　容	備　考
精神に障がいのある人の生活と看護 9回(18h)	1 統合失調症のある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　統合失調症のある人の生活と看護 1) 精神症状・身体症状・セルフケアアセスメント 2) 経過に応じた関わり 3) 主な精神症状と看護 4) 薬物療法と看護 5) 電気けいれん療法と看護 6) リハビリテーション療法と看護 7) 家族への看護	
	2　気分障害のある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　気分障害のある人の生活と看護 1) 精神症状・身体症状・セルフケアアセスメント 2)うつ状態にある人の生活と看護 3)躁状態にある人の生活と看護 4)薬物療法と看護 5)家族への看護	
	3　強迫性障害のある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　強迫性障害のある人の生活と看護 1）不安と防衛機制 2)強迫症状と看護 3)家族への看護	
	4　境界型人格障害のある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　操作・試し行為のある人の生活と看護 1）成長発達的特徴 2）操作・試し行為と看護 3）家族への看護	
	5　摂食障害のある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　摂食障害のある人の生活と看護 1）成長発達的特徴 2）摂食障害と看護 3）家族への看護	
	6　アルコール依存のある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　アルコール依存のある人の生活と看護 1）離脱症状と看護 2）リハビリテーションと看護 3）家族への看護	
	7　てんかんのある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　てんかんのある人の生活と看護 1）てんかん発作と看護 2）家族への看護	
	8　発達障害のある人の症状・治療に応じた看護が理解できる。	1　発達障害のある人の生活と看護 1）発達障害と看護 2）家族への看護	
統合失調症のある人の看護過程 5回(10h)	1　統合失調症のある人の特徴を理解し、事例展開ができる。	1　統合失調症のある人の事例展開 1）情報の整理とセルフケアアセスメント 2）看護上の問題 3）看護計画の立案	
試験　(2h)			

統　合　分　野

統合分野

【統合分野の考え方】

平成 21 年に、看護実践能力をよりいっそう強化することを目的として、カリキュラムが改正され、基礎分野から専門分野Ⅱまでの学習内容を統合した「統合分野」が新設された。統合分野では、一般病床あるいは在宅療養の現場の実務に近い環境下で看護を提供できるように、『在宅看護論』と『看護の統合と実践』を位置づけている。

現在、国は病床数の削減や高齢者医療制度の創設、居住系サービスの重視の方針を打ち出すなど医療サービス提供のあり方を在宅に大きくシフトし、在宅医療・看護の役割は重要となっている。安全で安心な地域療養を支えるためには、“医療機能の連携”と“在宅医療の充実”が不可欠であり、『在宅療養支援診療所』の 24 時間の応需体制を支える訪問看護の役割はますます大きくなっている。

在宅看護は、成人、老年、精神、小児、母性のすべての分野に関わるため、専門分野Ⅰ、Ⅱで学んだ知識と看護技術を発展、応用させていく必要がある。そこで、『在宅看護論』では、在宅でその人らしく生き、その人らしく最期をまっとうできるような援助を目標に、基礎的な看護技術を発展させ、医療機関での看護との違い、在宅での看取り、他職種と協働する中での看護の役割など在宅看護特有の事項について学ぶ。

一方、急性期医療の現場では、国民医療費の増加を背景に在院日数の短縮化や病床数の削減など、「医療の効率化」が求められ、DPC(診断群分類別包括評価)の導入等が進められている。こうした状況の下で、看護職も、単に看護を実践するだけではなく、病院経営への参画、エビデンスに基づく看護の提供や研究的態度が求められている。また、実習施設の中には災害医療拠点病院としての役割を持つところも多く、災害医療・災害看護の知識と技術の理解が必要とされている。さらに、新卒看護師がリアリティショックにより職場にスムーズに適応できないことがあり、卒業前の実践的な学習が必要とされている。

こうした状況に対応するため、3 年間の学習の統合を図る『看護の統合と実践』が位置づけられている。「看護管理と研究」では、組織における看護師の役割を理解するとともに、研究の基礎を学びケースレポートの作成･発表を通じて実践した看護と理論との統合を図る。「災害看護」では、応急処置の技術や心のケアなど災害看護についての基礎知識を習得する。「診療の補助技術における安全」では、ハイリスク状況下での判断と技術など実践に即した校内実習を通じて事故防止のための知識と技術、看護職としての責任感、倫理観を醸成する。そして「臨床看護の実践」では、臨床に近い擬似環境での学習により、複数患者への優先度を考えた複数技術の提供や、緊急・突発要件の発生時における判断・対応を学ぶ。

【目的】

基礎分野から専門分野Ⅱまでの学習内容を統合し、一般病床あるいは在宅療養の現場の実務に近い環境下で看護を提供できる能力を養う。

【目標】

1　看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人と集団と社会に対し、適切な看護を提供できるよう、既習学習の知識と技術を統合して、実践できる力を養う。

2　地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害をもちながら生活する人々と家族を理解し、在宅療養における看護の基本を学ぶ。

在 宅 看 護 論

在宅看護論

【在宅看護論の考え方】

在宅看護論は基礎看護学・各看護学を再構築して看護実践する『統合分野』として位置付けられている。現在、人口の高齢化や疾病構造の変化に伴い国の政策として可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るよう予防・介護・医療の専門サービスと住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が推進されている。その中で、在院日数の短縮化、医療依存度の高い在宅療養、核家族化に伴う老老介護などの現状に伴い、在宅での療養生活を支える看護の役割は大きい。

在宅看護では、人々の医療・看護に対するニーズの高まりとともに、価値観の多様化に伴う生活の変化、療養者や家族の医療への倫理観・権利保障などが変化しており、地域における保健・医療・福祉における多職種とのチーム協働による質の高い看護が求められている。具体的には、健康回復のためのリハビリや状態悪化防止のための看護を中心に、終末期の看護までの、質の高い看護活動が必要となる。また、臨床から在宅へのケアマネジメントや退院調整・継続看護の必要性がわかり、地域における人々のあたりまえの生活事象の中にある意義や価値観に気づき、人間としての存在や生活の奥深さを理解し、自己決定や生活の再構築を支援していく。看護の対象は本人であることを前提に、療養者だけでなく家族を一単位として捉え支援していく。

以上の在宅看護を理解し実践するためには、在宅における基礎知識・技術・態度を統合し、生活の場における在宅看護をイメージ化し、学習することが必要である。

「在宅看護概論」では、社会的背景や看護の位置づけをもとに、在宅看護の必要性を明らかにし、地域包括ケアの視点に立った生活の場における看護を学習する。

「療養者の健康状態に応じた看護」では、療養の場の移行に伴う退院調整や継続看護、“難病” “終末期”など、在宅における特徴的な健康状態・状況に応じて生活を支援する看護を学ぶ。

「在宅看護技術」では、在宅で健康障害をもつ療養者への的確な観察力、判断力と実践に必要な日常生活援助・在宅医療技術を学ぶ。生活の場の制約の中で、物品の工夫、ケアを統合する内容を取り入れ、居宅での看護をイメージした実践を学ぶ。

「在宅看護過程」では、在宅看護の特徴が理解できるような事例を提示し、在宅療養者の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護展開ができるように学ぶ。

「在宅看護論実習」では、訪問看護ステーション・地域包括支援センター・高齢者通所施設等で実習し、看護の場の多様性と継続性を学び、人間のライフサイクルにおける生活や社会と疾病や看護との関連性を統合して学ぶ。

【目的】

地域で生活しながら療養する人々、および障がいをもちながら生活する人々と家族を理解し、在宅療養における看護の基本を学ぶ。

【目標】

1 在宅看護の概念と必要性が理解できる。
2 在宅看護の対象と看護師の役割について理解できる。
3 在宅看護の特徴をふまえ、継続看護や療養状態・状況に合わせた看護が理解できる。
4 訪問看護の展開方法と訪問時の基礎的技術が理解できる。
5 在宅療養支える社会資源の活用および他職種との連携の必要性が理解できる。
6 在宅看護の現状と課題が理解できる。

【構成および計画】

＜講義＞

科目（授業科目）	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1年	2年	3年	
在宅看護概論	1	15	1(15)			
在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)		
在宅看護技術	1	30		1(30)		
在宅看護過程	1	15		1(15)		
合　計	4	90	1(15)	3(75)		

＜臨地実習＞

授業科目	内容	単位(時間)	時期
在宅看護論実習	在宅で療養している療養者、家族を対象とした看護	2（90）	2～3年次
	在宅療養を支える地域における看護		

授　業　科　目　：在宅看護概論
単位（時間数）：1単位（15時間）　　1年次
科　目　目　標　：在宅看護の概念を踏まえ、在宅看護の対象と看護師の役割が理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
在宅看護の基本理念 2回（4h）	1　在宅看護が必要とされる背景と基本理念が理解できる。	1　社会の変化と在宅看護 1）在宅看護が必要とされる背景 2）地域の保健活動 3）在宅看護の役割 2　在宅看護の倫理と基本理念 1）ヘルスプロモーション 2）ノーマライゼーション 3）権利擁護（アドボガシー）	
在宅看護の対象と必要な援助 2回（4h）	1　在宅看護の対象と必要な援助が理解できる。	1　在宅看護の対象と必要な援助 1）在宅看護の対象者 2)家族と在宅看護 3)コミュニティケア (1)外来　(2)訪問 (3)入所施設　(4)通所施設 2　継続看護	
在宅看護に必要な制度と社会資源 2回（4h）	1　在宅看護を支える社会資源の活用の必要性が理解できる。	1　在宅看護に必要な社会資源 1）在宅看護を支える保健・医療・福祉制度 （1）介護保険制度 （2）医療保険制度 （3）障害者総合支援法 2）在宅看護を支える人的資源 （1）ケアマネジメント（2）チームアプローチ 3）地域包括ケアシステム （1）地域完結型医療 （2）介護予防・日常生活支援総合事業 （3）地域包括支援センターの機能と看護師の役割	
訪問看護の機能と役割 1回（2h） 試験（1h）	1　訪問看護の機能と役割が理解できる。	1　訪問看護の機能と役割 1）訪問看護のシステム 2）訪問看護サービスの仕組み 3）訪問看護ステーションの開設基準 4）訪問看護サービスの展開 5）生活を支えるチームの一員としての役割 2　在宅看護の課題 1）在宅看護の展望と課題	【演習】　〈2h〉 1. 社会資源調査 2. ケアプラン作成 （介護保険）

授　業　科　目　：在宅療養者の健康状態に応じた看護
単位（時間数）：1単位（30時間）　　2年次
科　目　目　標　：在宅で療養する対象の療養状態・状況に応じた看護と家族（介護者）の看護が理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
在宅で療養する対象の状態・状況に応じた看護 14回（28h）	1　安心した在宅療養に必要な看護が理解できる。	1　安心した生活の保障 1）緊急時・24時間の生活支援 2）在宅看護におけるリスクマネジメント （1）在宅看護におけるリスクの特徴 （2）医療・ケア事故の防止 （3）感染防止 3）災害時の在宅看護	
	2　療養の場の移行に伴う看護が理解できる。	1　療養の場の移行に伴う看護 1）療養者と家族の意思決定支援 2）在宅準備期における退院調整と地域との連携 3）在宅移行期の看護	
	3 在宅で障害を持ちながら生活する対象の看護が理解できる	1　障害に応じた看護 1）慢性期にある療養者への看護 （1）住環境調整 （2）生活拡大への援助 （3）社会資源の活用 【国際福祉機器展見学】（2h） 2）難病の療養者への看護 （1）疾病の特徴と療養の経過 （2）難病施策・特定疾患 （3）状態のアセスメントと対応・調整 （4）療養者・家族のセルフマネジメント力を高める支援 （5）急性増悪の早期発見と対応 （6）社会資源の活用・調整 【療養者・家族の語り】（*2h） 在宅で療養するALSの療養者 3）精神障害への看護 4）子どもの療養生活を支える看護	＊外部講師（2h）
	4　在宅で療養する高齢者への看護が理解できる	1　認知症の特徴と療養の経過 1）認知症高齢者の自立度 2）家族への支援 3）権利擁護と社会保障制度の活用 （1）介護予防・日常生活支援総合事業 （2）成年後見制度 （3）生活保護 4）高齢者を支援する取り組み	
	5　在宅での終末期看護が理解できる。	1　終末期を迎えた対象の看護　（*4h） 1）在宅ターミナルが成立する要件 2）在宅ターミナルのステージ 3）症状マネジメント（緩和ケア） 4）チーム医療と自己決定支援 5）死と向き合う療養者と家族支援 6）デス・エデュケーション、グリーフケア	＊外部講師（4h）
試験（2h）			

授 業 科 目 ：在宅看護技術
単位(時間数)：1単位 (30時間)　　2年次
科 目 目 標 ：
1 訪問看護の基本技術を理解できる。
2 療養する対象のアセスメントをもとに、在宅における生活支援技術を実施できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
在宅看護に必要な基本技術 2回(4h)	1 訪問看護師に求められる基本技術が理解できる。	1 訪問看護師に求められる基本技術 1)コミュニケーション技術 2)相談・指導技術 3)訪問マナー・初回訪問 2 生活環境の調整 1)安全で快適な居住環境の条件 2)社会資源の活用と工夫 3 在宅における生活支援技術の特徴 1)経済性・効率性・簡便性を踏まえた援助 2)限られた時間での援助 4 在宅におけるアセスメント 1)フィジカル 2)メンタル 3)介護体制 4)環境	【校内実習】 〈2h〉 訪問マナーと初回訪問 ＊ロールプレイ実施
在宅における生活支援技術 12回(24h)	2 在宅における日常生活援助と医療処置が実施できる。	1 清潔・衣生活の支援技術 1)清潔のアセスメント 2)在宅での清潔方法の種類と方法 3)福祉用具の活用 2 食事の支援技術 1)楽しみ・安全性・安楽 2)食事内容の選択・食材調達に関する援助 3)栄養補助食品の種類と選択方法 3 経管栄養法の管理(胃瘻・腸瘻) 1)経管栄養法の適応と条件 2)経管栄養法の管理 3)在宅における安全管理と支援 4 中心静脈栄養法の管理 1)中心静脈栄養法の適応と条件 2)中心静脈栄養法の管理 3)在宅における安全管理と支援 5 活動・移動・休息 1)ADL／IADLのアセスメント 2)移動時の安全確保 3)移動補助具の種類と選択方法 4)褥瘡予防・管理 5)療養者と家族への支援・指導 6 呼吸・循環 1)ガス交換障害と在宅酸素療法の管理 2)換気障害と在宅人工呼吸器(TPPV/NPPV)の管理 3)気管切開創の管理 4)気管カニューレの管理とトラブル対応 5)気管内吸引 6)在宅における安全管理と支援 7)療養者・家族への支援・指導 8)在宅酸素療法 (HOT)の実際 7 排泄の支援技術 1)排泄補助用具の種類と選択方法 2)排泄障害への援助 3)膀胱留置カテーテルの管理 4)腎瘻・膀胱瘻などストーマの在宅看護の実際 5)血液透析の在宅看護の実際	【校内実習】 〈2h〉 在宅における用具の工夫～清潔ケア 洗髪・手浴・ニッパーによる爪切り 【校内実習】 〈2h〉 1. 経管栄養の管理 (PEG) 【校内実習】 〈4h〉 呼吸管理 ①気管切開部の管理 ②気管内吸引 ③パルスオキシメーター ④カフ圧測定 ⑤アンビューバック ⑥人工呼吸器装着中の管理
試験(2h)			

授　業　科　目　：在宅看護過程
単位（時間数）：1単位（15時間）　　2年次
科　目　目　標　：在宅看護の特徴を踏まえ、在宅療養している人の看護過程の展開が理解できる。

単　元	目　標	内　容	備　考
在宅看護過程の特徴 2回（4h）	1　在宅看護過程の特徴を理解できる。	1　在宅看護過程の視点 1）療養者と家族一人ひとりの価値観の尊重 2）療養者と家族がのぞむ生活実現 3）療養者と家族の習慣 4）自己決定支援 5）セルフケアへの援助 6）支援体制の確立と調整	
在宅で療養する対象の状態に応じた看護過程 5回（10h）	2　情報収集の視点が理解できる。	2　情報収集の視点 1）療養者の疾病、介護者、家族の健康状態、健康管理能力 2）療養者と家族の在宅療養への思い 3）療養者と家族の関係 4）住環境と経済状態 5）活用している社会資源	事例：難病ALSの在宅療養者
	3　在宅看護におけるアセスメントの特徴が理解できる。	3　在宅看護におけるアセスメント 1）療養者のアセスメント 2）家族・介護者および介護力のアセスメント 3）住環境のアセスメント 4）社会資源のアセスメント	
	4　目標の設定のもとに在宅看護活動が立案できる。	4　目標の設定 1）療養者と家族を対象とした目標 2）療養者と家族との目標の共有化	
	5　看護活動とその評価ができる。	5　看護活動と評価 1）訪問間隔、訪問時間の調整 2）日常生活援助、医療処置 3）療養者と家族への指導 4）社会資源の活用への援助 5）緊急時の対応 6）計画の評価と修正 【演習】〈10h〉 事例：医療依存度が高い居宅療養者 ＊家族役割・社会資源の活用・自己決定に関連する看護問題を主軸とする	
試験（1h）			

看護の統合と実践

看護の統合と実践

【看護の統合と実践の考え方】

『看護の統合と実践』では、卒業後、これまで学んできた環境とは異なる、複雑な要素を持つ臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用していくことができることを目標とする。そのため、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する内容となっている。

具体的には、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解すること、看護管理・看護研究の基礎的能力を身につけること、医療安全の基礎的知識を修得すること、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解すること、国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができること等について学ぶ。

まず「看護管理と研究」では、病院や看護部門の理念に合わせ、患者満足と従業員満足を高める環境づくりの考え方や、“看護管理”について理解を深める。さらに、先人の看護理論等に学び看護に対する考えを深められるよう、看護研究の基礎について学び研究的態度を醸成する。

また、専門職である看護師には“人々の健康と生活の向上に向けた「社会への支援」”が求められている。そこで、「災害看護」では、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術、看護の国際貢献について学ぶ。

「診療の補助技術における安全」では、臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全かつ確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を修得する。また、校内実習を通して、ハイリスク環境下での危険認識力と危険回避のための判断力を養う。

「臨床看護の実践」では、複雑な臨床現場を意識し、臨地実習では習得が困難な状況（①複数の課題への対応、②不測の事態への対応、③優先順位の判断）を設定し、校内実習を通して臨床での対応を具体的に学ぶ。

「看護の統合と実践」の臨地実習では、既習の知識・技術・態度を統合させて学び、看護実践力を高めることを目指す。専門分野での実習を踏まえ実務に即した実習を行うため、複数患者受持ち、一勤務帯を通した実習、夜間実習などの方法を取り入れる。

【目的】

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人と集団と社会に対し、適切な看護を提供できるよう、既習学習の知識と技術を統合して、実践できる力を養う。

【目標】

1 組織の中での看護師の役割を理解し、看護管理と看護研究の基礎的知識を習得する。
2 災害医療・災害看護についての基礎知識を習得する。
3 国際社会での諸外国との協力について考えることができる。
4 安全な医療の提供に向けて、対象に合わせた適切な診療の補助技術が実施できる。
5 複合課題を通して、知識・技術の統合と総合的な判断を学び、臨床実践能力を養う。

【構成および計画】

〈講義〉

科目（授業科目）	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1 年	2 年	3 年	
看護管理と研究	1	30			1(30)	
災害看護	1	15			1(15)	
診療の補助技術における安全	1	30			1(30)	
臨床看護の実践	1	15			1(15)	
合計	4	90			4(90)	

〈臨地実習〉

科目(授業科目)	実習内容	単位(時間)	時期
看護の統合実習	既習の知識・技術・態度を統合した実務に即した実習	2(90)	3 年次後期

授　業　科　目　：看護管理と研究
単位（時間数）：1単位（30時間）　　3年次
科　目　目　標　：
1　看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解できる。
2　看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護の振り返りができる。

単　元	目　標	内　容	備　考
組織の中の看護 4回(8h)	1 組織における看護管理について理解できる。	1　看護管理 1）看護管理の定義 2）看護管理の対象と管理過程 2　病院における看護組織 1）病院の目的、理念と組織 2）看護部門の組織と看護職員の管理 3）診療報酬制度と看護サービスの評価 4）院内委員会と看護の役割 5）看護の質保証 6）看護行政 7）感染予防対策 8）事故発生時の対応と事故の記録 9）電子カルテとセキュリティ 10）災害時の看護	＊外部講師(8h)
看護研究の基礎 4回(8h)	1 看護研究の意義と方法を理解できる。	1　研究とは 1）研究の意義と必要性 2）研究の種類と方法およびプロセス 3）研究論文の基本的な構成 4）研究論文の読み方 2　看護における研究 1）看護における研究の意義と必要性 2）看護研究のプロセス (1)研究テーマの検討と決定 (2)文献検索・文献カードの作成 (3)研究計画書 (4)データの集計・分析 (5)結果の解釈 (6)論文の発表	
看護研究の実際 （ケース・スタディ） 7回(13h)	2 実践した看護を振り返りケース・レポートとしてまとめることができる。	1　ケース・スタディとは 2　論文のまとめ方 1）論文の読み方 2）論文の書き方 3）論文作成上の留意点 4）ケース・レポートの書き方 5）抄録の書き方 3　発表の方法 1）発表の仕方 2）発表原稿の書き方 3）資料作成の仕方 4　ケース・レポートの作成 1）テーマの決定 2）文献検索 3）論文の作成 4）抄録の作成 5）発表原稿の作成	【演習】<13h> ケース・レポートの作成<8h> 発表会準備 <1h> 発表会開催 <4h>
試験(1h)			

授　業　科　目　：災害看護
単位（時間数）：1単位（15時間）　　3年次
科　目　目　標　：
1　災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得できる。
2　災害時の応急処置の方法を理解できる。
3　国際社会での諸外国との協力について考えることができる。

単　元	目　標	内　容	備　考
災害医療・災害看護の基礎 6回(12h)	1 災害医療・災害看護の概念を理解できる。	1　災害とは 2　災害の種類と健康障害、疾病構造 3　災害サイクル 4　災害看護の定義と看護師の役割	＊外部講師（14h） 講義 災害の事例や映像
	2 災害時の行政の動きを理解できる。	1　災害医療対策 1）災害に関する法律 2）関係機関の支援体制 3）災害医療拠点病院の役割	講義
	3 災害サイクルと活動の場に合わせた看護が理解できる。	1　超急性期、急性期の病院 1）災害発生時の病院内での看護師の役割 2）医療施設における傷病者の受け入れ 3）トリアージ	講義 DVD GW 講義 机上ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ
	4 災害サイクルと活動の場に合わせた看護が理解できる。	1　急性期、亜急性期の避難所・福祉避難所 1）避難所での看護師の役割 2）避難所での生活支援 3）福祉避難所での看護師の役割 2　慢性期、復興期の仮設住宅・復興住宅	講義 GW
	5 災害サイクルと被災者の特性に合わせたこころのケアが理解できる。	1　災害各期におけるこころのケア 1）災害後の被災者の心理、精神保健 2）被災者の特性 （小児、妊産褥婦、高齢者、精神障がい者） 3）救援者のこころのケア 4）災害看護活動時の個人の心構え	講義・ロールプレイ
	6 災害時のトリアージ治療、搬送の実際が理解できる。	1　災害時の3T’s 1）トリアージの実際 (1)スライドでの机上シミュレーション (2)模擬患者を使ったトリアージの訓練 2）身近なものでの包帯法 3）搬送と被災者への対応 【演習】〈4h〉 ①トリアージとタッグの記入 ②包帯法（三角巾） ③移動・移送 担架、毛布での搬送	
看護の国際協力 1回(2h) 試験（1h）	1 発展途上国の現状を知り、国際救援について理解できる。	1　世界の健康問題の現状（国連ﾐﾚﾆｱﾑ計画） 2　国際救援時の基本理念（スフィア） 3　災害時の国際協力	講義

授　業　科　目　：診療補助技術における安全
単 位 (時 間 数) : 1単位 (30時間)　　3年次
科　目　目　標　：
1　医療システムの中の危険要因を知り、診療補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる。
2　ハイリスク環境下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。
3　実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を身につけられる。

単　元	目　標	内　容	備　考
ヒューマンエラーと リスクマネージメント 2回(4h)	1 ヒューマンエラーについて理解する。	1　ヒューマンエラーは何故起きるのか 2　人間の注意力の特性 3　リスクと危険要因を認識することの重要性	＊外部講師(4h) (リスクマネージャー)
	2 リスクマネージメントについて理解する。	1　看護専門職としての責任と倫理 2　リスクマネジメントの実際 1)　医療事故の発生要因 2)　ハインリッヒの法則	
安全なチューブ類の管理 3回(6h)	3 チューブ類挿入中のトラブルを予測し、安全な管理ができる。	1　チューブ・ドレーンの種類と挿入目的 2　チューブ類挿入中の主なトラブルと対処 1)　外れ 2)　閉塞 3)　抜去 4)　切断 5)　不適切な圧力 【校内実習】＜4h＞ ・チューブ・ドレーンを装着している人の安全管理の実際 ①寝衣交換 ②車椅子への移動の援助	
薬剤・注射のエラーと危険性への認識 1回(2h)	4 与薬の危険要因を認識し事故防止の知識を習得する。	1　注射業務プロセスからみた事故防止 2　薬剤からみた事故防止 3　輸血・救急時の事故防止 4　救急カートの薬品の事故防止	
安全で確実な注射技術と管理 3回(6h)	5 安全で確実な点滴静脈内注射を実施できる。	1　安全で確実な点滴静脈内注射の実施 2　点滴静脈内注射実施中のトラブルと対処方法 1)　輸液セット・三方活栓の接続 2)　薬液量の間違い　等 3　輸液ポンプ・シリンジポンプの正しい取り扱い 1)　輸液ポンプ・シリンジポンプの設定 2)　アラームの対処方法 4　作用副作用の観察と記録・報告 【校内実習】＜4h＞ ・輸液ポンプ ・シリンジポンプ	
ハイリスク状況での点滴静脈内注射 3回(6h)	6 ハイリスク状況下で安全に点滴静脈内注射が実施できる。	1　ハイリスク状況における看護事故防止に向けた状況判断と実施 1)　読みにくい処方箋 2)　点滴準備中の中断 3)　タイムプレッシャー下での技術 2　事故発生時の対処 【校内実習】＜4h＞ ・ハイリスク状況下での点滴作成 (ロールプレイの実施と、 リフレクションを行う)	
安全で確実な採血 2回(4h)	7 安全で確実な採血を実施できる。	1　検査(採血)に伴う事故防止 2　医療廃棄物の取り扱い 3　針刺し事故防止と事故発生時の対処 【校内実習】＜2h＞ ・採血の実施 (医師の監督下に実施)	
試験(2h)			

授 業 科 目 ：臨床看護の実践
単位（時間数）：1単位（15時間）　　3年次
科 目 目 標 ：
1 臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して、優先すべき援助の判断や対応する力を養う。
2 複数患者の状態や状況に合った援助を計画し実施できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
臨床看護実践の特徴 1回(2h)	1 臨床看護実践の特徴が理解できる。	1 臨床看護実践の特徴 1) 医療現場の現状 2) 職種間の協働・チーム医療の充実 2 安全・安心な医療・看護の提供 1) チーム連携・「チームステップス」 2) チーム連携の基本であるコミュニケーションエラーの防止の手段 (1)SBAR 3) 「SBAR」を用いての報告の実際	講義
複数患者の援助計画の立案 2回(4h)	1 複数の患者の状況に沿った援助計画が立案できる。 2 援助の優先順位を判断し、行動計画が立案できる。	1 複数患者に実践すべき援助計画の立案 1) 複数患者を受け持つための情報収集 1 援助の優先順位を踏まえた計画の立案 1) 優先順位を決定するための情報の整理 2) 多重課題への対処 2 時間の経過を考慮した計画の立案 1) 当日スケジュールの管理のための工夫	GW
複数患者の援助の実際 4回(8h)	1 計画に基づき、複数の患者への援助を実施できる。 2 看護技術を対象の状況に合わせ、時間の経過の中で適切に実施できる。 3「SBAR」を用いて適切に報告できる。 4 看護実践の割り込み状況に対して、その対応を判断し患者各人に必要な援助が実践できる。	1 2人の患者への援助の実施 1) 安全・安楽の確保 2) 優先順位を判断した行動 3) 自立度に合わせた援助の実施 2 時間経過の中での援助の実際 3 自己の実践能力に応じた対処方法の決定 （他者への依頼の判断） 4 チームメンバーとの連携 1) 連絡・報告・相談、協力依頼 5 看護実践の中断への対応 1) 予期しない患者への対応 2) 割り込み状況への対応 3) 突発的な事態 4) 時間の切迫 6 「SBAR」を用いた報告 7 評価・修正 1) 計画の妥当性 2) 中断状況への対応 【校内実習1】＜4h＞ 1 複数患者の看護実践 ・立案した計画をもとにシミュレーションを行う。 ・2人の患者の援助を計画的に実施する。 2 振り返り・修正案 ①計画の妥当性 ②時間の管理 【校内実習2】＜4h＞ 1 複数患者の看護実践 2 振り返り・修正案 ①割り込み状況への対応 ②突発的な事態 ③時間の切迫	校内実習
試験（1h）			

看護技術の到達度及び課外

看護技術のマトリックス

無印：体験する技術　　〇：見て学ぶ技術（ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ・ｸﾞﾙｰﾌﾟで体験）　☆：習得する技術（技術チェック及び技術試験）

	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ					統合分野	
		基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論	看護の統合と実践
	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習	講義・演習・校内実習
環境調整技術		基本ベッドの作成 環境整備 臥床患者のシーツ交換			コット・保育器・〇柵ベッド	コットの取扱い		療養環境の調整	
食事の援助技術		食事介助（臥床・座位）	食事指導	嚥下機能低下した人への食事援助 経鼻経管栄養法の援助	離乳食の介助	新生児のビン哺乳と排気法 授乳の方法		在宅での経管栄養 （PEG）	
排泄援助技術		尿器による排尿の援助（男性・女性） 便器による排便の援助 浣腸 摘便 導尿（女性・男性）	〇ストマの管理とケア	オムツ交換 〇ポータブルトイレでの排泄援助 膀胱留置カテーテルの管理	☆おむつ交換	新生児のｵﾑﾂ交換			
活動・休息援助技術	ポジショニング 動作介助	ﾅｰｼﾝｸﾞﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ 体位変換・車椅子の移乗 移動・移送（車椅子・・ｽﾄﾚｯﾁｬｰ）	術後の体位変換 早期離床	歩行・移動介助 ベッドから車いすへの移動 自動・他動運動				ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｼｰﾄによる移動 〇移動用リフト	
清潔・衣生活の援助技術		全身清拭（臥床患者の清拭） 洗髪（ｹﾘｰﾊﾟｯﾄﾞ、洗髪車） 洗髪（洗髪台） 陰部の保清 寝衣交換（和式寝巻き・ﾊﾟｼﾞｬﾏ）、整容 足浴（ベッド上・椅座位）		口腔ケア 義歯の手入れ 陰部の保清	陰部の保清 衣服の着脱	☆新生児の沐浴・清拭 新生児の着物の着せ方・脱がせ方		〇在宅での洗髪 〇在宅での手浴	
呼吸循環を整える技術	スパイロメーター ポータブル心電図 〇肺理学療法	呼吸測定の基本 呼吸音聴取の基本 酸素ボンベの取り扱い方 吸引（口腔・鼻腔） 吸入法（超音波ネブ） 酸素吸入 〇温罨法（温枕の作成） 〇冷罨法（氷枕の作成）	呼吸訓練（術前） 〇肺理学療法 体位ドレナージ法		体温調節 〇酸素吸入法 〇気道内加湿（ネブライザー） 〇口腔内・鼻腔内吸引			〇在宅酸素療法の管理 在宅での気管内吸引 在宅の気管切開部管理 〇在宅人工呼吸の管理	
創傷管理技術			創傷処置（創保護、包帯法） ドレーン類の挿入部の処置	褥瘡予防のケア 創傷処置（創洗浄、創保護）					
与薬の技術		経口薬・経皮・外用薬の投与、坐薬の投与 皮下注射、筋肉内注射（臀部模型・上腕模型） 点滴静脈内注射（静注模型） 〇輸血の管理 ☆皮下注射 薬剤等（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍を含む）の管理 静脈確保			〇シリンジポンプの基本的な操作 〇輸液ポンプの基本的な操作 経口薬の投与 〇吸入	〇K2シロップ投与			☆ハイリスク状況下での点滴作成 点滴静脈内注射の管理
救命救急処置技術	☆上級救急講習による 心肺蘇生法、止血法 除細動器使用法 緊急時の応援要請 傷病者管理・搬送法 外傷の手当て（包帯法・副木固定法・熱傷処置）								トリアージとタッグの記入 包帯法（三角巾） 担架・毛布での搬送 緊急時の応援要請
症状・生体機能管理技術	簡易血糖測定 簡易尿検査 耳鏡	静脈採血法 ☆バイタルサインの測定 身体審査の方法（問診・視診・触診・聴診・打診） フィジカルアセスメントの実際（胸部、呼吸音、心臓・血管系、腹部・蠕動音など） 眼・耳・神経系（瞳孔反射、腱反射） 身体計測（身長・体重・胸囲） 検体（尿、血液等）の取り扱い 検査の介助	患者指導 術後の観察 ドレーン管理 〇腹部のフィジカルアセスメント 〇十二誘導心電図		☆バイタルサイン測定 〇身体測定 〇ハルンバッグ採尿法	妊婦の腹囲と子宮底長の測定 レオポルド触診法 胎児心音聴取 新生児のバイタルサイン測定 新生児の黄疸の測定 〇新生児の体重測定 〇新生児の聴覚検査 〇新生児の採血 褥婦の子宮収縮状態の観察		対象に応じたアセスメント	酸素療法の管理 点滴静脈内注射の管理 悪寒戦慄への対応 呼吸苦への対応 低血糖への対応 採血 チューブ類挿入中への対応
感染予防の技術		衛生的手洗い スタンダードプリコーション　必要な防護用具の選択・着脱 無菌操作：滅菌バッグ・消毒綿球・鑷子・滅菌包みの取り扱い 感染性廃棄物の取り扱い 針刺し事故の防止、事故後の対応				衛生的手洗い スタンダードプリコーション			針刺し事故の防止、事故後の対応
安全管理の技術		インシデント・アクシデント発生時の速やかな対応 患者の誤認防止策の実施 人体へのリクスの大きい薬剤のばく露予防策の実施 酸素ボンベ	心電図モニター	転倒・転落予防の援助	転倒・転落・外傷予防（抑制） 〇おくるみ法〇抱っこ 〇心電図モニターの操作管理	コットの移送		〇医療廃棄物の取扱い 人工呼吸器	インシデント・アクシデント発生時の速やかな対応 輸液ポンプ、シリンジポンプ
安楽確保の技術		安楽な体位 マッサージ				産痛緩和法 新生児の抱き方・寝かせ方			
コミュニケーションの技術		患者・家族とのコミュニケーション 医療スタッフとのコミュニケーション	終末期患者とのコミュニケーション	感覚機能に障害のある高齢者とのｺﾐﾆｭｹｰｼｮﾝ	患者・家族とのコミュニケーション 〇プレパレーション レクリエーション	〇妊婦・産婦・褥婦及び家族とのコミュニケーション	〇SST コミュニケーション 〇再構成	初回訪問とマナー 家族への指導	チームでのコミュニケーション SBARでの報告
その他		〇シャワー浴介助 放射線被ばく防止策	〇シャワー浴介助 放射線被ばく防止策	高齢者体験 〇シャワー浴介助 放射線被ばく防止策		〇妊婦体操・産褥体操 マタニティエクササイズ 乳頭マッサージ 産婦の呼吸法とリラクゼーション 〇個別指導		〇社会資源の活用	複数患者の受け持ち 割り込み状況への対応

各看護学で学習する中範囲理論等

	心理学	社会学	人間関係論	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
ニード理論	○			○						○
ケアリング				○						
人間関係論			○	○					○	
セルフケア理論				○	○			○	○	○
家族理論		○						○		
ライフサイクル理論 発達課題論	○	○			○	○	○	○	○	○
役割理論		○						○		○
ストレス理論 ストレスコーピング	○				○				○	
自己効力理論		○			○					
危機理論					○				○	
死の受容過程	○				○	○				
自己概念	○									○
分離不安	○						○			
母子相互作用	○							○		
愛着理論							○	○		
病みの軌跡モデル					○	○				
ボディイメージ					○			○		
エンパワーメント					○					○
適応理論							○			
ソーシャルサポート		○								○
ストレングスモデル						○			○	

51回生　年間学校行事及び課外授業時間数

行事、学年運営等を通して、協調性、主体性を身につけ人間的成長をめざす。

区分	項 目	目 標	1年次 時間数	2年次 時間数	3年次 時間数
行事	入学式	式典を通して祝福と激励を受け、看護学生としての自覚をもつ。	4	2	2
	戴帽式	祝福と激励を受け、看護学生としての責任を再確認し、自覚をもつ。	2	4	2
	卒業式	学則第13条に基づき、修了認定を受けた者に対し、本校の卒業生であることを認め、専門職業人としての自覚を高める。	2	2	4
	始業式	新学期にあたり、看護学生としての自覚と誇りを持ち、専門職業人としての自覚を高める。充実した学生生活を送るための動機づけとする。	―	2	2
	終業式	当該学年度に於ける学業の成果、学習態度について反省し、次学年に向けての心構えをもつ。	2	2	―
	健康診断	学校教育法に基づく健康診断を実施し、各自に健康状態を確認する。	4	2	2
	防災訓練	火災及び災害の予防のあり方と災害発生時の対処法を身につける。	4	4	4
	☆学校祭	日頃の学習、研究の成果を地域の人々に発表する機会とする。	12	12	12
	☆体育祭	新入生の歓迎と学生間の交流をはかる。	6	6	―
課外授業	ガイダンス	教育課程や学校生活、就職活動の概略を知り、計画的に行動するための指針とする。(情報セキュリティ・個人情報保護、就職ガイダンスを含む)	16	8	2
	修了認定試験	授業時間内に修了認定試験が実施できない科目の修了認定試験を行う。	-	1	―
	講演会	講演を聞くことにより、知識を得、豊かな心に育てる機会とする。	2	2	2
	実習準備	実習での学習効果をあげるために事前準備を行う。	―	2	2
	実習まとめ	実習での学びを共有し、自分の課題を明確にする。	―	4	4
	安全教育	医療安全に関する意識を高めるとともに、実習における看護学生の責任について学び、医療安全に努める。(「臨地実習における安全教育」の一部)	2	1	2
	戴帽式準備	戴帽式を迎えるにあたって、その意義を考え戴帽式に臨む準備をする。	4	4	―
	音楽	式典の前に校歌等の練習をする。	―	2	2
	国試対策(補講・模擬試験)他	国家試験準備のため、模擬試験を行うことにより、自分の実力と課題を明確にする。また補講を受けることにより、既習の知識の整理をし国家試験のための準備を整える。	6	14	106
	ケーススタディ	ケーススタディの準備や発表会への参加を通して、今後の学習・実習の動機付けとする。(看護学生看護研究学会に参加を含む)	4	4	4
その他	クラスアワー	各学年の目標達成するために自己啓発し、相互理解に努める。 クラスが抱えている問題や周りの環境を自主的に解決する力を養う。	12	12	12
合　計			82	90	164
			336		

☆学生自治会協賛行事

「東京都立看護専門学校におけるコミュニケーションに関する到達目標」について

都立看護専門学校では、平成２３年２月厚生労働省から示された「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」をもとに平成２５年度より検討を重ね、各学年におけるコミュニケーション到達目標を設定した。

コミュニケーション能力は、すべての看護の基本であり、看護師に求められる実践能力のひとつである。入学時から自己のコミュニケーション能力を到達目標に照らして振り返り、看護師として必要なコミュニケーション能力の獲得に取り組んでほしい。

東京都立看護専門学校におけるコミュニケーションに関する到達目標

1年次

〇クラスメートやグループメンバー、及び教員や実習指導者と良好なコミュニケーションを取ることができる。
〇教員や指導者、グループメンバーの支援を受けて、患者の状況に気づき、1対1のコミュニケーションを取ることができる。

１－１　いかなる相手に対しても、ひとりの人として尊重した態度で接することができる。
１－２　言語的および非言語的な手段を問わず、他者に不快感を与えずに交流することができる。
１－３　相手の話を関心を持って聞くことができる。
１－４　自分の意見や考えを適切に伝えることができる。
１－５　患者の表情やしぐさの変化に気づくことができ、患者と話をすることができる。
１－６　実習指導者や教員に必要なことを伝えたり、質問したりできる。

2年次

〇自己理解に努め、対象及び対象を取り巻く人たちの言動の意図や意味を考えてコミュニケーションができる。

２－１　学生チームの中で意見交換をすることができる。
２－２　苦手意識を持つ他者に対しても自己コントロールして対応することができる。
２－３　患者及び家族に関心を寄せて接することができ、相手の思いを聴き、共感することができる。
２－４　相手の受け止め方を把握し、相手に合わせて対応することができる。

3年次

〇過去・現在・未来のみならず、環境や関係者など変化する状況をふまえたコミュニケーションができる。

３－１　他者との壁を作ることなく自分から近づいていくことができ、相互作用の中から自己を成長させることができる。
３－２　相手の思いを引き出すことができ、口に出さないメッセージを察し、確認することができる。
３－３　適切なときに適切な人に相談や援助を求めることができる。
３－４　看護者としてのコミュニケーションを振り返り、相手にとっての意味を考えることができる。
３－５　状況に応じた解決策を見出し、看護チームの中で意見交換できる。